

●ともに歩く女たちの雑誌

ねふ

wife・NO.173.

特集● 女とお金

- インタビュー・大成功! 夫の月給の人民管理 和田勉
- アンケート・主婦の活動費・その出どころ ●座談会・月給袋を預かってみれば
- 男と女の金づかい 丸山友岐子 ●わいふ家庭科・どぶろくを作ってみよう
- 女・その原点 ヨネヤマ・ママコ ●男の仕事に乗っとう 不動産コンサルタント



貴女の腕前を見せて下さい!

たった一度の人生で
“私なりの能力を社会の中で発揮したい”
とお考えではないでしょうか。

女性は全員家事能力だけ——、というのは不思議なはなし、殊に子育てのあとの人生は自分のキャリアを活かして生活したいと思えますね。

それには今の生活を考え直す必要があります。

確かに生来の知的能力は男性と変りないけれど訓練の累積で差が出てきます。

■^{どういふ}十印は出来る範囲で貴方のキャリア作りと仕事を結びつけるお手伝いを致します。

●業務内容のご紹介

翻訳／通訳／編集・レイアウト・
デザイン／校正／英・和タイピング／英・和ワードプロセッサー（編集機能つきタイプライター）オペレーション／タイプセッター（欧文電算写植機）オペレーション／一般事務 他

●勤務の種類

社内勤務／自宅勤務／顧客先への出向勤務

●キャリア訓練システム（例）

- 語学の出来る方は技術翻訳の訓練コースを週2回位6ヶ月間受けていただきO.J.T（仕事をしながら覚える）方式でキャリアを積み、自宅、又は社内勤務となります。
- ワードプロセッサーのような新機種は一定時間訓練をして社内又は、顧客先勤務となります。
- 編集、レイアウト等は一定期間O.J.Tで社内訓練をし、自宅、又は社内勤務となります。

※尚、くわしいことは人事部・関屋、星までご相談ください。



株式会社

十 印

〒105 東京都港区芝2-14-6

電話 (03)455-8711 (代)

主婦のための 女性問題入門

全3巻

佐藤洋子・樋口恵子
子・中島通子編

各1200円

- 第1巻 女の心と体・結婚 (11月25日発売)
①主婦にとって自立とは・佐藤洋子 ②夫婦とは・吉
武輝子 ③女のからだとの結びつき・河野貴代美
第2巻 共働き・離婚・友だち (82年2月刊)
①共働き・佐藤洋子 ②離婚はこわい・佐藤洋子 ③
夫の再教育・樋口恵子 ④男と女・女と男
第3巻 子育て・自立・老後 (82年5月刊)
①子育てを助けるもの・武田京子 ②子どもの
性教育・樋口恵子 ③子離れ・永畑道子 ④子育て
と老後・永畑道子 ⑤といはすに・中島通子

お子育て

保育所の子と
ちと七人のわが子

黒岩秩子

小さな町の小さな保育所
に大きな保育さんがある
1200円

子を持つ女が輝く時

佐藤洋子 現代女性の自立

1200円

〒101 東京都千代田区三崎町1-2-2 電話 03(291)3571・(295)2834

月刊 望星 '82 1

THE BŌSEI

発売中

定価350円

●特集●

暮らしに「やさしさ」を置く

☐ 生きることと他者への思いと

対談／高史明・郷静子

☐ 「やさしさ」と厳しさと一親鸞をたずねて

対談／石田瑞磨・山崎龍明

☐ 暮らしを支えるやさしさとは

早船ちよ 広津桃子 太田愛人 荒牧規子

暮らしを考えるための雑誌

真の豊かさを問い
共生感あふれる暮らしを
創り出すために、今—

〈望星バックナンバー・1981〉

- ▶つきあい—新しい地縁へむけて(12月)
- ▶くらしを詠む—短歌・俳句への誘い(11月)
- ▶「手」の仕事を見直そう(10月)
- ▶日本人の生活史を点検する〈戦後篇〉(9月)
- ▶日本人の生活史を点検する〈戦前篇〉(8月)
- ▶くらしのための文章読本(7月)
- ▶話し言葉をみなおそう(6月)
- ▶女の生き方とくらしの文化(5月)
- ▶豊かさとは何か(4月)
- ▶現代「親父」考(3月)
- ▶新しい井戸端会議を作る(2月)
- ▶子離れのすすめ(1月)

発行／東海教育研究所 東京都新宿区新宿 3-27 4

TEL(352)3494 振替 東京2 7100

わいふエティックギャラリー 詩・石垣りん 絵・岡田正子 ④

新東京風景・銀座雅楽堂 ⑥

女・その原点 ヨネヤマ・ママコ ⑩

暮らしのなかのアメリカ ●第五回 ●生き残るために 北詰由貴子 ⑫

エコー／対話のページ ⑫

●新聞配達記に寄せて／匿名希望 ●再就職セミナーに参加して／桜井幹子

私の視点 野村純子／長縄幸子 ⑫

■特集■女とお金

特集投稿 ■ ⑫

働き育てる私の意見 片山明子／「女とお金」のテーマは酷だ 坊照代

大黒柱倒れ母イキイキ 平田幸枝／いま、社会参加をしないバカ 三井早穂子

専業主婦と金と税金と 小松雅子／日常生活の中にも経済感覚を シヤー真理子

離婚してみつけたもの 小宅昌枝

アンケート ■主婦の活動費・その出どころ ⑫

男と女の金づかい 丸山友岐子 ⑫

インタビュー ■大成功！ 夫の月給の人民管理 和田勉 ⑫

ねふ 173号

■座談会■月給袋を預かってみれば

主婦は「しごとをしない」ひと？ 田中喜美子 68

コミックライブラリー！ あなたの夫を信じますか 絵・西田淑子／案・加藤みずえ 70

クリスマスとこどもたち 高宮みか 73

男の避妊どこがわるい？ 広戸きくみ 78

●情報コーナー 61 ●投稿規定 142 ●編集だより 143

へいわふ家庭科 ドブロックをつくってみよう 84

子育て会議 本間千代子／野村瑞枝 90

うちの子のした病気 矢崎桃枝 私のアドバイス 毛利子来 94

最男の嫁って何だろう 山本和代 98

私のえらぶ画家 ④「清水洋子」佃堅輔 102 サークルだより 104 書評 122

男の仕事に乗っとう——不動産紹介業

女とファッションの戦後史 和田直久 114

問はずがたり抄 絵・島居禎子／文・和田好子 124

らうんど・てーぶる 132

林美智世／里憲子／市川志緒美／細野清美／赤松羊子／堀田恭子／
大谷伊津枝／原三枝子／M・H・松村紀／飯島弘子／桐島美恵子／
井手野百合子／M・S／松村弘子／島崎春江

表札

| わいふ | | | | |
|-----|---|---|---|---|
| ポ | エ | テ | ツ | ク |
| ギ | ヤ | ラ | リ | ー |

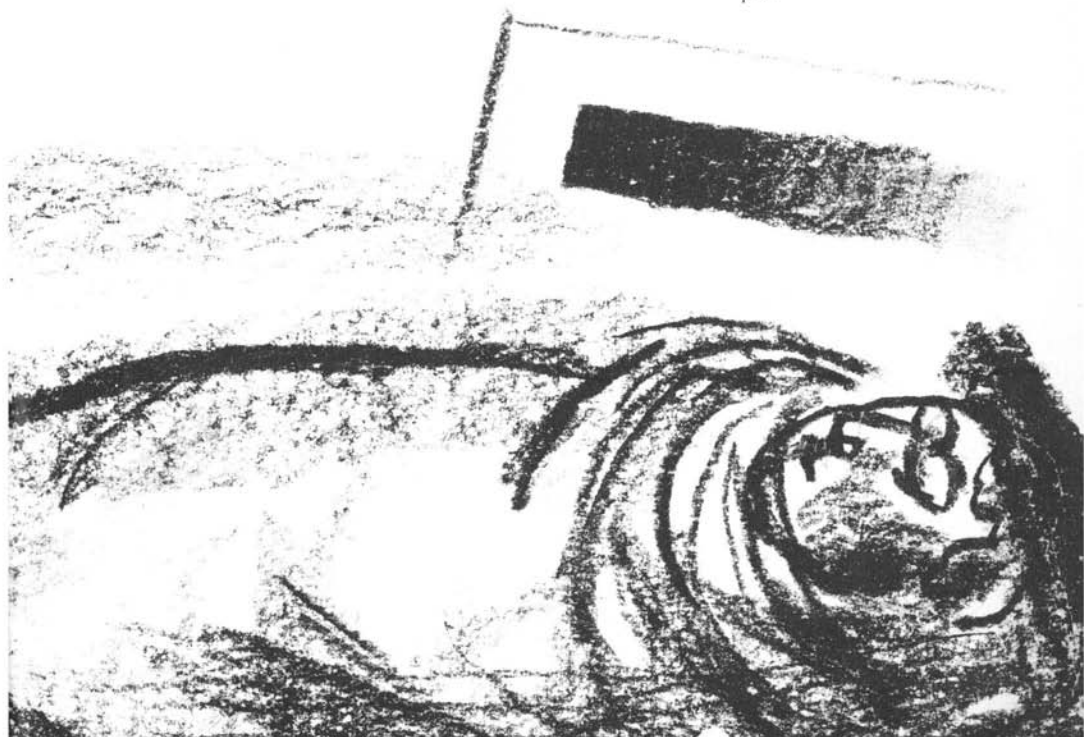
●時
石垣 りん

●絵
岡田 正子

自分の住むところには
自分で表札を出すにかぎる。

自分の寝泊りする場所に
他人がかけてくれる表札は
いつもろくなことはない。

病院へ入院したら
病室の名札には石垣りん様と
様が付いた。



旅館に泊っても

部屋の外に名前は出ないが
やがて焼場の鐘にはいると
とじた扉の上に

石垣りん殿と札が下がるだろう
そのとき私がこぼめるか？

様も

殿も

付いてはいけない、

自分の住む所には

自分の手で表札をかけるに限る。

精神の在り場所も

ハタから表札をかけられてはならない

石垣りん

それでよい。



新

東京風景

しんとうきょうふうけい

銀座雅楽堂

珈琲専科みゆき館……ステークサロン・
タンビニコ……ブロードウェイギャラリー
銀座店……、雅楽とは縁遠い店が各階にひ
しめく、銀座みゆき館ビルの最上階。

エレベーターをおりて「録音スタジオ」
の札の出ている白木の扉を開けたとたん、
別天地が広がる。

真紅の欄干に白砂をめぐらし、緑色の布
を敷きつめた舞台は極彩色の中国風。藤色
のカーペットと同色の座席、白木のインテ
リアは日本風にみやびやか。

九月の末にオープンしたばかりの銀座雅
楽堂。ナウな街銀座と雅楽堂の、一見不思
議なこの組み合わせは、日本文化の現在を
象徴している。

ここ三〇四年、急上昇した雅楽の人気。
公演の度ごとに、国立劇場を天井さじきま
でいっぱいにするそのファンは、なんとほ
とんどがジーンズ世代。ジャズ、タンゴ、
シンフォニー、いろいろやってみただけで雅
楽がいい、という若者たちなのである。入門
すると驚くほど覚えが早く、昔なら七年か





上・多 忠磨さん
右・飯島奈美子さん



かったことをたった四年でマスターする。いまや、前衛の作曲家・演奏家たちにも取り上げられ、新しい音楽芸術のジャンルとして雅楽がもてはやされる秘密はなにか。

西洋音楽は感覚を昂奮させるが、雅楽は逆に、沈静させる。ハードな音楽に対するソフトな音楽。欧米人が雑音ときく虫の音を、音楽として左の脳で受けとめる日本人の、新しい文化的アイデンティティへの模索の試みが雅楽の人気をつくる、と語るのは、雅楽堂の頭取の多忠磨さん。京都生まれ、



れの芸大出。えぼしひたれたれに身をかため、自らも雅楽を演ずるフロ、知的な眼差に機関銃の早口のこのひとは、大安万侶三十九世の子孫（//）

雅楽堂のオーナーは、嬉しいことに女性、亡父の遺志をついで、銀座能楽堂のオーナーでもある飯島奈美子さんである。

女人禁制のタブーが戦後解けて、今日も舞台上に、花ざかりの乙女がひたむきに舞う。

文・田中喜美子
写真・野村 路子

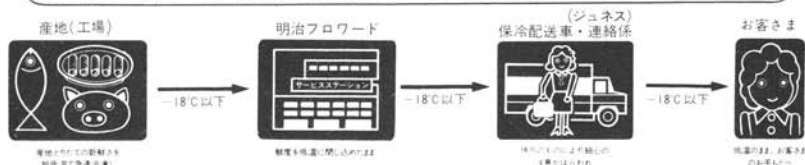


(株)明治フロワード

あなたの人生とのおつきあい！ 人生をクリエイトなさいませんか！

- 明治フロワードでは……自宅でお友達おさそい合せてホームパーティを開いて下さる方(ジュネスの方)を求めています。
- 明治フロワードでは……出会いを大切に仕事に生かして下さる主婦の方を求めています。
- 明治フロワードでは……地域社会の向上と、豊かな食生活を演出して下さる方を求めています。
- 明治フロワードでは……お料理の勉強しながら冷凍食品についての理解を深めて自立し、人生をクリエイトする方を求めています。

産地工場とご家庭を直結させた理想的コールドチェーン



- ①生産地で急速冷凍された冷凍食品は、-18℃の低温に保ったままダイレクトにお宅までお届けします。
- ②流通過程の時間短縮と単純化により、鮮度の高いものを低価格で提供できます。
- ③野菜・肉・魚などの素材品から調理品まで、普通のスーパーに近い種類と豊富な商品群が揃っています。

募集地域

- 三多摩(町田・保谷・調布・三鷹・立川・国立・国分寺・八王子) ●東京都全域(足立・板橋は除く) ●神奈川県(横浜全域・川崎全域・海老名・厚木・藤沢・茅ヶ崎・鎌倉)

(株)明治フロワード 大和市つきみ野1の1の40 TEL 0462(76)4041

わいふ

173号

語りあってみませんか
歩きだしてみませんか

走って
とびあがって
立ちどまって

女の生き方を
探ってみませんか

わいふは
みんなでつくる雑誌です

女 その 原点



ヨネヤマ・ママコ

それは、日本人が初めて目にする踊りであった。ブラウン管の前の人々は、そのバタクささに反発しつつ、パントマイムの動きに魅せられた。

妖精バックに扮してNHKテレビに登場したヨネヤマママコは、一夜にして有名に

なった。そして続く一瞬、同じマスコミがママコを残酷に踏みつける。

当時は誰も予想しなかった。嘲りの的になった若い女性が、不死鳥のごとく生き抜くことを。

ママコは山梨県身延山の旅館の娘として生まれた。幼い娘にバレエの手ほどきをしたのは、石井漢に師事していた父親である。

上京して東京教育大体育学部に入學した彼女は、江口隆哉、宮操子のモダンダンスに魅せられ、その研究所に通いつめる。時刻になってから大学に出かけ、ただひとり暗い運動場で深夜まで踊り、男装してぶっそうな夜道を帰る毎日。

そのころ初めて来日したマルセル・マルソーの舞台が、ママコの方を決める。このユーモア、諧謔、風刺、エスプリ。まるでシャンソンを動きで現わしたような芸。自分の個性を生かす表現形式をそこに発見したのである。

電波に乗って有名にはなったものの、パントマイムの批評眼を持った人間は、当時

の日本にはいなかった。あるところに「ママコのクネクネダンス」と書かれると、どの記事にも同じ表現が使われる愚劣さ。若い彼女はそれに対して、「まだ、聞いた方を知らなかった」。

同じ頃俳優岡田真澄氏と二年間の契約で入った結婚生活は、一年ほどで破局を迎える。ヨネヤマママコの私生活は、週刊誌ジャーナリズムの餌食になった。男に捨てられたみじめな女、妻らしく尽くすことをしない、捨てられて当然の女……。

二十四歳のママコは、痛みと苦しみを背負ってアメリカへ旅立った。

先生についてマイムを習おうとはせず、自分に似合った芸を創出しようと、心のつぶ声だけに耳を澄まして、異文化の中で生活する。

日本を離れた孤独、女としての孤独、芸の上での孤独。のちに孤毒の字で表現した三重の地獄は、人間としてのすばらしい自由にもつながっていた。

ナイトクラブに出演している彼女を、カリフォルニア大学がマイム講座の教師とし

て迎えに來た。まだ言葉も充分話せないアジア人のアーチストに、大学で教える地位が与えられる——独自のものを持つていれば、必ず網ですくいあげてくれる社会であった。

ミュージカルを育てたアメリカ人は、空間芸術を愛している。ごく普通のおじさんおばあさんが、遠いところからママコのマイムを見るためにやってきて熱狂する。楽屋にとびこんで来る観客は、「ワンダフル!! ブリリアント!!」と讃辭を投げかけてくれた。舞台の芸人と熱い交流をし、その芸を育てていく観客が、ここでは厚い層をなしている。

年月が経ち、望郷の念にかられて日本に帰ろうとするたびに、「あのヨネヤマママコ」を嘲笑する週刊誌記事によって帰る気をそがれてしまう。結局、アメリカ滞在は十一年に及んだ。

そのあいだにも、いくたびか恋をした。男性と暮せば必ず要求される毎日の家事労働は、マイムを生み出す内面生活をすりへらしてしまふ。あまりにも繊細な、こわれ

やすい世界を抱いて生きるむつかしさ。別れを告げ、血を流して自分の生を救いあげてくることをくり返す。女であるママコは、自分の生活パターンを確立するまでに、長い模索が必要だった。

日本に帰ったママコは、「ママコ・ザ・タイムスタジオ」を設立、二百人の生徒にマイムを教え、各地で公演している。二十年前とちがって、日本の観客も変わ

ってきた。パントマイムを見る側に必要な知的想像力を持った観客が育った。また、ジャズダンスなどが流行して、身体を動かす女性が増加することが、彼女の芸を受け入れる土壌となっていく。

これからだ、とママコは思う。半生記『砂漠にコスモスは咲かない』(講談社刊)は次々にマイムファンの手に渡り、増刷を重ねている。

それにしても、公演旅行の新幹線で会う出張サラリーマンの、無表情なヒドイ顔。

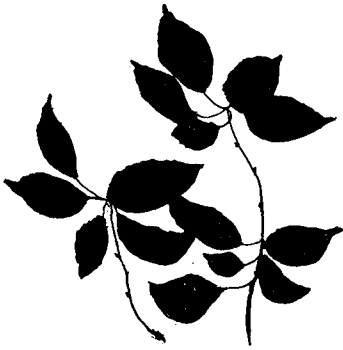
「ああいうのを見ると、ネクタイをチョンと切り落としたいくなる」と言うママコの二本の指が、鋭利な鋏になってきらめいた。

いま彼女は、紀伊国屋ホールで開くクリスマス公演の準備に追われている。「MA MA KO 生きていくことの美しさ、哀しさ、凄絶さ——。いま沈黙の中で語る人生」と銘打ったママコの一人舞台だ。

肉体で空間に人生を描き、詩をつづる。ママコがそれをやめるのは、その肉体が減る日なのであろう。

(鈴木由美子)

似顔絵・西田淑子／カット・松本をきえ





●暮しの中のアメリカ(5)

生き残るために

北詰 由貴子

ところでミセス・ナコウニイはこれ

ほど熱心に市民教育の一步を一年生に
教え込もうとするのであるが、ときお
り小さく地団駄を踏んで、「おお、ア
ングロサクソン」と力を入れて叫ぶこ
とがある。英語というのはおかしな言
葉だ、というのだ。彼女の前の母国が
顔を出すのだ。父母の国は彼女の前世

のようなものである。

常にイギリスを志向し続けてきたア
ングロサクソンの末裔と、そこへ合流
したヨーロッパ民族で構成されるホワ
イト・アメリカン以外の人々は、みな
この大陸文化の外に自分の故郷を持っ
ている。それが仮りにまだ見たことの
ない父母の国であってもそうである。

よく簡単に、それは血だ、という言葉で説明されれば、あっさり得心して引き下がってしまう事柄がある。血というのは私たちが怪我をした時に流す血のことで、もし大量に血を流したら輸血すればよいというような認識とは別に、人間の過去を保有し、未来を左右する運命的な作用をするもの、という理解の仕方がある。血液中の遺伝因子の中に運命もプログラムされていると聞けば、ああそうか、と思わないでもないところもあって、いずれは運命の運命も解明されるかも知れない。が、いずれにしても、この大陸で生まれて育っても、祖国の言葉が判らなくても、故郷の血が反応することがある。

以前、ロンドンで街角の肉屋に入り、その主人に、日本人か、と聞かれて、そうだと応え、私の祖父が日本人だった、といわれていいようのない気持ちになったことがある。そんな遠い時代に———という思いと一緒に、血が反応したとき、いいようのない感激が

あった。多分、彼が髪と眼が黒いという以外はまったくのイギリス人であつたから、そう感じたのだ。ロンドンの街角で普通の日本人に出会つたって、それは何ともない。ただ「ごきげんよう」である。眼に見えないものと繋がっているということは、いったい何なのだろう。

そういえば、主人も、^{すがたかた}姿形まったくのアメリカ女性に、私、日本人、といわれて、どきまぎしたことがある、と言つていた。しかしアメリカではそういうことは充分あり得る。この大陸はそういう見えない部分を含めてのどんな消化吸収力を持っているのだ。そしてこれらのホワイト文化圏に同化されない部分が、この国のバイタリティになつてゐるのではないだろうか。エスニック・グループの運動といったような組織勢力のことではない。同じ一人の人間の中で、ワスプ教育機構の中に同化された部分と、「ちえっ、アングロサクソンめ」と反撓する部分が

共存していることが、エネルギーとなつて噴出する。

英語の授業ばかりでなくて、最初に並べた各種の成人教育のクラスを受け持つ教師たちは、この国の入り口に立つ人々である。

もちろん、はじめはワスプすなわちホワイト・アングロサクソン・プロテスタントといわれるこの国の中心的存在が、入り口に立つて道案内をしていたのが、これらの教育機構であろう。しかし今では、ユダヤ人や、何系であるのか私にはよくわからないが、まったくのホワイトではないさまざまな中間階級の人々が入り混つて、遅れて入ってくる人々の先導者として、この仕事に携わっている。彼らはどのように混血しようと、純然たるアメリカ市民であつて、最初にイギリス人が本国から持ち込んで来た言語、生活様式、教育をしっかりと踏襲している。

現在、この大陸に芯になるワスプは

わずか20%といわれている。初期の大
陸は確かに彼らだけのものではあつたか
も知れないが、次々と渡ってくる移民
たちを抱えての、この同化力は何であ
つたのだろう。

私はロンドンで幼い娘たちが熱心に
英語を教え込まれ、まるで部族の一員
のように迎えられているのを見て、英
語をマスターした子どもたちは、もう
日本人ではなくてイギリス人だと実感
したことを思い出した。

それから、映画マイフェアレディー
を見たときも「なるほど、なるほど」
と、うなずいた。

教育して自分の社会の一員に加える
ということとは、排他的でありながら、
同時に寛容なことなのである。異邦人
であっても、手渡されたものは同化さ
せようとする。ロンドン下層のコクニ
イと呼ばれる言語をしゃべる娘を拾い
上げ、教育した上では充分に評価し、
「お見ごとノイライザ、マイ・フェア
・レディー」と、惜しげもなく賞讃す

る。

そのアングロサクソンが、海を渡っ
てみずからもアメリカ人になりながら
多くのアメリカ人を育てた。私はアン
グロサクソンが真価を発揮したのは、
アメリカ大陸においてではないかと思
っている。偏屈な人種といわれたイギ
リス人がピラミッド型社会の建設に費
やしたエネルギーを大陸にまき散ら
し、混血し、過去のない人種となった。

神はひとり。そして地上はホーリイ
スピリットに導かれ、滅びるものは滅
び、強いものは強く――

ミセス・ナコウニイが、ハロウィン
・パーティーの真似ごとをしてくれた
り、冬着の心配をしてくれる頃にな
ると、もうあたりは一面の落葉である。

ハロウィンの夜は、アメリカ中に吹
き飛ばされた落葉の中の古い祭祀だ。
イギリスにはチャールズ一世暗殺計
画を企てたガイフォークスに名を借り
た火祭りがある。公的にはその由来を
現わさないでいるけれど、その妙に人

の心を駆り立てる祭りの正体は、どう
考えても呪咀の誘惑に違いない。ハロ
ウィンは、おそらくはガイフォークス
と軌を一にする祭りであるうけれど
も、火祭りではない。かぼちゃの提灯
をともし、登場人物たちは商業化され
お化けも幽鬼も茶目つけたつぷりに稀
薄化されている。祭りの担い手は子ど
もたちである。しかし大人たちもハッ
スルして、あちこちでハロウィンパー
ティをやっている。夜の静寂に何者か
が彷徨している気配さえする。

それにしても念入りに化粧を施さ
れ、衣裳を着けてもらったゴブリンや
ドラキュラ。子どもたちのあとを、親
がそっと従けている。お菓子をくれる
相手の挙動に気を配っているのだ。ハ
ロウィンが近くなると、子どもたちに
気を付けるようにと、テレビがやかま
しくいい出す。ハロウィンの夜にな
くなる子どもたちは多い。食べもの
はもちろんよく気を付けなくてはなら
ない。悪質ないたずらが絶えないから

だ。けれどもそれほどに危険があっても、祭りはなくならない。子どもを主役に仕立ててはいるが、悪鬼にキャンディを施す側の大人たちも、変装して待ち構えている。今夜は特別な夜なんだから――

私のアパートメントの斜向かいに住んでいるアラブ系の夫婦は、まるでアラビアンナイトの王様とお妃のような仮装をして、訪れる子どもたちを待っていた。子どもたちがドアを叩いてくれるのは、或る人々にとっては楽しみなことでもあるのだ。

危険は常時存在するものであって、それを前提に、回避しながら生き続けるのが、アメリカに生きる生き方であるように思う。危険のない状況などあるわけがなく、しかし、心をしっかりと持って気を配っていれば、大方は安全なのであって、底無しの恐怖心にとられて手も足も出なくなってしまうてはいけない。

日本人のように、危険予知能力を喪

失した民族もいることはいる。だが本来、人間の暮らしは、底無しの危険の中にぽっかりと浮いたようなものだ。しかし、というか、その故にとい

か、イギリスでは、その社会の子どもたちは非常に良く守られ、統率されていた。ところが、アメリカ大陸では子どもたちの風除けになるものがない、という感じなのだ。家庭は最も小さな単位の堡壘ではある。親もこの夜は従っていてくれる。しかし子どもたちは、もらったお菓子に毒が入っているか、剃刃が入っているかという可能性は頭に入れた上で、無邪気にサンキューというのである。食べる前には親も一緒に吟味する。腐ったものがあっても恨んではいけない。無差別にもらったものではないか。

確率としては極めて低いこのような事態でも、起こり得ると考えること自体が、日本人である私にとっては恐ろしいことのように思われる。もしも、自分のもらったキャンディに毒が塗っ

てあったりしたら、それだけで、自分は世の中に裏切られたと感じたり、二度と他人を信用すまいと思ったり、物をもらって歩くことは止めようとか、そういう結論に陥り勝ちだ。しかしアメリカに住んで見ると、そういう結論が、いかに浅墓で早急なものが判ってくる。毒のものは除去すれば良いのだ。あとは全部、良いのだから――

子どもであっても、世の中全部が自分に優しく、良く計らってくれるものではないことは知っている。自分にとって良い状況を選び取る能力を持たせることが、まず最初の教育であろう。

心の底では決して他人を信用せず、しかも大らかに伸び伸びと子どもたちをはぐくむアメリカ大陸――草も木も大きく、風は強く、陽は明かるく、小鳥たちの賑やかなアメリカ。そして人びとが集うところでは、何処へ行っても、あのアメリカ、アメリカという歌が聞えてくるのである。

ハロウインはただ一晚の夜祭りであ

る。夜中、徘徊していた悪鬼どもも、翌日は四聖人の日とあって、夜明けとともにすっかりきれいになる。ここではカトリックの聖日が顔を出し、古い祭祀と上手に混在している。

ハロウィンが過ぎると、サンクスギヴィング、そしてクリスマスと一年の終りを告げる祝日が続き、やがて、年が暮れる。

もう、まったく葉を落とした林が一列に並び、その林の黒い幹の影を通して、黄昏の空が真赤に染まるのを見てみると、ああ、もう今年も終わるのだろうかと、何か感慨のようなものを感じる。この景色の向こうには、やはりヨーロッパがある。

広い空——鎌のような細い大きな三日月が、次第に暗くなつて行く中天から西の空へ辛うじて引つ懸っている。

サンクスギヴィングの木曜日から翌週始めまでは、ワシントンのようなところはすっかり空っぽになってしまふ。東京のお盆休みと同様で商店も閉

まり、残された人間にとっては面白くもなんともない。

娘は、学校友だちのルシアの家へ招かれて、迎えに来たお母さんの自動車^{クルマ}でノース・キャロライナまで行った。

まるで隣の見えない畠の中の大きな農家だそうで、そこで、おばあさん、別れた両親とそれぞれの連れ合いとその子どもたち、ルシアの兄妹という顔ぶれが賑やかに揃い、自分の家の農園から取った果物で自家製のパイを焼き、七面鳥をご馳走になって四日間を過ごした。アメリカの古い大家族制度が、この週ばかりは復活して、広い農場と家の中で、皆、思い思いに過ごすのだが、離婚した両親も、その相棒も子どもたちも、同じ屋根の下で結構仲良くやっている様子が、さすがの娘にも合点が行きかねたと見えて、

“内心はどうか知らないけど、みんな仲良くやっているの”
と、ちょっと注釈付きで報告してくれただ。だが実際には内心も何もないのだ

ろうと、私は思う。

別れたということにこだわれば、密着していたものを切ったという恨み^{ウラミ}つらみが残るだらうけれども、もともとが一人ずつ、ばらばらであるものが、あるとき一緒にあったということさえ、立派な親類縁者だといっても良いかも知れない。何しろ、この広い土地を耕すのだ。味方は一人でも多くしてかからなくてはならないといえはいる。

ただし、この辺の感覚が自分として得心が行くのは、なかなか難しい。

夜の十時頃、間違い電話がかかってきて、受話器を取ると、マイ・マミー、マイ・マミーと幼い子どもの声が伝わってくる。これは別れた片親にお休みなさいと云う子ども^{こども}の声だと思ふと、やはり、そんなに素直に肯定的な気分にはなれない。“あなたのマミーではない”と云うと、“*no, no, no*”と、気色ばんだ真剣な声が耳を打つ。タイムという雑誌にも、両親が離婚して子ども

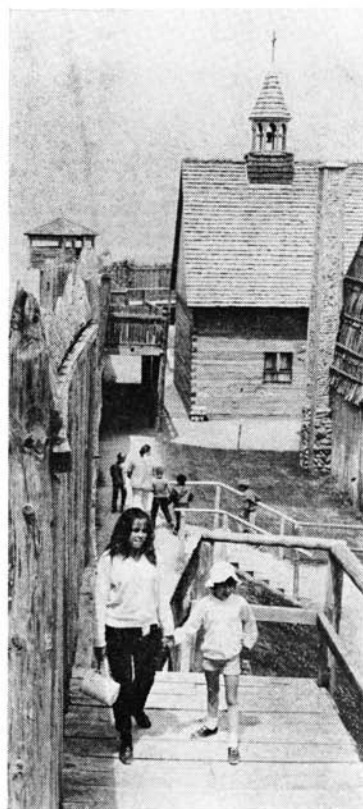
たちと別れるより、死んだ場合の方が、子どもたちにとっては幸せである。という記事が、さまざまのケースをあげて特集としてのった。子どもたちは、一見、何ごともなく見えるが、深く深く傷ついている――

心理学者がそんなことをいったって、親たちは愛とか恋とかの人權を返上するわけには行かないから、やはり、子どもたちは傷つき、放り出され乗り越えなくてはならない。ハロウインのキャンディと同じように、甘い愛がいつも自分たちを取り巻いているのではないことを思い知るのである。他人はおろか、両親さえ絶対的な信頼の対象ではないと思ひ知った上で、方法を講じれば、良い考えも浮かばうというものだ。

大人のくれるキャンディを信用しないで育つアメリカの子どもたちは、だからといって厭世的にはならないで、むしろ、それ以上に強く育つ必要がある。毒のないキャンディの収獲の多さ

を喜んで、毒のあるキャンディについては嘆かないのだ。つまり相対的な意味で、良い方を見ている。アメリカ人の底技けの陽気さ、屈託のなさは、こういう努力から来ている。不信に裏打ちされた善意によって、生きて行こうというのだ。

それにしても……といいたくなるのは、やはり日本の規範の中からアメリカを見ているからなのだが、やたら離婚の多いこと。私のコンバートメントの同じ階の向かいの部屋には若い母親と六歳ぐらいの一人娘が住んでいた。



朝八時には二人ともども家を出て五時には一緒に帰ってくる。保育所や学校の施設が母親の勤務時間に合わせて上手に受け渡しをしてくれる上に、夏期キャンプだのベビーシッターだのと、それはそれは便利にできているから、夜、寝るだけの暮らしをするには困りはしない。自動車の後に子どもを積んで出勤し、帰りに積んで帰ればよいようなものの、さて、子どもの側からはどんなものであろうか、と、ちょっと心配になってくる。この娘は大柄の母親によく似ていて、頬っぺたの赤いア

メリカ人形のようにかわいい。ただ、彼女が家にいる間は、機密性の高いアパートメントなのに、犬の鳴き声のような咳払いが絶えず聞こえていて気になった。週末には母親の母親が現われて、孫を連れてゆく。お祖母さんの家で、この娘は家庭を味わってくるのだろう。月曜日からは、また、同じルーティーンが始まり、プラスチックのお人形を抱えたこの娘は、咳をしながら出かける。

ところで、子どもがいない週末には、肝心の母親は何をしているのだろう。そのうち、しげしげと花束が届くようになって、二人とも、居なくなつた。

冬が来て、戸外を歩くことさえ何か恐怖を感じる零下の風が吹きすさぶ頃に、ミセス・ナコウニイは私を呼びつけて、「このクラスはあなたにはやさし過ぎはしないか」とたずねた。どこかほかへ行けといわれても、私は自分のアパートメントから歩いて行くこと

のできるこのクラス以外に足を伸ばす元気がない。第一、私は他の人が考えているほどにはできないということをも自分で良く知っているから、どうか、このまま置いて下さいと懇願する。

「あなたの授業は大変楽しいし、大変、有益であります。どうか——」

ほんとうに、宿題がいくらできても、実際には啞と同様である。それでもミセス・ナコウニイは遂に宣言した。

「ユキコ、私はあなたがいつまでもこのクラスにいることを望まない。あなたはアドヴァンスへ行くように。私はお母さんのように、あなたをプッシュする。判りますか。アメリカの母親は、子どもたちが早く家から出て行くようにプッシュする。ぐずぐずしてはいけません」

お母さんのように——、と彼女がいうには、実はそれなりの理由がある。彼女は自分のクラスの生徒が頭を酷使しないで遊ばせているのが気になるので、普通の宿題では余力があると見た

ものには、何か書いてこいと催促する。何かヒントを上げようと、小学校の教科書を手渡されたのでバラバラとめくると、充す Family という題で、家族の価値とそれに対する感謝の心の必要なことなどが書いてあり、古き良き時代の理想のようでもあったが、まだ、こういう心は中心に坐っているのかと心強くなって、アメリカへ来てから、しきりと家を出たがる娘のことを書いた。

彼女はこの国へ来てから大学に入り、友だちがほとんど家から出ているのに刺激されている。独立と自由が欲しい。けれども私たち両親は女の子に伴うさまざまな問題について心配しないではいられない。果たしてこの国のやり方が正しいのかどうか……というようなことを書いたのだが、それに対して、ミセス・ナコウニイは赤いインクでべったりと自分の意見を書いて返してくれた。あまりべた一面真赤だったので、私はこんなに文章を間違えた

かとびっくりしたくらいだった。それが、母親たるものは一日も早く子どもが巣立つようにブッシュすべきであるという、例の一件であった。

“女も男ありません。本質的に人間は同じ。子どもが独立したいと云ったら引き止めるべきではない。十八？おお、もう充分に時期が来てます。自分の脚で立たせなさい”

母親は女の子が十三にもなったら、どうしたら妊娠しないかということだけを教える。女の子は経口避妊薬を飲み続け、ボーイフレンドと暮らす。うちの娘？ 十八になるうちの娘には、私はピルを飲むことなど教えない。結局、独立もさせず日本へ連れて帰った。

寒風の吹きつけるバス停に立っていると、高等学校^{ハイスクール}の生徒が数人、バラバラと駆けつけてくる。泌みるような寒さの中にもジーンズで、靴だけは部厚く、上着は空気で膨れ上がったヤツケのようなものを着ている。まったく男

の子も女の子もない。バスが来ないと言ってガヤガヤと騒いでいる。見てみると、同じ服装でも身ぎれいな女の子がいる。小柄な肢体。整った顔立ち。きれいに化粧をし、指輪をはめた細い指で神経質に煙草を取り出す。何と

いっても若いからその肌のきれいなこと。私がつい、じっと見ていると、視線を感じたのかこちらを振り向いて、ふっと唇許を弛めたが、急に顔をしかめ、びっくりするような大声で、“バスが来た”と叫んだ。

女の子が他人の視線を受けて、ふっくらと育つというようなことは、この国ではないのだろうか。美しさに対する賞讃であっても、びりびりと尖^{とん}がり、身構えている。

バス停の後のショッピング・センターには、一列に並んだ店筋の中に一軒、特別に可愛らしい子ども服屋がある。ベビー服から幼児服まで、これらの服を着る年齢の子どもたちは、何を着せられてもちっとも嬉しくない時代なの

に、親は一生懸命に選んで、夢のような洋服を着せる。まるで、洋服の中に幸せが縫込まれているかのように――それはあたかもその時代だけが、母子^{おやこ}の幸せな年代であるかのように思わせられる。

カーター政権の後期になって、成人教育を受け持つあちこちの級が少しずつ閉鎖され始めた。それは、おや、と思えば思うけれどもそれほどの変化ではない。しかし、レーガン政権に移行して、予算カットが打ち出されると、事は明瞭になった。こういう末端に対する優遇措置は、やがて風当たりが強くなることだろう。もちろん、この施設はモンゴメリイ地区の行政に委ねられているはずだ。だが……

風向きが変わらないうちに、学べるものは学んで置かなければならない。この国で生きるということは、生き残らなければならないということである。

(完)

(写真・米国商務省観光局提供)

一七二号新聞配達記に寄せて

匿名希望

松本弘子さんの新聞配達記を読み、新聞販売にたずさわる者として、興味深く拝見いたしました。

配達員不足を結論づけて安い賃金のせいとしておられましたが、まさにその通りで大人のする仕事ではないのです。では販売店が不当に儲けているかと思うとそうではなくて月収四十万程度です。これは年八回の休みと朝三時半に起きる夫婦の報酬として決して高いといえません。俗に利口な人間のやる仕事でないといわれています。

経理を公開しますと新聞の利益を百万としますと五十万

Echo

が人件費として消えます。

外注費、拡張員に支払う額が二十万くらいで、その他車輛費五万、福利厚生費五万、その他消耗品、雑費、交際費、減価償却などで、私たち夫婦の給料はどこから出るかといえば、チラシの収入だけといえます。しかしそれとも新聞の赤字に喰いこまれていてチラシがへれば、つぶれる新聞店が続出するでしょう。

この業種は、前近代的な仕事で、やがては牛乳屋さんのように消える運命にあります。

この頃は共働きの増加し集金に行っても留守の家が多く夜の集金はどうしても男の大人の店員でなくてはなりません。大金を持ち歩くには女の人では危険だからです。そんなわけで人件費が経費に占める割合は大きくなります。

田舎は早起きの家が多く六時までに入れているという条件を

出されれば配達の子どもが五時半に出てくるのでは順番を一番に繰り上げて、やらねばなりません。

どこの家にも子どもはいるでしょうに、自分の子どもが配ることと置き替えてみたことがあるでしょうか。

新聞少年は、六時半に一般の子どもが眠りから覚めた頃に、汗を流し、お腹を空かして家に帰り着くのです。母子家庭や貧困家庭の子は、こうして眠りさえ削り取られて行くのです。

こんな現実を少しでも知っていただきたくてペンを取った次第です。

再就職セミナーに参加して

桜井 幹子 ■東京都渋谷区

一歩乗り越えるきつかけをつかみたくて、先日の再就職セミナーに参加いたしました。そして今、新聞求人広告を見て出かけたパートタイマーの、第二次面接の断りの電話をいれたところです。

勤務時間が初めの条件と一時間ずれてしまい、下の子供の幼稚園児の対策が崩れ、長女の定期的なぜん息の発作に、

ついつい気分的にもめげてしまいました。

また振り出しに戻ってしまいました。良い意味でも悪い意味でも働く、働かなくてもどうにかなる……どっちも選べる現状が、足ぶみさせるのでしょうか？

先日、セミナーのパネラーで出席、お話下さった高橋泰子さん（フリー校正者）のお話は、私にとって説得力のあるものでした。

というのも、マスコミや見聞できる方々のお話というのは、みなさん能力、気力すぐれ努力家であり、何かを得るためには、切り捨てる部分をいさぎよく切り捨てる勇氣を持っていらして……と、私のようにああでもない、こうでもないと思い、あぐくは切り捨てるどころか、自分のペー・スにうまくとり込む術も知らず、引きずり引きずられながらモタモタ歩いている……こんな私のごとき女性も多いのではないのでしょうか……。そんな実生活の重みと弱い部分をも大らかにのみこんだ高橋氏の生活と仕事ぶりにガン・バラナクツチャという気になりました。

……こしばらくは、アルバイトも細々と……という現状ですが、働くことに自分の心身、周囲を慣れさせておき、いつでもチャンスがきたときにつかみとれる状態にしておきましょう。まずは、再就職失敗のお知らせでした。

対話のページ

私の視点

障害者のえがく夢

兵庫県宝塚市 野村 純子

私は脳腫瘍の後遺症で右足の歩行が不自由になってから、外見的には非常に気の毒な姿になってみんなの同情を集めながら、その実かつてのだったらした自分のしらなかった生命のきらめきに満たされている。私のように後に障害を得た人（事故や脳外科手術の進歩でそのような人は増える一方だろうが）は少なからずそうした感慨を持って世の中を見直しているだろうし、先天性の障害者にはだから障害を持って生れたから必ずつまらない一生だなん

て思いこまないで欲しいと思っっている。障害があるという事は実生活上不便である。けれどもそれで障害者を不幸者の見本のように社会の片隅に押しやってはいけないうちまた自ら押しこまれていてもいけない。

近頃障害者はかなり積極的に街に出て人目にふれるようになってきた。人目にさらされる障害者がいるという事は反面そのような障害者を見る機会を普通の人々は多く持つという事であるが、人々はそれに対し良く適応できて

いるだろうか。多くの人は内心少なからず動揺して不快感さえ感じる。そして平静を装うために知らん顔をする。あるいはそこに障害を持つ人間が現れた事で突然身に覚えのない優越感を感じて不安にすらなるという。それはまだ日常生活で障害者の存在に慣れていないためではないか。障害者の人間としての実体をよく知らないためではないか。

私はここで宝塚ふたば幼稚園のＴちゃんとその周りの園児たちを紹介した

い。Tちゃんは先天性四肢障害児で片足には重い装具を付け手の指は一部欠損している。けれどTちゃんは入園した時からなんでもみんなと同じにできる。お着替えもぐずぐずする子より早いくらいだしスプーンに頼る子もいる年少の時から上手にはしを使う。何よりこそこそ障害をかくさず生活発表では堂々と舞台の中央で楽器演奏をし、みんなと一緒に劇をやった。その上率直に感想を表現する四〇五歳児にもまれても、まだ一度も泣いて先生に言いつけにいったことがない。まわりの園児達はどうだろう。私達が障害者を見て思う「なんで、どうしたん」を子供達は素直に出すし、あふれる好奇心でよくみようとする。TちゃんはTちゃんなりにTちゃんのことを話しているそうだ。聞いた子も「フーン」とそれなりにわかる。

Tちゃんは何をするにも一生懸命だ。子供達はそれを肌で感じる。「頑張りTちゃん」と思うし、できたらホ

ッとして「やったァ」と歓声をあげる。Tちゃんのクラスはだからとてもましまりが良くてかえって先生は楽なくらいだという。この子達はいい経験をしたなァと思う。この子達は大人になって街で障害者に出合っても不快や不安を感じる事なく平常心でいられると思うからだ。

障害者の障害は個性と同じで全く個別だ。だからそれに対しても通り一遍の同情的対応だけでは処理できない。が、まず障害者の完全参加のための第一歩は健康な人々が障害者の実態を正しく知る事からだと思う。目をそらさないで!! 私が生協生協と歩いているとむこうから自転車に乗った母子が来る。母親はむろん見えぬふり、それに対し後部座席の子供はふりむいてジロジロ見る。そんな時いつも私はニコリはほえむ。人生にはつらい事があっても決してそのままではないんだなァ。あの人あんな風に歩いていてもいい顔で笑ったよと子供心に思っ

もらえば上出来だ。また幼稚園の例をとれば子供の頃から幼児教育とやらの宣伝入りでいわゆるできる（ように見えている）子ばかりを集めた名門幼稚園はその点で偏っていて危険だ。世の中にはいろいろな人がいてさまざまに暮らしていてどんな人にも幸せなときと不幸せなときがあって、生きていること、特に一生懸命生きるということとはすばらしいということを幼い頃から身につけて欲しい。そのためにはごく普通の幼稚園でできれば障害児をも受け入れてみようという園がいい。学校教育もしかり、多少物理的にはたいへんではあるが、ぜひ障害児をひろく普通学級に迎え入れて、可能性ある子供達・障害児も普通児にも豊かな経験を与えて欲しいと思う。そうして築かれてゆく障害者の参加した社会の輪のひろがりを目指したい。ごく自然に障害者が街にいてみんなが自分を含めての人間の生命の尊さをよく識って助けあって生きて行けたら、と願っている。

夫の家族との相克のなかで

愛知県犬山市 長縄 幸子

「子供の足は絶対に引っぱらない」これは私と夫の一致した考え方である。

夫が大学四年のとき夫の父が急死し夫は就職をあきらめ小売店を継がざるを得なくなった。姑は連れ合いの死で悲観的となり、しばらく家に閉じ込められたままだったという。連れ合いは丈夫で長生きするものと信じて疑わなかった姑にとってまさに青天の霹靂だったことだろう。それまでただ夫を頼って生きてきた姑は今度は息子を頼りにしだした。義妹が軽い心臓病を持っているためもあっただろうが、自分が自立する事などは夢にも思わなかったらしい。

夫もどちらかと言えば強い人間ではなかった。頼ってくる母親と心臓病の妹の負担が全て自分にかかってくるため苦しんでいた。そのせいか夫の生活

は荒れており、女遊びが激しかった。二人を受け入れるだけの器もなく、またそれを拒否する程の勇氣も持ち合わせていなかったのだろう。

そんな状態のとき、私は夫と知り合い結婚した。家なし車なし、姑、小姑つきの夫と私は彼女らとの別居を条件に結婚した。私の人生にとって一つめの大きな賭だった。私はまさに夫に賭けたのである。

そんな中で見る夫の家族は、私にとって異質なものだ。比較的民主的に育ち、家族同志が足を引っ張るという事を経験しなかった私は、姑のくどいほどの「家族はお互いに助け合わなければならぬ」という言葉を聞く度に種々の失望感に襲われた。その言葉のもとに私達夫婦は店や義妹のトラブルにかり出されるのだった。

姑は長男は同居するのが当たり前という考えの持主で、義妹も従来の社会通念をそのまま受け入れる人間なので同居すべきだと考えていた。しかし私はこのように人を犠牲にしても何の責任も感じない家族、全員が半自立でお互いに寄りかかっている家族の姿を見もし私達夫婦、それに生まれてくる子供もこの家族に入ったら、一家共倒れになる予感がした。私は同居はあくまで避け、それを姑は非難した。

姑にとって親類はもともと頼りになる存在だったらしい。嫁である私には何の相談もなしに大切な事は親類と相談してどんどん決めていった。一年ほどして夫は就職したのだが、その時も親族会議とやらを開いて決めた。そのとき私は呼ばれなかった。そんな会議に出た夫にもある種の失望を感じた。

私は良い嫁になろうと努力する事はやめた。夫の働いている小売店は土地も他人のもので発展性がないこととして何より姑が実権を握っていることがいやだったので、求人欄の新聞の切り抜きと履歴書を用意し、夫に応募させた。一流企業であったが高度成長の頃で合格し就職できた。

月に五万円しかもらっていなかった月給が増え、まがりなりにもボーナスもついてきた。私は市営アパートに住居を移し、食事も衣服も切りつめた。とにかく姑のところから離れた場所に家を建てたかった。姑は近くに土地を持っており、そこに私達夫婦が家を建てることを望んでいたが、私は絶対にその案を受ける気はなかった。姑の土地に家を建てたら、姑との間がうまく行かなかった時家はどちらのものとなるのか。または私と夫が離婚、または死別したとき家は誰のものになるのか。私はそこまで計算した。

息子が二人生まれたが、おばあちゃ

ん子だけにはしたくないと思い、私は一生懸命育てた。それでも自分の人生を子育てだけで終るつもりはなかった。育児をしながらいろいろ勉強し、再就職に関するアンテナをはる事を忘れたかった。

夫を姑や義妹から、母親離れ、妹離れさせることも大きな課題だった。姑の所へは絶対泊まらない事を約束せると同時に、私がいかに親離れしているかを示した。

今年で結婚十年目になる。三年前に、姑からある程度離れた所に家を建てた。子供は二人とも小学生となり、幸い素直に育ってくれた。私は一昨年度学へ一年間通い、昨年から養護学校の講師をしている。結婚後夫の女遊びはピッタリと止まった。母親への電話も私が何度催促してもしなくなった。私が半強制的に彼に育児にかかわらせたためか、父親として夫として家に位置づいている。家事も手伝ってくれ、洗濯は夫の仕事である。

この間もちろん色々あった。夫婦げんかの数はかぞえ切れない。私の顔には夫の暴力のためにできたキズもある。でも私は絶対自分の考えを変えなかった。離婚はいつも背中合わせにあった。姑は、義妹が結婚して家を出たためひとり暮らしをしている。姑、義妹、夫と三人ばらばらになり、お互いが自立できてからまた家族づき合いをしてはしなかったのだが、姑はまだその心境に達していないらしい。私達が建てた家に二度ほど来たのみだから。

申しわけないが姑は人間としてあまり好きになれない。しかし反面、親子の関わりかた、婦人問題、老人問題、家族のありかたなどさまざまなことを姑から学んだともいえる。もちろん姑が病気になったら看病するつもりでいる。そして私の親が病気になったとしても世話するつもりでいる。長男だからではない。子供だからである。あえて私はいいたい。誰もが大切な子供、大切な親なのだ。

特 集

女とお金

働き、育てる私の意見 ●

静岡県浜名郡

片山 明子

官庁で給与事務を担当しております。企業勤めの主人の給料を受取り家計のやりくりと合せて考えますと今の日本のサラリーマンの報酬は官庁も民間企業も職能給の部分よりも生活給の色合いが強いです。平均的な結婚期、子ども数の増加に合せて昇給幅は加減されており、当然妻が家庭の雑事は引受け、外で働く男は全力を仕事に向けるしくみになっていることを知りました。

これでは当分、私の代では家事分担を夫に頼んでも無理とさとり、また私の負担すべき家事育児も職場には持ちこめないハンディと認識しました。そこで両立のバランスが崩れたら私の仕事、即お金はあきらめなくてはと考え、主人の収入の範囲で堅実に生活して私の収入はストック分に当てることにしました。

子供が小学生になり宿題をやらず困ったとき口先でいうより態度でしめそうと、夕食後一緒に机に向かって家計簿をつけはじめました。多少わずらわしいことですが

生活記録を越えた、いろいろな効用があり、現在十冊目をつけております。お金も工夫して使えば豊かさにつながる使い方ができることも知りました。

簡素なスタートをしました私どもは五年後小さなセカンドハウスを建てました。私の仕事は次男出生の折は上司が交通事故で入院し、出産の前日まで出勤したりで大変な時期もありましたが健康に恵まれ現在も続いています。五年前貯金と私の退職金を前借りして自宅近くの太平洋の一望できる高台に、私名義の家を建てることができました。

私は二人の息子たちに、小さな努力も積み重ねていけば大きな実が結ぶことを知らせたかったです。

あと数年で子育ても終り私も、多少の貯えもできそうです。自由に使える時間とお金を上手に生かして何かやりたいと思案しております。

特集投稿

「女とお金」のテーマは酷だ

千葉県市川市

坊

照代

この夏買った私の衣類は「サヨナラお買得セール」で買った千円のタイトスカートと、九百円のチャイナ衿のブラウスの二枚だけ。電車に乗ってばかり一週間働いて、パートとして計算すると案に十万円は入るはずなのに、あまりといえは淋しいかぎり。

専業主婦で何の収入もないSさんは、一万五千円のワゴン車を「お買得よ」と言って二枚も買ったし、週一回の仕事で大体一万円の収入のあるW子は、間屋のバーゲンで三万円バッチリ自分の物ばかり買いこんだし。Y家では家族揃って一週間山登りに出かけたし、A家は一カ月北海道へ行ったり、B子は母子でアメリカへ行ったり……。みんな金のなる木を持ってるみたい。

先日サンケイ新聞に働く主婦の経済白書が出ていたが、三分の一は生活のため、三分の二は収入を自由に使ってる由。旅行や、衣類や高価な買物がしたくて働く主婦が多いことは、いかに多くの夫達が高給取りかと思わせられ、娘には何としても三食昼寝つき小遣いつきの夫を捜してやらにゃと思う。

でもやっぱり、私に似て色黒で何とやらだから、私のようにお店であくせく働かなければ生活できない結婚をするかも知れない。そうになったら嫌だなァと思う。私の

両親は教科書みたいな人間で、学歴家柄、財産等の外観で結婚相手を選んではいけない、と良く言っていた。若い時の苦労は買ってでもした方が良いというように、最初から楽をさせてもらえない人が良いとか、お金のある人が良いと考えてはいけない、といっていた。お陰で私は専業主婦になれず、時間とお金と、小言に追われっぱなし。時間がなくてもお金があるとか、お金はまああまで時間はたっぷりとか、もっとゆとりのある生活が望みなのにいかにせん私の働き賃はナットウ、ナス、トマト、パンに消えてしまう。

この女とお金のテーマは酷だと思う。私の様に貧乏人間は書いていてつらくなる。私の得た十万円を貯めて外国へ行く事にした、なんて書いたら最高の気分でしょうに。

専業主婦をいいなァと思うのは、お金に困らない人、というイメージがあるから。実際そうだと思う。好きなおけいこごとと、勉強と、ボランティアに時間やお金を使えるゆとりがあるから、若々しくって美しい。もし、少しでもお金を得ようとか、絵筆代金だけでも稼ごうとすると、もはや、のんきに専業主婦でいられなくなり、彼女達のイメージは一変するかも知れない。

一週間を三つのコース所屬と、藤のおけいこでつづ
してゐる人が「いつもピーピーしてるのよ」と言ってたが、
本当にピーピーしてたら、一週間に一度か二度くらい、
仕事の日が入る筈だ。相変らず仕事の話は聞かないから、
ピーピーというのは私に合わず言葉だったのだろう。

八月号の婦人公論に夫の稼いだお金を妻が使つて、心
にゆとりを持ち、美しくいられる事を喜ばぬ夫がいよう
か、という投稿文を読んだが、残念ながら私の夫は例の、
妻たりとも「働かざる者、食うべからず」の主義で、投
稿者のように夫の報酬を自由に使つたり、おけいここと

大黒柱倒れ母いきいき ●

高校二年の秋、「頭は良くなくてよい、可愛い女に
なって欲しい」と、口癖のようにいっていた父が、肝臓
ガンで、あつと言ふ間に此の世を去つた。

大新聞社に勤めていた父は、遊びはすべてするという
生活を送っていたため、母は父の給料をほとんど手にす
る事なく、その上、父の作った借金の尻拭いまでさせら
れていた。内職に追われ、その日食べる事のために頭を
悩ませていた母は、疲れ果て、ときどき生気のない目を
子供達に向け、「あんた達がいなければ、お父さんと別
れていた」とか「死んでいた」とか言い、母が生きなけ
ればならない理由が私達子供達にあるように思い、私も

と、勉強会とボランティアで、時と金を費し、一銭たり
とも、自分で稼ごうとしなかったら、能なし女房と、の
のしられそうな気がする。「セックスや、料理上手を求
めるんなら、俺はお前と結婚しない」と言う夫。つま
り、働かず、専業主婦でいさせてくれて、自由に夫の稼
いだお金を使える妻の条件は、色気と、料理上手にある
のかも知れない。

よし、読めた!! 娘をそのような女に育てよう。(自
信ないなァ……)

東京都練馬区

平田 幸枝(44歳)

母と一緒に内職、アルバイトと懸命だった。

父の死後、大黒柱を失って大変でしようと人々に言わ
れたが、私たち母子はむしろ、金銭的なことで、余計な
神経を使う必要もなくなり、母などは、生き生きした表
情さえしてきた。

当時私と弟二人(中二、小二)を抱え、四十二歳の母
は、内職のお金すら当てにされた以前と違い、確実に自
分達のために自分の稼いだお金を使用できるということ
に、働くことに張りができたのだろう。町工場に通う姿
は別人の様に感じたこともあった。

普通高校を卒業した私は、一応、一流と言われた会社

特集投稿

に勤めることができ、給料の半分以上を母に渡したとしても、残ったお金を自分のために使える身分になった。でも何故か他の人達のように、自分を飾るためなどには使用できず、食べる事に使用した。小さいときから、食べるためのお金という感じが強かったし、戦中、戦後のひもじい思いを経験した私には、ちょっと余計なお金があったても、食物にしか結びつかないのだ。だからいまだに、食べることに第一主義で、おやつを大量に買いこんだり、好きなものをガバツと買って来たりする。

結婚後、自営業を営む主人のため、昔の母と同じ内

いま、社会参加をしないバカ

サラリーマンの妻が子供を学校に送り出した後、勤めにもパートにも出ないでいると、よほど無能か、病人かと思われる昨今になった。昼間何しているの、よく退屈しないわネ、といわれる。保険の外務員をしつこく勧められることもしょっちゅうである。私が昼間シコシコとやっていることは、彼等から見れば金にならない愚かな行為なのである。

実際、ある保険会社の支社長は再三訪ねてきては「貴女ならじき十萬くらいは取れるようになりますよ、絵なんかを描いてたって収入の保障はないぢやありませんか」それでも断ったものだから、何と愚かなことを、と

職、アルバイトをしながらの不安定な生活をした時期もあったが、仕事オンリーの主人には、父と違う真剣さを感じ、二十数年ひたすら従っているという現状である。よいことに、数年前、保母として東京都に勤務するようになってからは、一定の給料を東京都から支給されるとあって、キウキウした生活ではなくなったが、ポリーナスなどは目の前を素通りして、わが家の運転資金に使用されてしまう。それでも、私は、健康な家族と元気に働ける事に感謝している。

東京都新宿区

三井早穂子(45歳)

いわれたのである。

知人が三人、この外務員になった。三人とも地方の学校を卒業するとすぐ、東京へ嫁いで来たのだった。

「私には青春時代がなかったから、いま取り戻しているのよ、一度でいいから定期を持って通勤してみたかったの」と一人はいった。彼女は生き生きとした表情になり五歳ぐらいいは若くなったように見える。

それまでの彼女は、夫の意見＝妻の意見だった。夫である人が大人で、若い妻を教育した。子育ても順調そのもので、親離れが早かった。勤めに出たいと申し出たとき、家のことがちゃんとやって行けるなら君の好きなよ

うにしないといふと、娘の巢立ちを微笑ましく眺めるように許したようである。仕事を持ったことで友達もできたし目新しい外の世界の出来事を楽しそうに語るのを聞いてやりながら、妻のそうした成長を楽しんでいるふうである。ただ、私が彼女の言葉に少しこたわるのは、青春時代を取りもどしたいといったことである。

もう一人の知人は、七年勤めた保険会社を去年やめて、小さな会社のパートに変わった。非常に魅力的な人で、外務には向いていたのか、会社関係を主として、収入は常に十万以上、時には縁談まで飛び込んだり、派手な遊びも覚えたり、そして「結局残ったものは沢山の衣裳だけよ」と今は少し地味になった彼女はいう。パート勤めの責任の軽さが、正社員を過去に経験して来た主婦達に、案外重宝がられている。家庭優先か、仕事優先かが別れ道である。

お金は、私も本当は欲しい。自分で働き、自由に使えるお金を持つことが自立への出発だと、誰かがいっていたような気がする。でも、私はそうは思わない。自分で物事を決められ、自分で行動に責任を持てること。夫婦を一つの共同事業体と考えれば、養うとか養われるとかの発想が不思議である。私には社会参加への憧れがない。というより企業アレルギーなのかも知れない。

何かの折に、彼と結婚した動機を聞かれる。またある

時は、職歴を聞かれ、なぜその職業を志したのかと尋ねられる。質問した側には、明らかに私に選ぶ余地があったと見ているから出て来た言葉なのだろう。

自分の適性に合った職業を選ぶことができるまで生活が待ってくれなかったとしたら、不利を承知でも、それが適性でなくても、取りあえず仕事を持たなければならぬ。多くの男がそうしているように。

私にとっての職場は、生き甲斐ではなかった。生活していくための、学資稼ぎのためのもので、仕事で成就感を味わった記憶は、ほとんどない。いくら適職でなかったとはいえ、数年も同じ職場にいれば、少しは責任のある仕事もするようになる。しかしそれが何かの形で報われるということは決してない。毎年、新入生を迎え、仕事を教えても、三カ月の見習期間が過ぎれば、彼や彼女は私より給料が多くなる仕組みである。二、三十年前のことだから、学歴による差別も、女性に対する差別も今の比ではなかった。

この十数年の間に、女性に対する企業の認識はかなり進歩して、賃金の点でも、受け入れ側の体制でも働きやすくなったようだし、三十歳を過ぎても結婚しないで働くことが、決して恥ではない時代になった。

たくましく独りの人生を乗り切っている女性もいるけれど、平凡に黙々と孤独と向き合いながら間もなく五十

特集投稿

歳を迎えようとしている友もいる。

「淋しいっていうのはね、本当に、誰でもいいから今わたしをしっかり抱きとめて、と叫びたいように体から感じてくるものなの」結婚になかなかふんぎりのつかなかった私に、そう語って一人住まいの現実を教えてくれたのは、彼女が三十三歳の時だった。

しかもなお、女の賃金の安さは適齢期を過ぎて実家にも居づらくなったとき、一部屋を借りて自立する余裕もなかった。

結婚は、従って効率のよい就職でもあったし、肩をよせ合う相手がいるということは、当時どれほど救いであつたか知れない。

企業の組織下に入るということは、物の考え方までも企業に合わせるといふことだ。組織の中で自己を生かせるのは、頂上近く登りつめた人であり、その道の開かれている人達だけである。

一番裾野に働く人間に要求されるのは、ただ仕事が正確で速いこと、さまざま矛盾に鈍感になることである。

通勤は、まさに鉛の足を引き摺る思いであつたあの頃に較べれば、夫一人の気嫌とりなど軽いものである。何しろ、四六時中監視の眼があるわけではない。

それだけに家庭は危険な落とし穴でもある。自分を甘や

かし、慢心し、一人天下になる恐れもある。

「働くことの良さって、自分の小ささ、みじめさを知るといふことなのよ。そこからが本当の出発なんだよネ」と語った人がいる。

なるほどと思う。主婦が外で自分の力を試したいというのも、一つには家事が報酬という形で評価されないからだろう。そこに虚しさが湧くのは理解できる。

もし、家庭を、夫と妻の共同経営と考えたら、どうなのだろう。営業担当の夫と総務担当の妻である。純利益がゼロだったり赤字が累々と続くなら、総務担当は経理上どこに問題があるかを絞り、絶対量が不足なら妻も働けばよいと思う。

働くにしても、働かないにしても、何れにも必然がある限り、夫の足を引っぱっているのでは？ といううしろめたさや、養われているという卑屈さは回避できるのではないだろうか。

ひところのミニスカートの流行や、入学式での黒い羽織のように、周囲と同じ衣服を着ることで、自らも安心できたような、他者の眼でライフスタイルを決めたくない。

専業主婦と金と税金と ●

千葉県市川市

小松 雅子

専業主婦の場合、妻個人の収入はまったくありません。収入は一方的に主人側に依存しなければなりません。（社会通念が家事労働を金銭感覚でとらえないからです）例えば、新聞購読をA紙に決めたします。すると販売員は、必ずこういいます。“この度はA紙を御購読下さり有がとうございます。つきましては、ここに御主人の判を。”……なぜ妻の判ではいけないのですか？

また、私は主人と共有名義で家を購入しました。その時二年ほど経って税務署から妻である私だけ呼び出され（主人は会社員なので問題なし）、「専業主婦である貴女が、どのようにお金をつくられたか？」と聞くのです。私は、「結婚前に働いていたので少しは貯えがあり、残りは知人に借りました」と答えました。すると、税務署様は「では、どのように返すのですか」と聞くのです。私は「働いて返します」と答えました。

それから、私も少し税金のことについて勉強することになりました。そしてわかったことは、女が働くことが、い

かに税金面でも縛られているか？ ということでした。まず、主人の収入に影響がないようにするには、（大体的場合、妻は扶養家族ですから）、年収が七十万以下であること、また主人から小遣いとしてももらう場合もやはり七十万以内であること、（この節こんなヘソクリできませんが）それ以上だと贈与と見なされ、税金がかかるのですゾ！

また、女性ですから時には高価な品物など欲しくなる場合があります。例えば宝石など自分に収入がなく、ヘソクリで買ったとします。これは主人からの贈与とみなされ、税金がかかるのです。

■そこで、全国の専業主婦の皆さま、私たちももっと税金に強くなり、主婦といえども自分の力で得た収入は、チャンと申告できるよう書類を作り、最寄りの税金相談所に行くか、書物で調べて対策を立てましょう。そして税金面でもっと主婦の家事労働を高く評価するよう、運動していきたいと思っています。

日常生活の中にも経済感覚を ●

私は、小さな原稿を書いたり、ときどき頼まれる翻訳の仕事をして、細々とした収入がある。とても、一本立

大阪府大阪市

シャ―真理子

ちできるほどのものではないから、実質的には、やはり夫で食っているのだが、あすなるのように、あすなる

特集投稿

う、あすなろうと、やがては物書きとして、一人立ちしたいと思っている。

書く内容はそれこそ雑多で、依頼があれば何でもという買手市場だが、だいたい、大きく分けて、食いしん坊の私の、重要な売り物の一つとして、料理に関する記事、知っている限りの異国文化の紹介、随筆的なもの、という具合だが、私が、日常生活の中にとり入れている、私なりの経済の大法則がある。それは普通企業がやっているお金のかし方と、ほぼ同じだ。

参考までに、ご紹介しておく、まず、原稿料の半分は、純利益として、預金口座へ直行する。突然的な出費とか、子供や主人への買物はここからまかなう。残りの半分は、書いたものの内容から、もしそれが料理に関するものだったら、いい料理の本を買ったり、前から狙っていたキッチン用品を購入したりする。他の内容のものだったら、それに準じた参考書的なものの購入とか、展

離婚してみつけたもの ●

昨年五月、当時三歳と五歳の子供達を連れて住み慣れた団地を後にしました。五年間迷いに迷ったあげくの離婚です。

しかしその五年間という年月は決して無駄な時間ではなかったようです。なぜなら、私にとってはベストの状態

示会の入場券の費用にあてたりする。これは、より多くの知識や知的栄養を貯え、将来に備える為の投資的性格をもつものだ。企業でいう、設備投資に相当する。出費がかさんで、最悪の場合でも、収入の八割以内でおさえられることを鉄則にしている、そうしないと、この会社は間違いなく破産する。

だから日常、私は二つの財布を携えて歩いている。一つは、一家の台所をあずかる役目柄の、公的性格をもつもの、もう一つは、私個人の自由な管理にまかせられた、私的 성격のもの。公私混同は極力避け、将来もって生活力がついたら、家計を支えるもう一本の手となつて、公の部分への積極的参加をはかるつもりだ。

結局のところ、子供のままごと遊びに近い試みかもしれないが、どこかにけじめをつけることで、感覚的に自立人間指向の姿勢を、保とうと努力している。

東京都八王子市

小宅 昌枝

態で離婚できたわけです。何がベストであったかという、子供達がそれほど物心がついていない時期で、しかも親にとってはある程度手はなれた時であったこと。そして、「わいふ」の仲間や、近辺に協力を得ることのできる仲間ができていたことです。さすがに離婚の

手続きの時は勇気がいりましたが、どうかこうにか一
気に済ませ、福祉事務所の方の助言もあって、母子寮に
も入ることができました。おまけにこの母子寮のすぐそ
ばには都立の職業訓練校があり、その年の十月には入学
というまさにトントン拍子という感じで新しい年を迎え
ることになりました。

御存知ない方が多いと思いますが、職業訓練校という
ところは、手当を受けながら技術を身につけることで
きるところです。教科も和裁から電気工事まで、あらゆる
分野がそろっています。場所さえ選ばなければ、自分の
好きな技術を身につけることができますが、八王子の
訓練校には、女の人のできそうなものは経理実務、経理
事務、和文タイプの三種類しかありませんでしたので、
とりあえずいちばん興味の持てそうな和文タイプを習得
することになりました。

十何年ぶりに味わった学生気分の方六カ月間はあっとい
う間に過ぎました。平均年齢三十以上、二十歳の人と四
十歳の人があるで同級生のように共に学んだ体験は私に
とっては一生忘れられない貴重なものでした。

訓練校の手当が月約八万〜九万、他に二カ月ごとに児
童育成手当と扶養手当が交互に支給され、それが月にす
ると約四万くらい。これらは、市から母子家庭に対して
出るものです。少し節約すれば子供が二〜三人いても楽

にやっていける金額だと思います。離婚する前には重大
問題であった経済的なことは実はそれほど心配すること
でもなかったようです。

三月に無事卒業、最初近くの印刷屋に就職しました
が、通勤し始めてすぐ長男がおたふくかぜにかかり、保
育園の送り迎えなどで時間的に余裕がなかったため二カ
月でやめるという結果になってしまいました。子供が小
さいうちは、近くに親戚もない私のような場合、やはり
通いの仕事は障害が多すぎるということを実感しまし
た。

それで、少々乱暴な方法だとは思いましたが、思い切
って中古の和文タイプライターを購入しました。下請け
の仕事を始めようと思ったからです。もちろん、すぐに
仕事が入って軌道に乗るとは考えられなかったのですが、も
う一つの仕事を並行して始めました。私が若い頃やって
いた、アニメーションのペイント、つまり色塗りの仕事
です。この仕事も家で下請けとしてできるもので、月四
〜五万くらいにはなるものです。

結局タイプの方の仕事は見つける暇もなくペイントだ
けでつないでいたのですが、たまたま子供達の通ってい
る保育園で長女と同じクラスの女の子のおかあさんから
ある日突然電話がかかり、タイプの打てる人を捜してい
るという話がまいこんできました。

特集投稿

とにかく見学をという言葉に誘われて行って見たのが
今現在の私の仕事になっています。

離婚してからのことをかけ足でたどってみましたが、
今私はもうひとつのことに、より満足しています。経済
的になんとか生きてきたことも、もちろん大事ですが、
離婚のあと一人になって自分自身をとりもどせたこと
です。そしていろいろな人に出会うことができました。

私にとっては何よりの財産である仲間です。

別に離婚を勧める気はありませんが、自分を大切に生
きていこうとするなら踏み越えていかなければならない
ことが、いくつかあると思います。大げさな理くつを述
べたてるつもりはないのですが、人生というのはそれく
らい——きれいごとでは済まされない——重くて貴重な
ものであることに気づくべきだと思いますが、いかがな
ものでしょうか。



— ビデオ時代の到来です！

さあ、『永遠の記憶』を手にしませんか？—

- ◎ 結婚式・発表会・スポーツ大会などの思い出を、御自宅のテ
レビで、何時でも好きな時に見られる様、ビデオテープに
製作致します。

素晴らしい記憶程、映像に留めれば、歳月と共に、輝きを増す
ものです。

- ◎ また、『セールス・テープ』などに VTRを使いたいが、テ
ープ製作費がかさんで……四と二の足をお踏みの方も、ぜひ
一度、御利用下さい。

- VTR (8mm・16mm)
- 結婚式 5万円より。

河野プロダクション 0423-72-3575

アンケート

主婦の活動費・その出どころ

男女を問わず現代の私たちの生活は、ほとんどすべての面で金銭との関わりがあり、一口に「主婦とお金」といってもさまざまな接点がある。今回のアンケートでは、そのうち「再就職」と「主婦の自己活動費」の二点にばかり、お金にまつわる主婦の意識を探ってみた。今号ではまず主婦の自己活動費の問題を考えてみたい。これはまた一六六号でとり上げた「主婦の自己活動」のパート2、その金銭的側面、ともいえる。

主婦の自己活動費の出どころは？

このアンケートでは、現在実際に自分の収入があるかないかだけでなく、金銭意識といった面からグループ分けしてみた。アンケート回答数が少ないため、各グループのはっきりした特徴はつかみにくい、大体次のように分けられる。

主婦の自己活動費——家事・育児以外の趣味・学習・自分自身の友人との交際費など——を、自分自身の収入から出している主婦は意外に多く、百二十三人中四十三人（約三分の一）であった。年齢層からみると、まだ子育

て中の主婦がほとんどであり、従ってフルタイムで働いている「純正共働き」は九人だけ。ほとんどがパートや自宅での仕事、または一カ月のうち何日かだけ仕事をするというものである。また、現在は無収入の専業主婦であるが、この間まで働いていたので、その時の貯金を自己活動にあてているという答が数件あったのも見落とせない。

このグループは自己活動をかなり意識的に行なっているグループといえるだろう。仕事への関心が他のグループより高いのは当然と思われるが、趣味や学習、ボランティア、消費者市民運動などへの関心も高い。一週間に一日、自宅で子供たちに勉強を教え、一〜二万円の月収があるなどというのは、大規模な（国勢調査や大新聞の世論調査など）視点からは、専業主婦とかわらないであろう。しかし金額としてはささやかであっても、自己収入↓自己活動というサイクルを確立していく主婦が増えているのは、注目すべきことだと思う。

あなたはこづかい派？
へそくり派？

数は少ないが、自分の収入を夫の収入とい

っしょにして「世帯収入」とし、そこから自分の自己活動費を、生活費や夫のこづかいと共に出すというやり方をしている主婦もある。

日本では夫婦の財産は別産制であることを考えると、このアンケートで見る限り、別会計派が大多数なもうなずける。実際には妻がかせいだお金であっても、夫名義の預金に入れておけば夫のものとみなされる可能性が大きいことなども頭に入れておいた方がよいだろう。

「本当は自分の収入から出したいが、無収入なのでしかたなく夫の収入から出す」「夫の収入から自分のこづかい分を決めている」というグループは、実際の自己収入はないのであるが、別会計志向という点からみると、世帯収入型よりも、むしろ意識的には自己収入型に近い。「夫の許可を得て」というのも消極的な別会計志向とも考えられるが、このグループは、料理、手芸など趣味化した家事への志向が比較的高く、いわゆる良妻賢母タイプではないかと思われる。

現在自己収入を得ることが不可能ならば、改善の策として夫の収入のうち主婦のこづかい分を決め、ある程度予算をたてて自己活動費にあてたほうが、「しかたなく」やって

いるより精神衛生上よいのではないかと思われるが、将来仕事をもちたいかどうかという間については「こづかい」派十二人中五人、「しかたなく」派が十七人中十一人が「そのうち仕事をもちたい」と答えており、「しかたなく」の方がむしろ、自立志向が強いようである。人数が少ないためはっきりしたことは言えないが、夫の収入のうち自分のこづかい分を決めている主婦には、意識的に自立への投資として使うタイプと、趣味・学習費の段階で満足しているタイプと二とおりあるようだ。

妻はどこまで夫の金を使える？

残るグループは、「当然の権利として夫の収入から出す」グループで、二十九人、約四分の一をしめる。「自分の家事労働など努力によって家計費を切りつめて家計費をうかせた分を使用している」という記入に代表されるように、夫が収入を得られるかげには主婦の努力あってこそという考え方を持つグループと思われる。

この考え方で問題になってくるのは、「なるほど夫の収入のうち妻のとり分もあるといえるだろう、だけどそれはいくらまでか？」

という所があいまいであることだ。今までのグループでは、自己収入グループならば、自分でかせいだ分、こづかいグループならば自分のこづかいとして認められている分、と一応金額的に具体的な線が出ている。しかしこのグループは、「しかたなく」とか「許可を得て」などと違い、堂々と使ってよいのだという考え方をとっているにもかかわらず、いったいどの程度まで自由に夫の収入を使えるのかという点に疑問が残るのである。

この問題は、本誌でこれまでたびたび論じられてきた「家事労働の価値」に関係している。一言でいえば、主婦の行なう家事労働の報酬には、彼女が独立した個人として行なう自己活動費も含まれているのか、それとも自己活動費は含まれておらず、家事労働の再生産に必要な経費——労働エネルギー源としての食費、一家の家庭管理者にふさわしい服装のための衣料費、家庭管理や子供の教育に必要な知識、教養のための経費——までにとどまるのかという問題である。

性別分業をよしとし、主婦は家庭を守るのが本分、という考え方からは、当然「家事労働の報酬は主婦の自己活動費を含む」という結論が出てくる。たしかに、何かにつけて

「最近の母親は……」という母原病論者も、「トンデル女は困ります」という良識派も、「だから夫の収入の半分は主婦のもの。卑屈にならず自由に使えばよい」とおっしゃる。しかしながら、ではありがたく使わせて頂きましょうと思っても、主婦の場合お金の自由な使いみちというのはおどろくほど限られている。

おもしろいことはみな六時半から

主婦が家庭に拘束されているように、男性とくに日本の夫族は、おそろしく会社に拘束されている。しかし、それでも会社から家に帰れば、会社と関係ないことに金と時間を使う自由が、男にはあるのである。夫と妻の決定的な違いはそこで、妻は自分の家から外に出ても、ゼッタイに主婦であり、オクサンであるのだ。主婦にふさわしくない行動をしてないかとウノ目タカノ目の監視網が、あちらにもこちらにも、はりめぐらされているのである。

「あなたが現在関心をもっている事柄」のうち、学習・教養への関心はどのグループも

皆高く、マスコミでもさんざん言われている主婦のカルチャー熱をうらづけている。しかし、あれだけマスコミでさわぐほど、主婦は優雅に「お勉強」しているのであらうか。日本全国の大学・大学院は、どれだけ主婦に開かれているだろうか。主婦が学習して得たものを通じて社会をどれだけ動かすことができるのだろうか。

「世の中セミナーだの研修会だのゴマンとあるけれど、これは面白そうだなっていうのは必ず午後六時半からなのよね」と本誌ルポでおなじみの鈴木由美子さんは言っているが、子持ちの主婦が、午後六時半からの会合に出ようとするとき、

「あつ出かけるの？ いってらっしゃい」とあたり前に言われることはまずない。鈴木さんによれば、非難がましい扱いをされることは意外と少ないのだそうで、

「アラッ、どうしたんですか？」「何かあったんでしたら、何でもお手伝いしますわ」など、善意による「異常事態発生対応」が多いという。親が死ぬとか亭主が倒れるとかしないかぎり、既婚の女が夕方出かけることはありえない、と日本全国大多数の人々が思っているということは、相当オソロシイことだ。

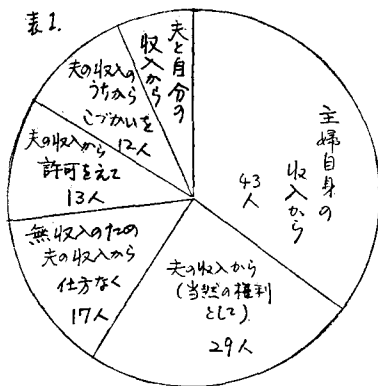
主婦のこづかいは洋服代

主婦がどの程度自由にお金を使っているかについては、別の興味深い調査がある。

「女とファッションの戦後史」の著者和田直久氏の企画のもとに、昨年三菱レイヨン社が、東京周辺のデパート婦人客を対象として行なった「現代女性のライフスタイルとファッション調査」がそれで、その中に「職業別の月平均こづかい」及び、「月平均衣料費」（自分自身のこと）という項目がある。それによると、専業主婦の月平均こづかいは三万八千八百円、衣料費は二万二千九百円。また専門職従事者（人数構成は独身女性と共働き主婦が約半々）の場合はこづかいが四万七千八百円、衣料費が二万四千八百円となっている。

デパート客、それもバーゲン売場以外での調査のためか、全国平均よりはかなり高い水準と思われるが、こづかい、衣料費共に有職女性が高いのは当然としても、専業主婦では何とこづかいの四分の三以上が衣料費なのである。

この調査ではこの他多くの質問項目があり主婦の趣味・教養志向はここでも強くあらわ



アンケート回答数: 122人 (専業主婦 67)

| 年齢 | 人数 | 職業 | 人数 |
|-----|----|------------|----|
| 20代 | 21 | 有職 (アルバイト) | 9 |
| 30代 | 71 | 有職 (パート) | 18 |
| 40代 | 19 | 有職 (自宅) | 26 |
| 50代 | 10 | 不明 | 2 |
| 不明 | 1 | | |

ゆとり派の家計簿
(手取り月収に対する支出比率)

表2

| | ゆとり派 | 全世帯平均 | 非ゆとり派 |
|--------------|---------------|---------------|---------------|
| 手取り月収 (万円) | 100.0% (33.0) | 100.0% (30.4) | 100.0% (33.2) |
| 貯蓄 | 20.0 | 17.1 | 15.7 |
| 住宅ローン ほど返済金 | 10.1 | 8.4 | 9.9 |
| 食費 (外食費を除く) | 27.8 | 28.3 | 27.8 |
| 家賃・地代 水道・光熱費 | 9.0 | 9.5 | 9.2 |
| 子供の教育費 | 5.8 | 5.6 | 5.4 |
| 夫のこづかい | 9.2 | 9.1 | 7.1 |
| 保険料 新聞代など | 7.1 | 7.5 | 7.5 |
| 交通・通信費 | 4.0 | 3.6 | 3.2 |
| 下着など 日用衣料品 | 3.0 | 3.2 | 2.5 |
| 自由裁量支出 | 6.0 | 3.8 | 2.2 |

(注) 比率の合計が100にならないものは、一部費目での回答ではない世帯を含まれたため
日経流通新聞 第13回消費者調査より (1980年8月)

れているため、三菱レイヨン社の分析によれば、「未婚による余暇活動の違いが少なく、未婚による増大の方向にあると同時に、アイテムが拡大し、他方、年齢とか職業による差が減るという傾向ではないでしょうか」とやはりカルチャーブームに重点をおいた展望が述べられている。

しかし、主婦の余暇活動には午前十時から午後五時までという目にみえない、しかし厳然たる規制があり、またアイテム拡大といっても、消費の一環としての趣味教養というワ

ク内での拡大というよりは細分化であることを見落してはならないと思う。産業界にとって主婦はあくまでも消費者サイドにしかないのであり、「衣料が売れなくなったからカルチャーが売れる」という変化はあっても、共に生産の場にのぞむ仲間としては、決してとらえられていない。高収入の夫をもち、かなり自由にお金を使えそうな立場の主婦であっても、無意識のうちに自己規制した使い方をしている。

主婦的状况による自己規制という精神的側面に加えて、夫の収入しかない場合、そこか

らどうしても必要な生活費、教育費をさしひくと、夫と妻と二人分の自己活動費はともに残らないという物理的要因も大きい。最近、経済企画庁と総理府の二つの調査で、共に「中流意識にかげり」があらわれたということが、マスコミでもかなり大きくとり上げられた。きびしい状況であっても、なおかつ夫の収入は夫婦二人のもの信じ、乏しきをわかちあう精神で、夫も妻もできるかぎり自由に活動するといふのであれば、それなりにすじは通っている。しかし、ただでさえ「自分たちのこづかいは少ない」と思っているらしい

夫たちに、どこまで期待できるだろうか。趣味やスポーツならともかく、妻が他の人々と責任を分かちあってとりこんでいるボランティアや仕事を、「お母さんの道楽」「オレの給料を使うよいご身分」というとらえ方しかできない夫、「暴力でやめさせよう」としないで「でもおんの字」という妻が多い。

自己活動型消費生活を

しかし明るい見通しでもないではない。日経流通新聞（日本経済新聞社）では、年二回大規模な消費者調査を行なっているが、単なる統計だけでなく、各回ごとにある特質をもつ消費者層に焦点をあて、詳細に分析して興味深い。昨年夏の第十三回調査では、物質志向の「非ゆとり派」、脱物質志向の「ゆとり派」（いずれも全回答のほぼ一割ずつ）について分析している。妻の自己収入という視点がなく世帯単位なのが残念であるが、「ゆとり派」といっても収入はむしろ「非ゆとり派」より少なく、それでいて、食費、教育費、夫のこづかい、貯蓄など、ほとんどすべての家計項目について、「ゆとり派」の方が

割合が高く、とくに「自由裁量支出」の割合がぐんと高いというのである。ちょっと不思議な気もするが、「非ゆとり派」というのは無回答部分が多く「ゆとり派」は消費財の保有率が低いことなどから、「ゆとり派」とは金を多く使う人々ではなく、自分は何をしたいか何が欲しいかということについて明確な意識をもち、他人が皆買うものでも自分がほしくなければ買わない、逆に世間通念ではムダなものでも、自分が必要なら金を惜しまない、というタイプと考えられる。

吉沢久子氏は「欲望の整理学」と呼んでいるが、主婦の場合「欲望を押さえていい子になる」と受取られかねないので（主婦の投稿などによく「私はこんなに努力してます、手作りでがんばってます、オネガイ、専業主婦を評価して！」という趣旨のものがよくあるが）、私はむしろ自己活動型消費生活と呼びたい。

現在自分の収入があるかないかは別としてこのような自己活動型消費マインドを持つことは、重要なことだと思う。それは、「自分のやりたいこと、ほしいものにどれだけかかるか」「自分にどのくらいの能力があり、どの程度のことができるか」などをクールにと

らえる能力につながるからだ。

欧米に比べ、日本の主婦の家庭経済を握る実権は強いとよくいわれる。逆にいえば、日本の主婦は「ムダをせず、きちんと管理しなくては」という責任感が強く節約上手であったからこそ、財布をまかされてきたともいえるだろう。しかし、万人に共通する「浪費」「節約」という分け方から、次第に「我が家ではこれが必要」「私はこれはいらない」という個々の消費活動の型に移行しつつあるのではないかと思われる。流行にのせられてあれもこれも買ってしまったり、または逆に「私はカシコイ主婦よ」と目尻をつり上げてほしいものもガマンしたあげく、他の主婦の金の使い方がやたらに気になったり、夫に對しうらみがましい言動に出たりというパターンがへつてくることを期待したい。

よい主婦にならなければというこだわりを捨て、自分自身の欲求を素直にみつめることから始める方が、上手なお金の使い方への道ではないだろうか。

（まとめ・四方愛子）

広告への提案

第三回・入選発表

●こうすれば広告は良くなる

■原島喜代子（東京）

洗剤のコマーシャルは、ひどい泥んこ汚れがこんなにきれいになったと、真白な洗い上がりを見せてくれるが、ユニフォームについた汚れは、ブラシも使わないであんなに簡単に取れないわねえ、と近所の奥さんと良く話す。

子供が明日学芸会に着て行く洋服を、スーパーマンごっこで泥で汚してしまった。でも洗ったら元通りになったと母と子が並んで喜んでいるコマーシャルがある。また、勤め婦りの男性が同僚と一ぱいやっている中、真白いワイシャツの胸元を汚してしまう。彼はのれんを出てから、

「お母さんごめん」

と謝る。でも洗剤のおかげで元通り白くなるというもある。白いものに汚れがついたら何はさておき、ぬれ手拭で拭き取っておく。それがひどいしみを残さずにすむよい方法だ

くらい常識であろう。それを汚したままにしておいて、「お母さんごめん」は、余りに妻に甘え過ぎているのではないだろうか。子供が考えなしに汚すこと（元気で遊ぶこととはちがうのだから）とも合わせて、母親や妻は無責任な甘えを許しているようで苦々しい思いがする。自分のことは自分で始末する姿勢と、衣食住についての知識を、男性や男の子にも持ってほしい。そうした歴史の流れに沿ったコマーシャルを作りあげてほしいと思う。

■武永 佳子（下関）

テレビのCMは、一昔前の連呼型から近年非常にスマートになり、映像とBGMの美しさは、下手な番組より魅力を感じさせる程変化してきた。

しかし、あくまでもテレビは受身であり、いくら控え目なCMでも、こちらにはお構いなく見せられてしまうのである。

それに反し、新聞は読者の主体性にまかされ、同じ宣伝でも好感を持てるのは、私の偏見であろうか。

興味のない広告は見ず、その反対のものは熟読し、中には切り取って保管しておくようなものもある。新聞を開けたとたん、写真と

見出しの文字に思わず引き寄せられ、その一語一句にこちらまで洗練された気分になったりする。こうした芸術性の高いものも勿論であるが、最近の医薬品の広告に見られるように、具体的なエピソードを述べて医学の発展を示すような論理性の高いものが出てきたのは特に嬉しく思う。全く未知の世界のことを、広告を通じて勉強したのは初めてであっただけに、とても新鮮な印象を受けた。

この他にも食品関係では、栄養、食品公害について、また、電気ガスは省エネルギー、ハミガキメーカーは虫歯予防についてなど、主婦にとってはさほど目新しいことではないが、知識として蓄積されていくわけだし、関心のなかった人には有益な情報となっている可能性もある。

このように目先の利益だけにとらわれず、なぜそれが必要があるという論理的かつ原点を見失わない姿勢の広告ならば、好感を持って抵抗なく受け入れられるに違いない。

●佳作 中島志げ子・野村瑞枝

多数のご応募とご協力大変ありがとうございます。今後の貴重な資料とさせていただきます。タイム広告企画・わいふ編集部

カネの話はきらわれる

“わいふ”編集部から「女とおカネ」をテーマに原稿を書くように……という依頼を受けたとき、わたしはちょっとよるこび、ちょっと困惑した。

困惑した方の理由から先に述べると、実は昨年「ドアの向こうに鬼はいない」（社会評論社）という本を出版したのだが、この本のメインテーマの一つは「女とおカネ」の問題だった。

男と女のちがいは、各人各様に、いろいろと語られるけれど、最も大きな違いは、ひょっとしたらおカネに対する感性ではなからうか……と考えつつ書いて、そのことが書きたかったわけだ。

ところが、この本は男にも女にもあまり評判は芳しくなくて、「二、三の女の雑誌が取りあげてくれたものの、ほとんど無視されたかたちである。四千部発行してまだ千部以上残っている。読者からの手紙も前に出した本と比べて

金・づ・か・い

丸山 友岐子

少ない上に、「わが愛と性の履歴書」の著者として期待して買ったのに、これは何だ、失望した」という内容のものがいくつもあった。

生涯にわたって「おカネとどうつきあうか」という問題は、ひとの人生の中で、かなり重要な部分を占める、とわたしは思っている。おカネとのつきあい方によってひとの人生はかなりちがったものになる、という言い方もできる。おカネ抜きで自立、おカネ抜きの仕事、というものは考えられないわけで、わたしたちの日常とおカネとは抜きさしならぬ関係にある。ところが正面切って、おカネとどうつきあうか、というようなテーマで語るひとはいない。そこで「自立のためのハンドブック」とサブタイトルにうたったこの本の中で、わたしが半生にわたって感じつつけてきた男と女のおカネに対する感性のちがいを論じてみたのである。男にとってはあまり当たり前すぎておもしろくなく、女にとっては「日

錢をケチって節約するのは美德とは言えないのではないか”というわたしの論旨は、やはり首肯できない、というのがおかたの感想だったのではなからうか。現にわたしの親しい女友だちは、この本を読んだあとで、断固としてわたしに決意表明したものである。

「丸山さん、わたし、今日から日錢をケチることにしたわ。そのために、必要最小限度しかおカネを持ち歩かないことにしたの。日錢をケチらないとおカネはたまらないって、ホント、そうよねえ」

千円買いたいときは八百円におさえる、というふうな、わたしの妹の生き方を、わたしは批判的に書いたつもりなのだが、どうも、やはり女たちには節約のすすめ、おカネをガードするための生活のチエ、といった呼びかけの方が入りやすいようである。

だから“わいふ”の読者に、再び総スカンを食いやしないか、ひょっとしたら、女に袋ダキにあうかも……と

男 ● と ● 女 ● の ●

「女性解放」と「女のおカネの感覚」との関係は？

いう被害妄想もあって、困惑したという次第なのである。

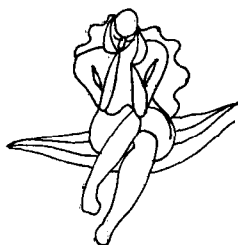
一方で、ほかならぬ“わいふ”の編集部から「女とおカネを……」と、わたしの視点を容認した上で、再び語る機会を与えられたことが、いささかしょげていただけにうれしかった、というわけだ。

えらく、前おきが長くなったけれど、男と女とは、おカネに対するつきあいはかなりちがう、ということとは、男女双方ともに認めていることである。いまさらことごとしく言うまでもないかもしれない。第一、おカネのことをあからさまに大声で語るなんて、ハシタナイ、と眉をしかめるむきもあろう。特に「武士は食わねどたかようじ」の、下級武士のモラルと感性が浸透している日本の社会では、おカネもまた、性と同じ隠しておきたいタブーの側面を持っている。男と女がヤル、ということとは自明の理、自然であって、大マジメに「ヤル」ことを論じる

必要はない、みたいな性タブーと似た次元で、毎日使っているおカネの話は、誰もあんまりしたがらない。誰もあまり語りがらないのに、女は女風に男は男風にバッチリと異なる金銭感覚と対応の仕方を身につけるのが、わたしにはちょっと不思議でならないのである。女解放と、女のおカネの感性は関係ないのだろうか？　ほとんど、老若、思想を問わず、ことおカネの問題になると、「やはりオンナだなあ」と思うことが多いのはなぜだろう？　自分自身も含めて、自分と女への問いかけとして、わたしはこの問題から目をそむけなくなかったのだ。

オトコは黙って金だけ出す

わたしは、今年の四月、中山千夏さんと相語らって、「死刑廃止」という点でせっかく意見が一致したので、一緒に死刑廃止運動を始めましょうというので「死刑をなくす女の会」というのを発足させた。



なぜ「女の会」にしたのかというと、男たちの理屈っぽさ、小さなコップの中でも例外なく起こる覇権主義的志向、イデオロギー的運動論みたいなところであまり廻されたくないという思い入れからである。女たちで気楽にやろうよ、というぐらいの趣旨である。「でも、男のひとには賛助会員としておカネの面で応援してもらいましょう」ということでも、すぐ意見が一致した。何しろ男社会、男が経済の実権

を握っているんですから、おカネは頂きますが口は出さないでね、というわけである。

現在、約百人の会員のうち、四十人ぐらいの男たちが賛助会員になってくれている。年会費一口二千元以上になっているが、大口の一万円会員となると賛助会員の男性の方がちょっとだけ数が多い。

十一月三十日に、これは「女の会」だけの主催ではないが、とにかく、死刑廃止を願う人びとの総意を集めて品川公会堂で千人集会をやることになった。総額で印刷費だけでも十万円はするにちがいないポスターをカンパしてくれたのは、男のデザイナーである。

わたしは、これまで何の運動歴もなく、ただ単に死刑廃止論者だった、ということから「女の会」の発起人になり、生まれて初めて集会の「主催者」側に廻ったわけだが、主催者ともなるというの気がもめる。果して千人も人が来てくれるかどうか、というこ

とも大きな心配のタネである。だからこのところ、チケツト売りの「鬼」と化し、出合った人には見境いなしにチケツトを売りつけている。

十枚ボンとキャッシュで買ってくれるのが男なんだなあ。

「券だけ買って当日来ないってのはダメですよ。ちゃんと十人引き連れてきてくださいな」

などと悪タレをついても、ニコニコしている。何しろ会員は全国に散らばっているので地方会員にもポスターやちらしを送ったのだが、賛助会員から速達でカンパが舞い込んだりする。速達で、というのにまず感動して、思わずうれしくなる。そして、男ってかわいいなあ……と思ってしまう。

もしかりに、これが「死刑をなくす男の会」だったとしたらどうだろうか？

「女どもは口を出すな、カネだけよこせ」というような趣意書を配ったとした

ら、女たちは、たとえ死刑制度には反対だったとしても、リユービさかだて、「女差別」の団体だと怒るだろう。怒らない女もいそいそと賛助会員にならないことはたしかだ。わたしだってたぶん入会はしないだろうから。「女の会」だから、男たちは喜んでカネを出す。声援も送ってくれる。男も女もそれを不思議なことだとは思わない。

「借り方」人生で見えたもの

わたしは、若いときからあまり世帯持ちのよくない方で、二度の結婚を通算すると結婚歴は十八年余に上るが、そのあいだずっと共働きを続けていたのにも拘らず、預金というものはゼロだった。なにしろ、預金通帳なるものを持ったことがなかったのだ。離婚するときは、本を売ったり、生命保険を解約したりして、世帯を二つに分かつ費用を捻出したのである。

そういうわけで、住みなれた大阪を捨て、関東に引っ越してきたときは、

ポケツトにたった二十万円の現金があるきりだった。八歳の娘と二人、どうやって食っていこう？ とおそろしかった。そのおそろしさの余り、写真屋でもやるか、と写植業を開業したのであるが、手持資金ゼロで、まったく誰一人知りあいのいない土地で、自営業で商売をやるなんて無謀な思いつきを、よく実行に移せたものだ、いまふり返るとゾツとする。それでもどうか十年生きのび、娘も十八歳になったのだから、あながち、間違った選択だったとは言えないかもしれないけれど、窮地にあったわたしの、借金の求めに応じてくれる男たちが誰一人いなかったとしたら、あえなく母子心中……ということになっていたかもしれない。少なくとも、自営業者として、貧しいながら十年やり続けてこられたのは、男たちのおかげである。女友達と女姉妹しか持っていなかったら、まずダメだったろうな、と思う。わたしの妹たちはビタ一文わたしにはおカネ

を貸してくれなかったし、女友だちはいろいろ応援はしてくれたけど、十数万、ン百万となると女のおカネは動かない。わたしに「信用」がなかったわけではないと思う。世帯持ちはいい方だとはいえなかったが、自営業者の生活に踏み出すまでは、借金したり、他人に迷惑をかけたりしたことはなかったのだから。むしろ、日銭をケチらない分だけ、どういふつきあいにして、つきあいは、至ってよかった方なのだ。

「借り方」人生を生きはじめ、男と女の金銭に対する感性の差が、より明確に見えてきた、といえるかも知れない。

わたしはたぶん、どちらかというとおカネに対する感性が男、というか男に近い方なのだろう。だから、手持資金二十万円で商売をやるう、などといった思いつきを実行にも移したのだろうと思う。

競馬、競輪、パチンコといったギャンブルはやらないけれど、もしも男に

生まれていたら……という思い入れで語ると、わたしはきつとギャンブラーになっていたらうと思う。その素質を、ときとして自分に見ることがあるためだ。

ギャンブルはやらないけれど、賭ける、ということ、そのことはクライではないのである。大阪は泉州の産で、ギャンブルを許容する風土だったから、わたしの血肉にもそれが投影しているのかも知れない。

女にはない？ギャンブル性

日常のくらしの中で、くだらないことに賭ける。写植屋さんだから二ミリの四方の小さな直し文字を見失ったりすることは始終ある。これを探すのは難事業で、打ち直し、というケースになることの方が多い。

「十分以内に探せたら一万円やるよ。探せなかったら千円。この賭けに乗る？」

男はたいてい乗る。そしてわたしが

負ける、というのが定石である。三分間でサンズイのつく漢字が幾つ書けるか、と何がしかのおカネを賭ける。この賭けにも負けることの方が多い。男たちは、それが正しかろうがデタラメだろうが、めくらめっぽう書きまくるのである。あとで字引を片手に採点すると、バツテンも多いが、バツテンなしのわたしの方が数が少ない。「字を読む、書ける」という能力では、わたしの方に圧倒的な自信がある。テキもそのことは知っている。男の子たち（などといっても二十歳前後の青年たちだが）は、わたしが挑戦すると、だからこの「賭」から降りる、とは言わない。そして、一度勝って味をしめると必ず乗ってくる。女の子は最初から、こういう賭けには乗ってこない。「だって、丸山さんは書くのが商売なんだもん。わたしは字を知らないから」とビビってしまう。勝って取る一万円より失なう千円の方を防衛する。

ギャンブル外れることもある

わたしにとって、今年は大変な厄年で、もう、つらくきびしいことの連続だった。

まず、年頭からスナックをやるう、などと思い立ったのがつまずきの始まり。もちろん、わたしの本業は写植屋さんなんだから、写植屋とスナックを兼業したい、と思い立ったわけではない。たまたま、わたしのところに、

「居抜きみたいなかたちで、スナックをやりたいひとはいないだろうか」という話を持ちこまれ、店の権利金も何もいらない、そのまま、営業しようとするれば今日からでもできる、という話に、乗ってしまったのである。そんないい話はまたあろうか——というわけだ。いろいろな人に声をかけ、娘の友だちのお母さんのNさんが長いあいだ水商売をやっているのを思い出して、

“店を持ちたい”という夢を実現できるところチャンスではなかるうか、とすすめ

た。ついでに、わたしも一口乗りましよう、ひよっとしたら“客寄せパンダ”の役割ぐらいちょびりやれるかもしれない。そんなから、と身を乗り出したものだ。

Nさんには、わたしはひどく恩義を感じていた、という事情があった。何しろ、娘が高校へ行っているあいだ、三年間というものの「一つ作るも二つ作るも同じですから」と弁当を作り続けてくれたひとなのである。

「マーちゃん（わたしのこと）すごいよー、今日はカバ焼が入ってたわ」と、娘は毎日のように、報告する。

「残しちゃわるいと思って一生懸命食べるでしょ。そうするとだんだん量が増えてくるのよね。おなかギツくてパンパン。今日は晩ご飯少し減らさなくっちゃ」

わたしは、娘のこういう報告をきくと、もう感涙にむせぶのである。いまだき、そういう女がいるなんて、という感激。わたしは娘と一緒に、このホ

カホカと暖かい感激を暖め続けていたのである。ほんのちよっとでもご恩返しできれば……というのが主要な動機であった。

しかし、いくらなんでも、新しく店を始めるとなると宣伝費、什器や店内の改装その他もろもろのおカネがいる。前家賃プラス、前の経営者の借金返済の引き継ぎ費の月賦。

「おカネ、ありますか」

おそるおそる聞いてみると、ない、という。ないでしょうなあ。よその家の娘のお弁当作って、カバ焼だ、焼肉だ、と利害得失をはなれて、とにかくおいしいものをお腹いっぱい食べさせたい、なんてひとにはおカネはたまりませんよね、とこちらも悟るところがある。それに子どもが三人、食べ盛り。ダンナもやはり水商売で、クラブのマネージャーをやっているサラリーマンである。

わたしは、銀行からおカネを借り、スナック専用の当座を開き、酒屋にツ

ケがきくよう手配し、マッチや開店のアイサツ状をつくり、その他もろもろ、経費センブ、丸山友岐子負担の共同経営のスナックが店開きしたのである。わたしは、何度も「三カ月で全面的にテツタイする、あとはあなた達でやってくださいね」と念を押していたのだが、こういうわたしの発想、企画、実行は、すべて、わたしのカラ廻りだったことは、オープンの日から明らかになったのである。

オープン前は、おにぎりもつくりましょう、カラアゲもつくりましょう、おいしいお漬物も……と夢をふくらませてくれていたはずの相棒（というより主役）が、

「オープンの三が日は四時からいいわね。あとは五時に入ればいいでしょう」

と、のたもうたのだ。

六時開店で四時に来て何ができるだろう？ 掃除、仕込み、煮物、その他、限りなく準備しなければならないこと

がある。それは、シロートのわたしにもわかる。

「だって奥さん、自分の家で二人三人お客さんに来てもらうのだって、二、三時間の準備はいるでしょう。まして、三十人以上ものお客さんにおカネ払って来てもらおうというんですよ。一時間や二時間で何ができるんですか」

そのひとは夕方から夜にかけてパートで小料理屋で働いていて、日常のそのペースをくずしたくなかったのである。

はじめから「経営者」になろうという意志はなかったのだ。店は持ちたい、しかし、店を持つということの意味すらわかっていなかったにちがいない。丸山友岐子の難行・苦行の始まりだった。掃除、仕込み、あとかたづけ、客の呼び込み……、ほんとに思い出しでもゾツとする。ま冬の二月・三月の二カ月、わたしは三、四時間しか眠る時間を持てず、ほとんど食わず、スナ

ックのママと写植屋のオバチャンの二足のワラジをはいてダウンした。共同経営者だったはずのNさんは三週間でママさんごっこを降り、もとのパートに戻った。そこで一緒にやめたら、わたしに残るのは百万円をこえる負債だけである。負債を少しでも減らすために、もう一カ月ががんばった。それでも六、七十万円は損したと思う。

続いて本業の方の得意先の倒産などといういろいろあって、今年はまったくついていない。

丁とでるか半とでるか

運まかせ

その上、わたしは、一昨年から「自主出版」で、自分の書いた本の出版を自らプロモートする、ということまで始めているのである。これは、いわば自主映画、自主レコードといったぐい、自作・自演・演出というチャップリン方式を「もの書きごっこ」に持ち込んだものである。社会評論社には

十%の手数料を支払って発売元になってもらい、発行はわたしが経営するライムライト（一応株式会社である）である。わたしが書いた本が売れなかったら、ライムライトが損をする。

「今日を生きたい女の性と生シリーブ」として七巻の予定で、毎年一冊ずつ、今年で三冊出版した。第一冊目が「わが愛と性の履歴書」で、今年三刷目の増刷をして計五五〇〇部を発行したことになる。無名のライターとしては、そこそこの実績だと思う。昨年出したのが二冊目の「ドアの向こう……」で、この本は、読みやすくハウトゥものの分類にも入るし、著者も出版社もイケルのではないかというので初版四千部刷ったけれど、前記のように芳しい成績ではない。三冊目を今年の九月に出版した。死刑囚の生涯を描いた「逆うらみの人生」である。わたしが書いたものとしては、内容がハードだし、この作品は、わたしが二十九歳のときに書いた処女作で、これまでに二

度出版されている。装いをかえて三度目の出版で、果して新しい読者と何人ぐらい出会えるだろうか？「売れるまい」とわたしも思ったし、出版社の予測もそんなものだった。おそろおそろ三千部刷った。製作費に百数十万円かかり、社会評論社の手数料を加えると二百二十万円はかったことになる。スナックの損失、不渡りなどのコゲツキに加えて、この本が売れなかったら、借金に借金を積み上げ、ライムライトは確実に破産する。胃が痛み、おカネのことをマジメに考えると眠れない。

ところが、発売後一カ月、おカネがないから何の宣伝もしていないが、かなり売れているのだそうである。少なくとも社会評論社のベストセラーだという。どうやら三千人の読者には出会えそうだ、と胸をなでおろす気持である。そういうことをおカネもないのにあえてヤル、そういうバカなオンナがわたしなのだ。やはり、ギャンプラー

の素質があるのは間違いない。わたしは、こういう自分の生き方を後悔はしていない。いまわたしが抱えているのは借金だけだが、借金を抱えているのはわたしだけではない。借金は死んだあとまで追っかけてはこない。おおかたの男はみなそう思って生きている。

わたしのような人生が決まっているとは言えない。しかし、おカネを自由に使いこなすダイナミズムをも自分の人生に取り入れてみる——そういう試みも、女解放の一つのテーマとして考えていいのではないか、とわたしは言いたいのである。

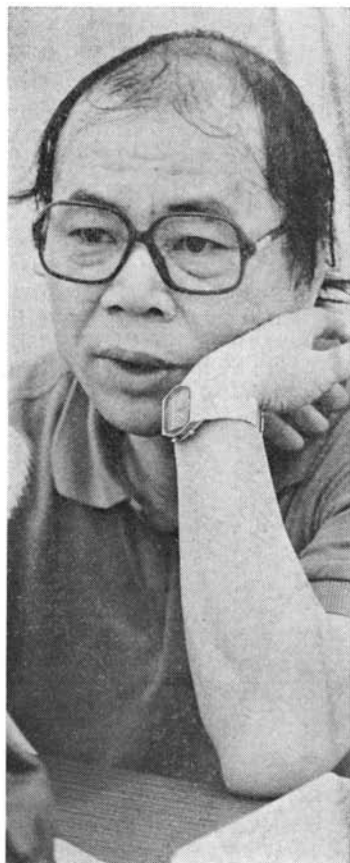


特集

インタビュー

和田勉氏

大成功！ 夫の月給の人民管理



「家父長などとはあほらしい限り、家父長的なところからは、決して仲間には生まれない」。すばらしき発想の大転回を決行した和田勉さん。不思議や、たちどころにケンカイライラから解放されて、女房、息子ともどもイキイキとしあわせいっぱいになってしまった。オヤジのケンイも亭主関白もいけいけ

ど、なぜかしっくりしない家族とのあいだ。そこで、「誰が食わせてやっている／＼」などなどと、威嚇してはみるものの、ますます深まる妻子とのミゾーあぐくの果ては、「粗大ゴミ」。近頃めつきりめだちはじめた哀れ惨酷トゥルーストーリーなんかとは、めでたくも無縁となった和田さんなのであった。

■家父長的心情さようなら

「物事をとりしきるとか管理するということばがあつて、それに心情を加えると家父長的になる。へ……」で、僕もご多分にもれず家父長的にやってきた。やってきたのだが、女房とも息子ともぜんぜんうまくいかなかった。主として僕がもらってくる月給の配分方法についてケンカとイライラがたえなかったのである。へ……」

興味をひいたこの記事は、三年も前の新聞の切り抜きだ。

書き手は、ドラマスペシャル「ザ・商社」など一連の辛口経済ドラマで知られるNHKTVディレクターの和田勉さん。

それから、和田さんはどうしたかというところ、「家父長的心情をキレイサツバリ放棄」してしまつたのだ。

それまでの彼は、自分の月給から妻に今月の生活費、息子に小遣いというぐあいに配分していた。つまり亭主である和田さんが家計をとりしきってい

たのだが、それをヤメたのである。だからといって、月給を女房に全部わす、つまり主婦が家計をとりしきるという日本サラリーマン家庭の類型的パターンに追隨したわけではない。

家族共通の「箱」を用意したのだ。

まず、月給全額をその箱の中に入れ、その中からめいめい必要なだけ金を取り、代りに簡単な領収書を入れておく。つまり、月給を誰かが管理するのでなく、家族みんなで共同管理しはじめたというのである。

それから四年ちかくたっている。果していかなる結果になったのか——ムラムラと湧きおこる好奇心にうち勝つことは難しく、午前は九時から夜十時までスケジュールびったしというウルトラ猛烈マン和田さんのデスクにおしかけたのだった。

■女房どこの大変身／

「大成功したんですよ、我が家ではノミんなが箱」の中からメイメイいるだけ金をとるわけだから、どのくらい金が

少なくなっていくか一目で見えるわけですよ。おかげでいかなるケンカもイライラもなくなっていました！」——モメゴトでも起ったのではないかと期待、イイエ心配しながら来たんですが……でもお金が足りなくならなかったんですか？

「足りなくなっても、みんなの責任。月末は、とにかくそれでやって行くより仕方がない。晚メシはインスタントラーメンですぐすとか、そんなことがズツと続きましてね。その結果、問題はお金ではない、というところに来たわけです。」

——？？

「働きはじめたんですよ。三人とも。僕はNHKですよ。息子はアルバイト、女房はバレエの衣裳とか舞台衣裳のデザインをやり出した。今は舞台の制作までやってますよ。」（草笛光子ワンマンショー「光の彼方に」制作ワダエミ・パルコ西武劇場で上演）

——！！ おつれ合いは「箱」以前ホン

トに専業主婦だったんですか？

「そうですね。それ以前は趣味でチラって程度……今は自由奔放ですよ。全員帰る時間なんてセンセン言わない、聞きもしない。今の状態が今までで一番いい……」

■金から解放される唯一条件

「あの記事書いたとき、光熱、電話、クリーニングに主食副食など、大体十七万ぐらいかかっていた。それ以降、物価も上ったし、家も引越したりでもっとかかるはずなんですがね。あれ以来センセン変らずなんです。それにあの頃、中一の息子の小遣いは五千元、いま高三になっても五千元。一銭の値上りもしない。文句も言わない」——一体全体どういうわけですか！？」

「息子はいまロックに熱中して、バンドを三つ作ってるわけですよ。だから外人アーティストがいっつも来日するかどうかという情報をかなり早くつかんで、青山、原宿とかの音楽事務所に徹夜で並んで予約券を手に入れ、それを売るわけで

す。すると一晩で四万ぐらい入る。小遣いなどいらぬわけだ。

人はアテにならないって、それぞれがそう思ったんです。お金に関して……。

しかし、いま考えてみると、ああいう「箱」を作ったということは、やっぱり一種の管理の思想かもしれない……箱そのものを置くということがね……一人一人の責任分担となつて、たしかに気はラクになつたけど、やっぱりお金というものに振りまわされていたんですね。第一段階として「箱」になつたわけだが、ホントはそんなことからもっと自由でなければならぬ……ただそのための唯一の条件は、家族全員、ほとんど日中は『家にイナイ』という形で働かないとダメです。」

■しみみふれ合う心と心

——ところで、和田さん、家事はどんな分担なさってますか。

「ゼンゼン。全くやってません。みんなが働き出してから家族揃つて家でメ

シをくつたことない、唯の一度も……」

——朝食は？

「朝はそれぞれ勝手に。三人の人間がいて夜一緒に寝てるってだけでですよ、共通性はね……」

——でも掃除とか洗濯あるでしょ。

「女房と息子のあいだで契約が成立して、掃除は息子がやってるみたいですよ。もちろん女房が支払つて。」

——それにしても、夕食ぐらいは一家だんらん家族揃つてって、いいですが。「何も家族だからって家で揃つて食べる必要はナイわけです。そんなことが家庭のよさなんて全然思わない。むしろそういうところでしか家族のコミュニケーションが成り立ってないってことが悲惨だと思う」

——「箱」以前は、給料の三分の二も女房に渡しているんだから夕食ぐらいは家で食べなきゃソンだと、ぜったい帰宅して食事なさっていたそうですけど、その頃と較べて今はどうですか。「そう……例えば、僕が夜一時頃帰る

わけです。と、息子が丁度腹がへってトントンと二階から降りて来る。そこでバツタリ顔を合わす。すると二時頃になって外で車の音がして女房が仕事から帰ってくる。真夜中の二時、三人会つてお茶をのんで寝る。……いいです。とても……。とても愛情を感じます。」

■いちばん不思議に思うこと

——女房が働き出すと、いいことづくめトクするばかりなのに、何で日本の亭主族は和田さんのように考えないで女房を家におしとどめようとするんでしょうね。

「企業国家だからですよ。つまり人間以外何もものないですから、日本は。会社とか企業は人間を管理しない限り存在できないわけです。男は一日中管理されている。だからせめて家庭ぐらいは、つてことでしょ。そうやってしまふ……だけど僕は、それはおかしいと思ってるんです」

——そして世の女房は満たされぬまま

家の中にとどまっているわけですね。

「なぜ女たちは家の中にいるのか。それは掃除洗濯とか、子どもや亭主の世話するってことが会社に勤めているのと同じように『仕事』と思ってるから、結婚というものを就職と思ってるからおかしなことになってしまふ。自分は『家』という会社を経営しているつもりでいるわけですよ。僕がいちばん不思議なのは、なんで家の中にいて面白いことがあるんだろうか、ってことなんです」

■なぜ女は反逆しない

——企業、そして行政も、家庭は再生産の場、男をブラッシュアップして翌日会社に送り出すことを期待していますね。大会社になればなるほど、専業主婦つきの男の働きを前提としています。それでも亭主のほうは会社人間であっても、働くことによるいろいろのウーマミはあるわけですが、家の中にいる女房がどんな気持ちでいるかなど考えてみようとしてもしないわけです。

「でもね。女が反逆しない限り、男を変えることはできませんよ。家に帰っても女房はイナイ、イという状態を作らないと直しようがない。今の一般的状況は、女の人がいろんなことをえつつもなんら反逆してないってことですよ。亭主の稼月給にたよっているからそうなってしまう——」

■ちよっとひとこと

「ドラマっていうと男と女、または親子、家庭問題が中心だけど……僕はいつもラッシュアワーの中で思うんです。早朝の人波はほとんど男たち、そして夕方のラッシュアワーも。今のドラマは朝のラッシュの前と、夕方のラッシュのあとしか描いてない。その間の時間帯は何だろうといったときに経済とか政治とかになる。朝のラッシュから夕方のラッシュまでの間を描こうと思った」

熱気いっぱいに語る和田さんは、来春一月九日から三回連続して放映する土曜ドラマ、松本清張シリーズ「けも

のみち」の演出にとり組んでいる。

「僕はウーマンリブってもの最もとめないです。なぜならそれをやる限り女は自立できないっていう考えなのです。男と女とは違うんです、誰が何と言ったって。違いを強調すればするほど同権になり得ると思う……」

今回のインタビューの中で展開したフェミニズム論議のやりとりは、残念ながら、頁の都合上割愛しなければならぬ。女と男はたしかに違う、だけれど「違いを強調すればするほど同権」などという考えが和田勉描くところのブラウン管の中の女にどう作用するか、チョット気にかかるどころだが、「箱」決行後の彼の業績が論より証拠で、杞憂のことと信じたい。

イキイキ働く女房の姿と、ドラマの中のヒロインが和田さんの脳裡でオーバードラップしたときに、かならずや、ほんとうの女性像を描き出してくれることだろう。

(インタビュー・まとめ 林 慶子)

座談会

かってみれば

主婦のうまみはどこにある

●出席者

| | 年齢 | 夫の年齢 | 夫の職業 | 子供の年齢 | 夫の年収 (税込) 600万 より | |
|---|----|------|------|-----------------|----------------------------|------------|
| A | 41 | 42 | 銀行員 | 14(男) 11(女) | 上 | 専業主婦アルバイト中 |
| B | 48 | 57 | 商社員 | 22(男) 16(男) | 上 | 専業主婦 |
| C | 44 | 45 | 会社員 | 18(男) 16(女) | 上 | 専業主婦アルバイト中 |
| D | 45 | 49 | 会社員 | 16(男)15(女)10(男) | 上 | 専業主婦アルバイト中 |
| E | 33 | 39 | 公務員 | 10(女) 5(男) | 下 | 専業主婦アルバイト中 |
| F | 38 | 39 | 銀行員 | 11(男) 9(女) | 不明 | 専業主婦 |
| G | 37 | 36 | 会社員 | 9(女) | 下 | 専業主婦アルバイト中 |

●司会 編集部

預けて大丈夫か？夫の気持

司会 ここに新聞雑誌の切抜きを持ってききましたが、こんな記事がありますよ。「家庭内で強まる主婦の発言力」

「電話料の使用は主婦が最高」「給料は封を切らずにもらう」「高額商品を買う決定権を握る」

それから「主婦たちのお手盛り小づかい」だ今急膨張中。月に二万三万はざらで、中には旦那より多い人もあるとか。「こんな額、夫にはみせられない」なんて言ってるそうで、(笑)小づかいとしてまとめて取っている人ではなく、家計簿のいろんな費目にもぐりこましているのね、それで目立たないけれども、洗い出してみると意外な額だというんですね。

A 中味は出てますの？

司会 ちょっと出てますよ。交際費、おけいこごとの費用……。

E それはすごいかかつちゃうわね。
司会 皆さんの実情と比べてみてどう

月給袋を預

女性の小遣い

| | |
|----------------|-------|
| 5,000円以下 | 2.7% |
| 5,001～10,000円 | 10.6% |
| 10,001～15,000円 | 5.2% |
| 15,001～20,000円 | 14.7% |
| 20,001～30,000円 | 15.6% |
| 30,001円以上 | 15.0% |
| 金額一定せず | 18.8% |
| 無回答 | 17.4% |

(ライフ・カルチャー・センター調べ)

表1 女性の小遣い

でしよう? 今日「月給袋を預かってみれば——主婦のウマ味はどこにある」というテーマで、みなさんが結婚以来、夫の給料袋の中味をどう使ってきたか。袋ごともらっていたか必要経費だけ渡されたか。お金をめぐっての夫婦の関係、互いの攻防戦というところを、率直にお話しいただきたいと思っています。

A こんな記事みると、いいことずくめみたいだねえ。

D その主婦の小づかいの話、私にはハァ、夢みたい……。

司会 昔の中国の手相術ではね、女の

手相は運命線(中指に向ってのぼる線)がまったく無くて、太陽線(薬指に向ってのぼる)がびんと勢いよく出ているのを最高としたそうです。それは働かないで大金が入る相(笑)だという。女の依存的な社会的地位をよくあらわしている話じゃありませんか。(一同ガヤガヤ、手相を見る)

D 私は運命線も太陽線もあるわ。

司会 私もそう。それは夫に頼らない相、というより夫が頼れない人。(笑)

たしかに金持の夫を持って、この切抜きにあるように、使いほうだい使うのはいいことかもしれないけど、そういう妻ははたして幸福なのか? そのへんも含めてお話しください。

B うちをあてがいぶちだから、そんな話は夢みたい。

C はじめからですか。

B いいえ、少なかった時は違うの。

D 収入が多くなると、全額渡さなくなるみたいね、男の人って。

B 結婚して十年ぐらい、夫は半分外

国生活だったんですね、長期出張で。行くときに、「つかってもいいですか」

ってきいたら、淋しいだろうからいいよっていったんで、実家におりましたから実家といっしょにタツタカ、タツタカ遊びに行つて、いい気になつてつかつてしまつたんです。

歸つて来たとき、いくら貯金があるかつてきいたから、一銭もありませんていました。そしたら、じゃアぼくが管理する。(笑) 取り上げられてしまいましたの。結婚十年目で。昭和三十八年です、たしか。取り上げられて、家計費として五万円くれました。

司会 当時としては多い方じゃないかな。

B でもジャンジャンつかつたのが急に五万円になつて、苦しかったですよ。もう人生まっ暗。

それからは自分のものを買いたときは、三つ指つてお金をくださいといわないとくれない。よほど理屈が通らないとくれません。私の洋服でもバ

ッグでも、買つてきてくれるんです、私に買わせない。

A それで気に入りますか？

B 気に入らない。(笑) ほんとに自分で買つてみたいです。私が夫の税金の申告をしにいくので、年収がわかるのね。だからあんなに収入あるのに、なぜもつとくれないかと思う。お金のことでしょっちゅう喧嘩します。

司会 多少自業自得というところがありますね。(笑)

D 私は結婚したの三十七年ですが、彼はお見合いのとき、月給が二万円だつて言ひまして、家賃が出ないのだから、これでやれるかつていわれたの。覚悟して結婚しました。そしたら三万一千円だつたわけ。

A 差額を着服して小づかいにしようと思つたのかしら。

D じつはそうだったらしいんですが袋のまま渡すんだもの、わかるじゃない？ (笑) 私としてはなんか奥床しような印象を受けました。ふつう見

合いではボーナス込みとか、税込みとかの収入を言う人が多いんですが、それを少なく言つたので、ちょっと他の人と違ふなつていう、いい感じ……持つちゃつたのね。婚約中デートのときもラーメン屋ばかりで、ほんと結婚したらこの程度の生活だよ、つて。

司会 それは奥さんの金づかい、家計管理のしかたについて、用心したのかしら？

D そうでしょうね。

司会 Bさんみたいに使われちゃ困ると……。

C うちもそうだったようです。会社で先輩たちがいろいろ智恵をつけて、はじめがだいだと……。デートのときは野球場ばかり、私がサンドイッチつくつて持つていく。喫茶店にも入りませんでした。結婚したら、家計簿を点検するのね。でも私は実家ですでに家計をやつていたので、むだということもちつともしないものですから、文句のつけようがなく、今ではまったく

任せきりになりました。

司会 ナルホド、あずける方の立場としては、用心したくなるものでしょうね。それから、収入が多くなったからといって、たくさんくれるものじゃないみたいね。

金の有る無しは夫と 会社と親しだい

司会 苦しいと思ったのは夫が課長になったときね。残業手当がなくなり、小づかいがふえた。それから今は会社が左前で、家のローンもあるし、じつにたいへんよ。結婚当初は共働きでとてもらくでしたが……。周囲をみると、夫が年取ってる人のほうが、フトコロぐあいがいいですね、うちのようにな下はつらい。

A うちも同学年と結婚したから、友達の間を見ればみんな課長だ何だっというのに、うちのばかりヒラで。

司会 連れて歩くにはいいけど。友達がみなジイさん連れて歩いてるのに

私ののは若い。(笑)

A 相手はバアさん連れて歩いているのよ？(笑)

司会 考えてみれば気の毒だ。

A でも年取ってからはいいのよ。年寄りとは結婚した人は早く停年になっちゃうもの。(笑)

E たとえ年取ってもうちのなんか給料多くならないわ。勤めた年齢がおそいから。ふつう二十二、三からつとめるはずでしょ、うちのは二十四から給料をもらいはじめたの。だから停年までの期間がひとさまより短いわけよ。

年齢になったら切れちゃうでしょ？総額からいっただろいぶん損。計算したことがあるの。(笑)

司会 それはそうね、二年分の年収といたら相当なものだね。

E でも今の若い人がやっていけるのは、かなり親がかりだからだと思うわよ。私もそうだけど。家賃を八万円出してもらってる、なんて人もいるけれど、私の場合は現物支給ね。(笑)

たとえば子供の入園入学には、たぶんこの程度かかったろう、という額をお祝い金としてくれるし、年に二度のもらいものの季節には宅送便で送ってくれるの。父が亡くなって足かけ四年になるけど、三年めまではまだ贈りものがくるのよね。だから去年まで、私はシイタケも海苔も味の素も買ったことなかった。ダンナのワイシャツを今年をはじめ買ってね、高いと思った。(笑) 父が出張してきたときは、おこづかいをくれたし……。

司会 給料でやってるとはいえない。

E そうなの。いろんな人にくわしく聞くと、たいていそうよね。

司会 甘い親が多いんだねえ。

E たとえば家賃を男の家で出しているのはね、家賃ぐらい出しかないとお嫁さんのほうにうんと出されたら、息子を取られちゃう、という考えなのね。(笑) 私のところなんか借金コンクリート(ローンのついてるマンション)でしょ、近所を見てると若いダン

ナなら自分の小づかい五万も取って、ローン払えば奥さんの手許には十万ありやなしやですもの。みんな親がかりなのよ。親が遠いところにいる場合、遊びに帰るときには旅費送ってもらうの。(笑)独身貴族を経験した夫だと、とても少いおこづかいではやれないから。

司会 私のところも若いとき、三分の一職業費になって苦しかったことがありますよ。

B うちではボーナスが出ると半分私にくれるんです。

司会 そりゃいいじゃありませんか。B ところが、使いみちをいちゃいちゃ言っ、許可してもらわないと使えないのです。

司会 いったんもらったものでも？

B ええ、そうなの。子供を塾にやりたいといっても、必要ないノとかいわれてしまっ。

C うちの会社は給料も最近まで銀行振込ではなく、ボーナスは会社の社内

預金に入ってしまうんですね。それでいくら残高があるかもわからなくて、ひとから不安じゃないかときかれたりしましたが……ボーナスはまったく夫の管理なんです。彼は数字をいじるのが好きで、それで株をやっているんですが、どうも損ばかりしているみたいなの。(笑)ある年末に今年のボーナスが株になってどうなったのか、ちゃんと書いてくれていてやりましたら、好きな数字ですから書いてくれました。そして去年よりお金が減ってしまった。そして去年よりお金が減ってしまった。(笑)アナタ、こんなことなら定期預金にしておけば、減ることはないのよ……イヤおれは儲けるためにやっているんじゃないんだ。勉強のためにやっってるんだ。(笑)もう、とにかく勉強の好きな人で、競馬やれば競馬の勉強……その勉強が蓄積されて、今では株式評論など書くようになってたのですけど……(笑)

司会 それならいいですね。

C でもそのためにたいへんなお金が

かかっているんです。(笑)

D 私の兄のところでは、会社の景気が悪くなって、肩たたきといいますか管理職の首切りがあったんです。そのときあによめが心配のあまりノイローゼなり、病院へ出たり入ったり……

司会 ご当人でなくて奥さんが？

D そうなんです。それ以来あによめは家計管理ができなくなって、兄がやっているんですよ。

C ああ、私のところも会社が悪くなって、首切りがありまして、賃金はカット、ボーナスは半分以下……もう私は心配で、お茶碗洗いながらこれからいっ、どうなってしまうのかしらとボロボロ涙をこぼしたことが、ありましたよ。

司会 なんだかちつともウマ味があるって話はないわね。(笑)ダンナが使っちゃったり、会社が左前になったり。

会社がちゃんとしてて、ダンナも心がけがよく、すっかり任されてるって

人はないの？ あなたそうじゃない？
A まあうちはそうんだけど……でも任されてるとかえって責任があつてむだ使いはできないわね。うちは銀行に勤めてて、その銀行に振り込まれるわけよね。（給料明細書はもらう）
だからなくなると、おろしてきてち

ようだいって、持ってきてもらうんだけど、やたらおろしてなくなっちゃ困るから、家計簿をつけて、赤字にならないようにしてる。夫の小づかい、今月は五万円よ、今月はちよつとほかに必要があるから三万円よ（笑）なんて言うんだけど、一しよに買いものにい



けば彼に出さしたり、ほんととはれだけ使ってるのかわからない。

司会 それでつじつまが合うの。

A 合わない。（笑）だからボーナスで埋めるの。じつにルーズ……。

夫が食費から追い出される

さちき家計

司会 皆さんの家庭の収入を、税込年収六百万で線を引いてみたら、それより上の人が多いんですね。今の日本の標準でいけば、この新聞記事にも主要民間企業に勤めるサラリーマンの平均年収が三百万とあるように、決して少なくはない筈なんですが、自由に好きなものを買ったりできますか。

D とんでもない。自分のものなんて何にも買えない。

A 食べ盛りの子供が三人もいたら、食費だけでも大変よね。

E 雑誌なんかののってるいろんな家計簿見てね、食費が納得できる数字であつたためしがないの。

うちは二人の子供がまだ食べ盛りじゃなく、十歳の上の子も少食の方で、毎日ごはんを二合炊いて余る家庭なのよ。だけど一汁三菜ぐらいで、アルコールぬきで、鶏肉や豚肉で暮らしていても、月に七万ぐらいはかかるの。

ところが、我が家と同じくらいの食費でやってた人に、ひどいことが起きたの。つまり、ダンナさんのセクションが変って、帰りが早くなったわけ。そしたらやっていけなくなったのよ。今まで、親子三人でしか食べてなかったわけよ。(爆笑)

A でもその場合、夫の小遣いは減るはずじゃない?

E ううん、彼は営業で、接待が仕事だったのよ。(笑)

A 社用族だったのね。(笑)

E そうなの。で、月末にすごい赤字になって、何でだろうって考えたら夫の食費が余計だったってわけなの。それで「あなたの食べる分はないのよ」っていったら、「そんなバカな……」(爆

笑) こんな具合だから、我が家もこれで子供二人が食べざかりになった、すぐ食費が二桁になることは目に見えてる。

D うちは五人で、十一万五千円であげるのが苦しいの。それでいて食卓に並んでいるものが、二、三年前に比べたらとても粗末になったなと感じるわね。

E 私もそう思う。結婚したての頃は亭主の給料が四万五千円だったけど、牛肉もおさしみも今よりもっと食べられたもの。

E 今の主婦たちがね、テニスをやったりして、いかにも優雅に不自由なく暮しているようにみえるけど、テニスってのは一番お金がかからない趣味なのね。最初にかかるだけで、あとは材料費がいらないからラクなのよ。だからテニスがかんだってのもわかるの。織物だとかアートフラワーなんかやってると、欲が出てきてもお金の方が続かなくなって、結局やめちゃう人が

多いのね。

器用な人でいろいろ覚えたくても、あれこれ習うのはお金がかかるからって、お花造りをやっている人には、コスモスだけ教えてとか、藤あみやっている人には、かごだけ教えて、なんていうふうに、あちこちつまみ食いさせてもらっているのね。

一見いろんな趣味に打ち込んでいるようにみえる人でも、かなり辛い思いをしながらやっているのよ。

妻の収入も家計を通そう

司会 結局どうやら、奥さんが給料袋をそっくり渡されていても、そんなにうま味はなさそうね。

C 自分で握っちゃったら大変だと思えますよ。私はね、男の人の方が長期的展望に立って経済のことが考えられると思うから、貯金とか大まかなことは、男性が管理した方がいいような気がするわ。

司会 それができる人ならばね。

D うちは絶対衝動買いしちゃうからダメよ。

G うちは飲んじゃうからダメ。

F うちは夫が管理して生活費だけあてがわれているからね、貯金がいくらあるかも全然わからないわけ。そうなるともう無責任に、あるだけ使おうって感じよ。服なんて買っていると浪費がわかつちゃうから、形に残らないもの、食べるとか、芝居見るとか、音楽会とか旅行に使っちゃうの。

A へえ——、そんなにやっていくの？ 食費や光熱費も入ってるんでしょ？

F ええ、入ってるけど夫は月の三分の一ぐらいしか家で食べないしね。なくなったら夫の財布からかすめ取るの。(爆笑) どうしても買いたいものがあったお金が足りないときはね、夫の銀行にツケをまわすの。

司会 銀行の口座から引き落させるのね。

F いいえ、主人のところへ集金に行

かすの。(夫は銀行員)

A それは子供のもの？

F ううん、私のもの。(笑)

A 御主人は文句いわずに払うの？

F 文句があっても皆の手前があるからね、そこでギャーギャーわめくわけにいかないじゃない？(爆笑)

司会 結局、当てがいぶちだと家計に全く責任をもたなくなっちゃうのね。

F それと同時にね、夫婦共有のもの、たとえば家を建てましようとか、家具を買おうとか、そういう気がまるでなくなるのね。むこうがボンと買ってくれるまでほっとけてわけよ。

司会 なるほどね、共有の家計って感じがしないわけね。

G 家計をまかされて自分で管理すれば、共有感が出てくるわね。足りなければ自分も働くとかね。

F 私は給料の全額も知らないのよ。

E 自分が働くという話が出たけど、奥さんがサイドビジネスをしている場合によく、奥さんの稼ぎは自分だけのお

小遣いになっちゃうたりすることが多いんだけど、それは、先号の「出世と女房」で目白三平が、家計は国鉄の給料だけでまかなわせて、小説を書いて得た収入は、まるまる自分の小遣いにしちゃったのと、同じ発想じゃないかと思うのね。

私は、奥さんのアルバイトでふくらんだ分も、やっぱり家計の中に組み入れて、たとえわずかでもそれによって家族全員が潤っていかないとそじゃないかと思うの。

ダンナの働くのは生活費のためで、妻は自分だけの小遣いを求めて働いていうのは、どうもヘンじゃないかって気がするのよね。

A そうね。その辺から、夫が妻の仕事を軽く見なしたり、妻が働くことに協力的でなかったりする態度も出てくるんでしょね。

A 本当にその通りだと思うけど、現在の私の場合なんか考えると、夫の収入を洗面器に一ばいだとすると、私の

取入はほんの一滴にすぎなくて、組み込んでも、あんなに一生懸命働いたものが、またたく間にあとかたもなく、どこかに消え去ったり吸収されたりして、家族にどう潤ってるかもさっぱりわからないのが残念だわ。(笑)

はじめてウマ味が味わえるのは

C 私は夫が死んだらどうしようかといつも心配しているんですけど、ふしぎなことに私の友達で、御主人がなくなってからすぐ生き生きして、お金もよく使うようになった人がいるのね。御主人が生きてらした頃は、彼がすべて管理して、彼女はあてがいぶちだったのよ。でも彼女曰く「あの人は貯めるだけ貯めて、一体誰のために働いたんだろう」って……。 (笑)

司会 男の人ってかわいそうな所あるわね。一生働いて死んじやって、そのあと奥さんがいい思いするなんてね。

A そうね。でも女の人の方も、夫が

ポックリ死んでくれなきゃ幸せが訪ずれないなんて面もあるわねえ。

司会 子供が「これでもしパパが死んだら、大変だね」っていったの。そして、たら当人、やっぱりわかつてるとみえて、「そうじゃないんだ。俺が死んだら、かえってらくなんだ」(爆笑) 生命保険も入るし、ローンもなくなる。

A 何だか生きてると悪いみたいじゃない。(笑)

F うちはね、夫がもう何年前にだけど、ガンを宣言されたことあるの。

司会 まあそれは大へん!

F 本人は知ってるかどうか知らないけど……でもだいたいわかって、自分の人生はもうそんなに、何十年もない、だから生きてるうちにできるだけ高い地位に登って、フルに生きたいという気があるのよね。お金も使っちゃおうという気になる。子供は一人いるけど、子供は子供、残してやろうとは思わないのね。

D 残す残さないじゃなくて、あなた

の老後とか、不時の費用とかは?

司会 もし将来、また再発したらたいへんよ。

F ガン保険に入ってるから。(笑)

司会 よく入れたわね。

F そうなる前に入ってたから。あれいいわよね。診てたのが銀行の嘱託医だから、「ほんとはこんなことできないんだけどね、保険金をとるためにガンを書いてあげる」なんてごまかしたの。ええ、ほんととはガンなんだけど、本人にはいえないでしょ? でもコバルトかけたりなんかして、わかるだろうと思うけどね。それで何百万か保険金が難なく下りた、それは私と山分けって感じでね、私は五十何万だからもって外国旅行に行ったの。(爆笑)

司会 入院の費用は?

F ぜんぜん掛らない、だって保険の本人だもの。

司会 何のためのガン保険だろうね。(爆笑。しばし静まらず)

(まとめ・早川裕子・和田好子)

主婦は「仕事をしない」人？

家事労働に給与の出る日がくるのだろうか

田中 喜美子

（一）

「国勢調査の用紙に記入しながら、オヤ?と思った主婦の方がきつというらしやることと思います。私もその一人です。」

というのは、主婦は休職者、失業者、学生と同じく、“少しも仕事をしなかった人”の項目に入っているのです。

（……）

仕方なく、私はその項目にしろしをいれましたが、何ともやり切れない気持ちです。（……）

主婦は用があるからこそ家にいるのです。国勢調査で、仕事の中に“家事”という分類をもうけても、少しもおかしいことではないと思います」

昨年十月七日のひととき欄に、こんな投書がのっていました。

主婦であるということだけで、「どんなに働いていてもしごとをしていない」人間として分類されるこの口惜しさ。主婦たちは、家庭の中で精いっぱい働いているというのに。実際、何人

も小さな子どもを抱えた若い母親や、手のかかる病人や老人の世話をする中年の主婦たちは、家の中で、朝家を出て夜帰宅する男たちよりもはるかにしんどいしごとをやっているのです。

折にふれ、事につけ、この投書に見られるように、主婦業を正當に評価されない怒りの声が、くり返しくり返し主婦たちから上がるのも、無理はありません。

テレビのキャスターをしていたとき、私自身もショックを受けたことがあります。同じゲストとして招き、同じ時間だけ出演する女性たちに対する、出演料の差別がひどすぎるのです。年齢も若く、とくに有名でもないゲストでも、ともかくも何がしかの職業——たとえば小さい地方紙の新聞記者でも——についているひとは一万五千円。

これに対し、たとえ主だったゲストとして出演しても、その人に職業がなく「主婦」というだけで、出演料は、五千円。何のかのと口先ではもちあげている、「主婦」に対する社会のホッペをはつきり見た、と思いました。

もっとも「主婦」でなく「妻」への評価は最近すこし上がって、今年の一月から、夫の財産に対する妻の相続分は三分の一から二分の一に、所得税の扶養控除も二十九万円と以前よりはふえました。でもこれは、主婦のはたらきを認めてくれたわけではなくて、

結婚における配偶者の株が子どもよりもあがっただけ。なぜって、妻が死ねば、二分の一の相続権は夫にもあるのですから。

もちろん、三分の一より二分の一のほうがいいに決っています。けれども主婦がこだわることは、それは、相続財産の取りぶんなどということよりむしろ、こんなに働いているのに、主婦の労働が社会的にみとめられないという現実なのです。

もちろん、よくよくひどい男でないかぎり、夫はそれをみとめています。子どもだって、みとめています。「うちのオカアチャン」がいなければわが家はまっくら、という家庭はいくらもあります。いや、あり過ぎるぐらいです。

それなら「主婦」が、職業として通用するかというと、実際にはいっこうにそうはなりません。「家庭の日」をつくろうだの、「母」の役割は大切だのと、甘い言葉をきかされるだけ。い

つたい、「主婦業」はいつになったら市民権を得られるのでしょうか。

(二)

さて、こうした苛立ちをしずめるために、よく使われるのが次のような論法です。さしずめ「イフ論法」とでもいいたしうか。

(私のやってるしごとを、もし、家政婦の日給で計算すれば、七千円。それだけじゃないわ、子どもの勉強をみてやる家庭教師代、月額二万円。もし、うちで洗ってるワイシャツをクリーニングに出せば、毎月五千円)

(わが家のささやかな家庭菜園。今年私のつくったこんなに新鮮なナスとトマト、もし、無農薬八百屋から買いこめば、一日五百円)

中ピ連で名を売った榎美沙子さんは(あの人どうしているのかなァ)引退するとき皆負いこんだといわれる一千万円の借財を夫に返すのに、「夜のおつとめも入れれば、妻の家事労働一月

七十万円。こんな借金ぐらい、一年そこいらで返してしまえるわ”と豪語した、ときぎます。マスコミの伝えるところだからほんとかウソか、信用はおけないけれど、このでんで行くところ「イフ」論法はとどまるところを知らず、娼婦を買ったら一回三万円（なのかしら？）とセックスにまで「もし」がつきまとい、主婦業の評価はべらぼうなものになってしまおうでしょう。

でもねえ。セックスも「家事労働」なのかしらん。いや脱線はしますまい。

この「イフ」論法、たしかに説得力があるのです。なぜなら、まさしく、もしも妻が病気で寝こんで家政婦を頼んだなら、昨日まで妻のやっていた家事労働にぼう大な金がかかりはじめるのは事実であり、一家がそのために崩壊の危機に瀕するなどはザラにある話なのですから。「もし」は架空の仮定ではなく、いつでも現実となり得る脅迫的な可能性を秘めています。それゆえ主婦は、この仮定の上に立って、

自分の働きは月収十ウン万円の家政婦にひとしいと思ひこみ、や々と落着きをとれどすのです。

実際、婦人学級などで、主婦を職業としますか、と問いかけると、約半数のひとが手をあげます。職業、と割り切るのをためらう人であっても、自分分は家の中で働いているのだから、夫が会社からもらう給料には自分も権利がある、と信じています。月給の半分は自分のもの、と主張するひとは多いし、六割、七割、いや十割まで自分のものだ、とまで言い切る人が五十人いれば一人や二人は必ずあるのです。そ



ういううに理由を聞いてみると、主人は私がいなくては食えることも着ることも、寝ることさえもできない、主人の生活一切は私が切りまわしているのだから、彼の月給全部が私のものです、とおめず臆せずいうのでした。

反対に、自分は夫の月給にほとんど権利を持たない、と控え目にいうひとままれにはいて、なぜかと問えば、結婚した前も後も、夫の生活は私によってそんなに変わってはいない、私がいてもいなくても、彼は同じように生活し、同じように会社に行き、同じような金をかせいでくるだろうから、と答えるのです。

どちらの妻の考えが正しいか、どっちの結婚生活のほうがベターか、などとここで議論をはじめるともりはありません。ただはつきりしていることは、ほとんどの妻が、自分の家事労働に対する正当な報酬として、夫の給料に対して権利がある、と考えているということです。

主観的にはこれだけの自信の裏づけのある主婦労働が、社会的にはみとめられないのはなぜなのか……。

法律の扱いを見てみましょう。別産制をとっている日本では、結婚前に財産協約を結ばないかぎり、夫の稼ぎは夫一人のもので、妻のものではありません。夫の急死で葬儀費用をおろしに銀行にかけつけた妻が、そのことを窓口嬢に知られたとたん、今まで自由に金をおろしていた通帳を使うことを拒絶されたという話でもわかるとおり、夫の財産は夫のもの、妻は権利がなく、あくまでも夫に委託されたかたちで彼の収入を使っているに過ぎないのです。

しかしこんなエピソードは、それほど私たちの心を動かしません。夫というものはなかなか死なない（ノ）のですし、おまけにたいいていの日本の家庭は円満で、妻は自由に夫の金を使っているのですから。

うるさ型の法律家や評論家が、いく

ら男女の不平等や女性の自立を叫んでみても、主婦たちには馬耳東風。夫の急死などはよくよく運のわるい、よその家庭の話なのだ……第一不幸に備えるためなら、夫に生命保険をかけておけばよい……。

求めるのはただひとつ、主婦業を、れっきとした職業として認めてもらうこと。そうすれば、もっと自信を持つことができるのに。どこへいっても、「主婦」の身分証明書で、一人前の人間として通用することができでしうに。

(三)

こう考えるのは、ひとり日本の主婦ばかりではないらしく、二三年前、西ドイツの主婦たちが、主婦業を職業としてみとめ、これに手当を与えよ、と政府に要求をつきつけたと新聞で読みました。政府に要求をつきつけるところがドイツ的ですよね。

日本でも一九七五年、大分県の一女

性が、家事労働を有償化する運動をはじめたというニュースがありました。当時「主婦とはなんだろう」というテーマが頭をはなれなかった私は、この動きを興味津々で見守ったのですが、二つともいっくりにその後のうごきが伝わらず、結局立ち消えになってしまったらしいのです。

どうして立ち消えになってしまいか、その理由が最近私にもわかってきました。

なぜって、どれほど多くのひとたちが、主婦業を社会的に評価してもらいたいと思っても、主婦を「職業」として規定する試みは、絶対に成功しないのだということが、のみこめてきたからです。

どうしてでしょうか。

家政婦ならこれは、れっきとした職業です。主婦業はとかく、例の「イフ」の論法で、家政婦業にスライドして考えられているけれど、実のところこの二つが似ているのは、やっているしご

との内容だけ。主婦と家政婦は、まったく違うものなのです。

家政婦はある家庭——雇用主はたいていその家の主人——にやとわれて、家事労働に従事し、一日数千円を受けとる労働者です。一方主婦は原則として、ある男に婚姻で結ばれている女——妻なのです。

では誰が、主婦をやとっているのでしょうか。夫が国家公務員なら政府？銀行員なら銀行？ そんなことはナセンスです。衆目の認めるところ、夫に違いありません。だからこそ妻は、夫の給料に対して自分の権利を主張するものではありませんか。

だが、ちょっと待つてほしい。

労働に対するペイは、当然その労働力の質・量に対して支払われるはずですよ。

例えば二十八歳の労働者の妻が、三人の幼児を抱え、一晩でいいからゆっくりに眠りたい——と思うほど、家事育児におわれているとします。

夫の給料は手取り、十六万円。家計はいつもピイピイで、妻の小遣いなど夢のまた夢。

四十八歳の大会社の重役の妻。夫の月収は手取り八十万。お手伝いさんが一人、こどもは大学生と高校生でもう手はかかりません。家事労働などは二次で、社交に、ファッションショーに、音楽会にと日を送る。

主婦の価値が、その家事労働ではかかるものならば、この二つの主婦のありかたは、どう考えても辻褄が合いません。



片方は、へとへとになるまで働いて、自由時間もほとんどなく、生活は貧しく、小遣いもない。

一方は、家事労働はお手伝いさんまかせ、時間もお金も思いのまま。

労働とそのペイとが、どう考えても釣り合わないのです。

これは特殊な例ではなく、実に奇怪なことに、主婦労働の報酬は、一般にその労働量と反比例するものなのです。考えてみてください。妻が子育てに忙しい若いころ、夫の収入は低いのです。家計費も苦しく、妻の小遣いどころではない。中年をすぎたころから、やっと少しは楽になり、子どもが巣立って学費がかからなくなったころ、どうにか自由になるお金とヒマが手に入る。

働かなければ働かないほどサラリーが多い職業。

働けば働くほど、サラリーが少ない職業。

これが職業といえるでしょうか。

もうひとつ。

専業主婦がいることで、夫の働きが成立しているならば、離婚した夫の給料は、以前とは変るべきなのか。独身者はどうなのでしょう。それから、キャリアウーマンで、自分自身が主婦である人の場合はどうなのか。

どのケースを考えてみても、専業主婦の働き分を、夫の給料の中に組みこんで給与体系を作りあげるのは、論理的に不可能なのです。

あれほど「主婦の働きが夫を支える」ともちあげているにもかかわらず、社会のほうではホネネのところ、主婦労働には無関心なのです。一人の主婦が有能か無能か、夫にとって有益か無益か、そんなことは原則として評価の埒外にあり、それゆえ主婦は「少しもしごとをしなかった人」に違いありません。社会にとって大切なのは、一人の男が実際にどんな働きをしているか、ただそれだけ。そして主婦はあくまでも、家庭という枠の中で、社会の動き

からはへだてられて生きている、別の世界の住人なのです。

主婦の働きを認めるのは、社会でなく、ただ一人、夫あるのみ。どんなすばらしい妻であっても、どんなに働く主婦であっても、夫がそれを認めなかったら、まったくの無意味。

それ故主婦の働きが、どんな形で報われるかは、ひとえに夫にかかっています。

収入の多い夫か、貧乏な夫か。出世する夫か、万年平社員の方か。気前のいい夫か、ケチな夫か。やさしい夫か、冷酷な夫か。

どんなに完璧に家事労働をやっているても、貧乏な夫から十分なペイはもらえません。ケチな夫、冷酷な夫からも、もらえません。

一般に、主婦労働の価値をまとめてほしい、と叫ぶ人は、主婦として納得のいく見返りを夫から受けていない場合が多いように思うのは、思いすごしでしょうか。

その反対に、夫から十分すぎる見返りを手に入れている人は、例えば次のようにいうようです。

『男性の働く社会とはそんなに楽しくすばらしいところなのでしょうか。男性諸氏はみな自分の仕事に生きがいを感じているのでしょうか。(……)』

技けるような青空の下、ハゲイトウの咲きほこる庭先にひるがえる洗濯ものを見ながら、そして、自分の時間を好きなことに熱中しながら、「よくぞ女に生まれけり」とにんまりしている女性もきつとたくさんいると思うのです。人間の価値観は十人十色、お金が第一の人もいれば、外に出て働くことが第一という人もいます。私はまず自由な時間と空間があれば満足という人間ですから、主婦業とは相性がいいのかもしれない。

自由を享受するためにこれは職業であるとか得て主婦業を遂行すること、その上で、自由な時間を生み出し自分

自身のために使う喜び、これはこたえられませんか。せっかくの自由をむざむざ手放してなるものかと思うのです』
(後略)

(朝日・ひととき欄)

楽しい生活、豊かな生活、そして何よりも、自由で安易な生活。主婦といふのも悪くはないなァというホンネがここでは堂々と語られています。このホンネの上に、「経済自立だけが自立のすべてではない。勤めに出ている男たちのどれだけが、精神的自立を得ているか」とか、「家庭こそ現代の管理社会の中の唯一の解放区。生きがいの喪失を語る主婦は、自分に与えられた自由の使途を知らないのだ」など、さまざまな立派なタテマエが構築されているのではないのでしょうか。

話をもとにもどしましょう。主婦業を社会的にみとめてもらいたい、という私たちの願望は、実現されることはできないのです。私たちの働きを家政婦業にスライドすれば月収十ウン万円、それ故主婦は職業だ、と架空の議

論でごまかされるのはもう願ひ下げにしようではありませんか。そうではなく、同じ働きをしていても、家政婦ならば社会的に職業としてみとめられて報酬を受けるけれど、主婦であるかぎりそれは絵空事にすぎないのだ、と考えるほうが正しいのです。

現代の主婦は一人の男に従属する妻という存在である。

この単純明快な事実を忘れるとき、すべてが混乱してしまいます。

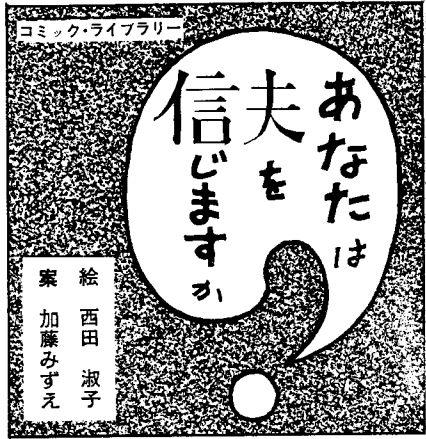
主婦の労働の価値は夫でまゐる。

主婦業への報酬は、そのひとがどんな男と結婚しているかで決まる。

この現実には、女が専業主婦でありつづけるかぎり、いつまでも変わることはないでしょう。明治の末期、徳富蘆花のいった「女ほどあわれなものはない。一生の禍福は他人に依る」という言葉は、現代でもまだ生きているのです。

(カット・松本をきえ)







とはいもうものの：ラブホテル：ワイセツ
行為：だんだん彼が信じられなくなった。



夫に叱られ、腹にすえかねて、近くの
日野警察へ...



クリスマスと子供たち

高宮みか



入谷さんという友人がいる。家族ぐるみのおつき合いだが、そもそも私が彼女と知り合ったのは、お互い最初の子供を小学校一年生に入学させ、新米父母として初めて息子たちの教室で担任の先生と向き合った時である。仙台の小学校だった。

その日は、おきまり新学期の自己紹介、そしてクラスの世話役を決めることになっていた。小さい弟か妹、お年寄りの居る家庭はその由申し出れば役員の免除を考慮するといわれていたのを幸い、順番が廻って来て立ち上った彼女は、下に年子で弟が二人続いておりますと結んで席に着いた。次が私の番である。私は氏名を名乗ったあとと彼女の口調をすっかり真似て、下に年子で妹と弟が続いておりますといいつて座った。教室には「へえー」とも「ほうー」ともつかぬざわめきが拡がり、彼女が後ろをふり向いてニコッと笑った。それが私たちの出会いである。

五月になって母子遠足があり、また会った。前からのお友だちのような気がする、という私の言葉を受けて、私は先日が初めてではない、と意外なことをいう。聞いてみると、誰一人知り合いのいない仙台へ来て、街で初めて声をかけてくれたのが貴女だった、といわれ、そう聞いても思ひ出せなかった。子供さん達年子？ 私も三人年子の子供がいるの、といったのだそう、そこまで聞くといつかバスの中で、誰かに声をかけたことがあったような気がして来た。

昭和四十八年、オイルショックの年のことである。私たちは家を建てていた。工事は遅れるし、子供の転校に神経をつかっていた。そんな話を彼女にもらしたところ、なんと彼女一家も同じ郊外の団地にできた、会社の新しいアパートに越さなければならず、街に残るか否かで迷っていたのだという。私たちはたった三日違いで同じ団地

へ、子供たちは同じ小学校へ転校した。家も近くなった。

それから昭和五十一年三月に私たちが山形市へ、彼女の一家が札幌市へ同時に転勤になるまでの三年半のことである。

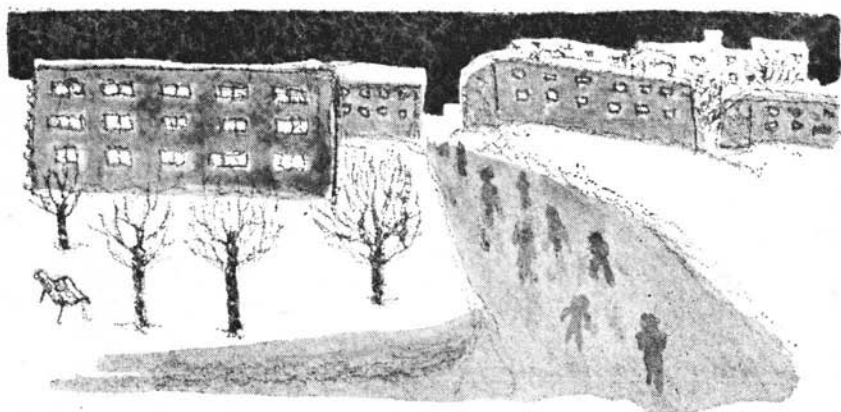
三度、クリスマスがやって来た。どういうわけか両家の御令息、御令嬢計六名共、サンタのおじいさんの存在を信じて疑わないのである。「うちの子たち、いい加減幼いと思っていたのだけれど、まあ、お宅も同じということなので、可愛らしいということにでもしておきましょう」「アハハ、子供が可愛いのか、親が嘘うまいのか」ともかく今時の子供にはめずらしいので親もなんとなく満足で、いろいろ彼等の夢を破るまいと努力していたのである。

眠っている子供のところへサンタのおじいさんはプレゼントを持って来てくれるのだと教育してきたので、子供たちもその日ばかりは早々にベッドに

入る。それじゃあ、親は親でイブを楽しもうということになり、入谷夫妻がやって来た。「子供たち、寝かして来た？」「ええ、家の子たちエレクトーンでホワイト・クリスマス弾いてやると、終りまでいかに内に全員スーッよ」「へえ……。家ではお父さんがポリュームいっぱいレコードかけても起きて来たことないし、習慣というか、しつけというか、結局は親の都合の良いのが、良いしつけというわけかな」などといい気なことをいって笑っている内に「ママ、僕たち早く眠りたいのに隣りの部屋がうるさくてちっとも眠れないよ」と我が家の子供たちから苦情が出た。

「よし！ 僕にまかせて下さい」と入谷氏が子供部屋に立って行った。やがて、入谷氏のハミングでホワイト・クリスマスが流れて来た。

一回目、やわらかく、くりかえし、もっとソフト、もう一度、消え入らんばかり……。入谷氏が足音忍ばせて立ち



上り、ドアのノブに手をかけたその時「アハハハハッ」「キャハハハハッ」と、すっかり目が覚めてしまった子供たちが、こらえ切れずに笑い出した。私たちも大笑いしたが、「他所の家の子は思うようにならんもんだなあ」と入谷氏がしょげて部屋から出て来た。私たちは、急いでレコードをかけた。ボリュームいっぱい。

クリスマス・プレゼントは、サンタのおじいさんへのお祈りのお祈りで決まる。何をお願いしたか、それを聞き出すのが相当の苦勞である。せっかく聞き出した後で、やっぱりあっちにしようなどとお祈りをしなおされると、また困る。買物をして来てしまった後だったりしたら、なんとか撤回してもらわなくてはならなくなる。そんな時は「ちょっと無理じゃない、サンタのおじいさんもうサンタの国を出てしまった頃だと思わよ」という。すると必ず渋々ながらもとへもどす。

ある時、娘のプレゼントに買いおきのジープもくわえてツリーの下に置いた。翌朝、娘の興奮した声で起きた。「ママ！ サンタのおじいさん、私がお願いしなかったジープもくれたよ」「ママの買ってくれるのより私にピッタリだよ！ でも、どうやって洋服なんかプレゼントしてくれたんだろう？ デパートで買って来たのかな？」と大真面目なのである。

「あら、だってサンタの国にはサンタのおじいさんのお友だちの、サンタのおばあさんがたくさん居るもの。作ってくれたんじゃない？」「ああそうか。来年からは私、お洋服も頼むことにするね、ママ助かるでしょ！」なんだか段々こちらがアホらしく思えて来たのは、この頃からである。

入谷家は、クリスマス・プレゼントのお願いは手紙である。ママにあずけると切手をはってポストに出しておいてくれるのである。



そのクリスマス・イブ、夕方から大雪になった。子供たちが早々に眠ってしまってから、プレゼントをかかえて帰るはずの入谷氏は、団地の入口にある急勾配をのぼれなくなったバスから降ろされて、やはり一緒に降ろされてしまった他の乗客たちと、雪の坂道を歩き始めた。あちらでハイヒールのお姉さん、こちらでキーキを持ったお父さんが、スッテンコロリンやるなかをそれでも頑張って大きな尻もちもつかずに無事帰宅したはずだったのに、なんと、一番上のお兄ちゃんの望遠鏡をどこかに落して来てしまったらしいという。無くしたプレゼントの代りについて随分私たちも考えてあげただけけれど、「まあ、なんとかしますわ」と二人はトボトボ帰って行った。

翌朝、子供たちが入谷さんに電話をしていた。「サンタのおじいさん来たの？ え？ 明日？ ふうん」聞いてみると、サンタのおじいさんの置手紙があったという。「今夜はとても忙が

しくて君等の分は明日になってしまごめんね。でも必ず持ってくるから待っていて下さい。サンタクロース」一日遅れたけれど、プレゼントは届いたという。

上の子が小学校三年生にもなると、友だちの影響大である。「君んちにサンタクロース来た？」 「バツカだなあ、サンタクロースって、本当はお父さんとお母さんなんだってば。おれんちなんかサンタクロース来ないよ」「僕んちにはきたよ。証拠見せようかホラ、サンタって書いてあるだろう」私も興味シンシン、我が子が友だちに負けじとサンタクロースの証拠を示しその存在を証明しているところへ割り込んでのぞいた。なんと、私が○○ちゃんへ、サンタよりといい加減にマジックペンで書いた字を指し示しているではないか。その後、数年私はこの証拠だけは必ず残すよう心がけた。「いくらなんだって、デパートの包み

紙のまんま、そんな名前ばっかり書いてそれでサンタからのプレゼントと思いい込むってことあるかね」などと横やり入れられようとなんだらうと、「いいえ、いいんです!! これで」

——××ちゃんへサンタより——

そしてとうとう親の方が根負けする時が来た。上の子が、とても信じ難いことだけれど、十二歳にもなろうとする頃である。子供たち三人共が、なんとなく半信半疑になっているのは分っていたが、それでもまだ「ママ、ママなんて助かっている方だよ。ほかの家はプレゼントはお父さんとお母さんがくれるんだってよ」などという。(ええい面倒だ、本当のことをいっちゃおう)という気持ちになって「ちょっと、みんな、本当のこというけれど、サンタクロースなんて居ないのよ。今までのプレゼントは全部、お父さんとお母さんがあげていたのよ」と、いってしまった。

「分っていたよ」と、うそぶいたのは一番下である。五年生になった娘は「ママ、そんなこといわないでくれれば良かったのに」と、本当に泣き出した。

そして、天下晴れて「メリークリスマス」

夜が明けて、枕元に置かれた親からの初めてのプレゼント! 希望通り、一番上の子には腕時計をプレゼントした。包みを開いて待望の腕時計をそこに見出した息子、「ママ! 僕また分らなくなってきたよ、ママが腕時計なんかくれるはずないもの!」

入谷正代さん、この拙い一文、貴女と貴女の御一家に捧げます。そして、わいふ、続けて読んで下さいますか? 昭和五十六年九月。

(イラスト・早乙女光子)

月刊 教育の森

12月号 発売/
定価●480円
発行●毎日新聞社

◆特集…なだいなだ／田中澄江／吉岡たすく
子どもを“叱る”真の意味!

シリーズ●教科書問題の舞台裏……………太田 弘
これが教科書売り込みの実態だ

◆対談……………陣坂康隆／樋口恵子
亡国か興国か女子学生

●アメリカ教育委員会見てある記⑧依藤子
市民参加で官僚主義の解放へ

●「学びの場と人」風土記(最終回)高瀬善夫
北海道家族学校

●保健室からの報告(最終回)…渡辺喜美子
精神不調に悩む高校生

落合恵子の子どもの本だな

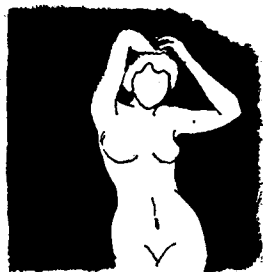
避

妊

パート

III

広戸きくみ（大分市）



夫は二年前パイプカットしました。長男を出産後ピルを飲み、長女出産に際しては、妊娠四カ月前にピルをやめコンドーム使用、薬害がこわかったからです。基礎体温まで計って、四、五月生まれを計画、四月生まれは受胎期にもかかわらず失敗、女兒を望んでアレコレ手を尽くしました。女体内が酸性であるとか、精液がうすければとか……翌月、めでたく妊娠。
なにしろ、排卵期と夫の休暇が合わなければならぬので幸運でした。なぜ、四月か五月にというと、長男の時

は夫が乗船中の淋しさから、一日も早く子供が欲しいということでお産日なんか考えもしなかったのです。二月の寒い時期に生まれて、保温に苦労しました。早生まれは、就学後二年ぐらいは大変ではないかと思ひ、次の子はぜひ四・五月生まれにと決めていたわけです。

避妊を夫にまかせるのは、信用できずピルを用いたのですが、私はつわりがひどいため毎月飲み始めの五日くらい吐き気がするのです。それでも万が一を考えると夫にまかせられませんでした。

した。大体男なんて、「できれば中絶すればいい」と軽く考えているもので、コンドームだって、女性の方が「大丈夫？」と念を押さなければ忘れてしまうこともあるのでは？ いつもヒヤヒヤして不感症になりそう。ピルをやめた四カ月間、下手をすれば冬に出産ということになりかねない、と夫に禁欲令を出したいくらいでした。

さて、計画通り五月に出産、六月に一カ月検診に行った時、リングを入れました。この産婦人科の医者はただ近いというだけで選んで、長男の時もお世話になったのですが、医者、看護婦兼事務員一名、通いの助産婦一名という小さな産院で、うわさでは、生ませるより中絶の方が多いということでした。長男を産む時も（何か卵でも産みたい）陣痛の波がくるたびに「よし、いってみよう」などと、なんとも医者らしからぬお言葉、しかも通いの助産婦がまだ来ていない早朝だったので医者一人、産室の割りに小さいスト

ープで私はガタガタふるえっぱなしでした。

話が横にそれましたが、リングを入れる時「絶対、マスイをして下さい」とお願いしたのに「アンタ、四国だったネー、で兄弟は何人？」などと、関係ない話にごまかされ、それほどの痛みもなく無事入りました。ところが、リングは十人中二、三人は体質的に合わないとかで、私はその一人だったらしく、生理痛のような痛みと、出血が止まらず結局、二カ月目に出してしまいました。その時は、しっかりとマスイをしてもらいました。目が覚めたとき、隣に中絶した人が寝ていてウンウンうなっていました。

その後、再びピルを飲み続け、体に悪いといわれながらも中絶の危険や罪悪感に比べれば、ずっとマシと笑いとばしていました。それでもこれから先、何十年も飲み続けることを考えるとうんざりするし、吐き気はあいかわらずだしで、夫にパイプカットをす

めました。

むろん、「ウン」というはずはなく、同僚に三、四人手術した者がいるが精力がなくなっただけだといっているとか、もし子供が死んだらどうするとか、ああでもないこうでもないと言いわけするのです。

ならばと機関銃の如く応戦「他の乗組員に聞いてみてよ、どこの奥さんがピル飲んでるか。体にいいはずないと思いながらも、あなたが信用できないから飲み続けているんじゃないの。もしこれが原因で死んだら化けて出てやるから、それに子供に何かあっても三十代ならともかく、四十や五十になってもまだ子供作る気なの？ チャンチャラおかし。いったい誰が産んで育てるのよ。あたしや、まっぴらゴメンだわ。精力がなくなるって？ そんなの気持の問題よ。昔、ヨーロッパでは若返りの手術として流行ったっていうわよ。ダメになった人でもパイプカットしたら立つようになったって、要する

に強くなると思えば強くなるしもうダメだと思えば本当にダメになっちゃうのよ!!」

ビルはやめて、仕方なく夫が避妊、ベッドイン後毎夜ツンツンケンケンと冷たくあしらひ、生理日が遅れるたびに「今度は絶対できちゃったみたいよ、どうしてくれる!!」と脅迫し、夫もとうとうその気になりかけた。

あと一押し、手術後抜糸までの一週間アレができないので、「乗船中に行なったら?」「バカいうな、万が一船が沈んだら泳げないじゃないか」アホか、そんなもん。本当に万が一だ。

例の医者に聞けば、女性が手術すれば一週間くらいで退院できるけど、費用は十数万円。男性の場合は局部マッスルで二十分、費用は二万五千円。これはなんとしても夫がやるべきだ。第一、女性の出産のとき命がけなんだから……あの陣痛の苦しみに比べら、蚊がかんだようなものではないか。(夫は子供が生まれるとき二回とも船の上)

「行け! 行け!」とせめたてて乗船した二日目、船舶電話にて「決心した。医者に連絡しといてくれ」バンザイ。

ブスツとした夫を車で迎えにいき、いざ産院へ。本当に二十分ほどで終わった。再び船まで送って「船が沈んでもハラワタが出てしまうような傷じゃないでしょうが」と私は終始ニコニコ。

さて五日後電話でいうには「抜糸に行くから迎えに来て」「あなたまたそんな小汚ないモノ医者に見せるの?」自分で抜いて赤チンつけとけばいいのよ」左右一針づつなのです。彼は生れて初めて切ったり縫ったりしたのです。

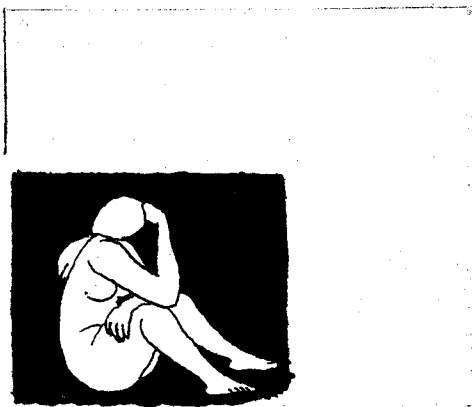
私は高三のとき自分で運転していた車ごと二米くらいの川底に落ちて、右手首十四針縫ったのですが、抜糸後一年余りで残っていた糸が出てきたとき授業の眠け覚しにセコセコ抜いた。足にも八針、計二十二針分縫った跡があります。(こんなこと自慢にならない)。あれ以来、精力が弱くなるどころか

元氣そのものの、「浮氣するぞ」という人もいるけれど(本人もいってた)、どうぞ! 朝帰りしてみれば、私も子供もこの家にはいませんよ。

ほしけりや、浮氣の相手にくれてやります。それにある日突然「この子を認知して」といって来られる心配もないわけです。

めでたし、めでたし。

(カット・松本をきえ)



私のPR



どなたかいいかたいませんか

当方昭和三十一年二月生男性、
大阪大学大学院理工科系卒。川崎
市会社員。希望は、四年生大卒の
一歳以上年下のお嬢さんが条件で
す。(わいふの妹さんでも)

紹介者私は、男性の親と友人で
大阪出身のため、頼まりました。
結婚のため会ってみたいと思う方
は、自己PR文を附して、家族書
履歴書を写真(スナップで結構)
とともに左記へ送って下さい。

〒230 横浜市鶴見区上の宮一ノ一
八ノ七 平出田鶴子宛

経理の仕事手伝いします

簿記一級、ソロバン二級、週二
日出社でき、毎月試算表作成まで
いたします。経理事務経験十年。
飯田順子 TEL 03・909・三〇
二六まで連絡してください。

ヨーロッパフラワー

教えます

季節の生花を使った伝統あるヨ
ーロッパのフラワーデコレーション
(いけばな)です。

明治の頃にヨーロッパ文化の一
つとして、日本に入ってきました。
長い間、花屋さんの専門の仕事
でしたが、戦後の生活の洋風化に
ともない、家庭の中で楽しめるよ
うになりました。

家元制にとらわれず、基本の技

術をマスターして、自分の個性と
センスで自由に仕事をやってみま
せんか。PTAその他、サークル
単位のクリスマスデコレーション
の一日講習します。

連絡先 世田谷区松原一「十八」
十六

フラワーデコレーター高橋美智子
TEL 03・323・六九三八
電話は夜九時―十時の間に。

私がすすめるアルカリ

食品スピリナをのん

でみませんか

弱アルカリ性に体質を保ち、ビ
タミン蛋白の宝庫であるスピリ
ナEは、赤ちゃんからご老人まで
一家揃って飲んでいただける安全
な食品です。病気の方の栄養補給
に効果的です。詳しいことはお電
話ください。小松雅子

TEL 〇四七三・26・六八一四

★情報コーナー

「遊んで育てる」

読んでみて下さい

身近な道具で、身近な場所で、親と子が一緒にたのしみながら、子どもの潜在能力を伸ばしていこう……そういう思いに溢れた子育てガイドブックです。著者はアメリカのバーバラ・J・テイラー。訳者は、主婦をメインメンバーとする七人のグループ、うち三人はわいふの会員というのもうれしい偶然です。

(友松悦子)

いま、子育て最中の方、ぜひ読んで下さい。きっとあな

たの視界が拡がることと思います。お申し込みは「わいふ編集部」へ。送料は編集部で負担します。(BOC出版部刊千二百円)

TEL 280・四七七一

「死刑をなくす女の会」発足しました

人間として、死刑制度を憂うべきものと考え、何とか一日も早く、この制度をなくしたい、と思っている女たちが集まり、「死刑をなくす女の会」を発足しました。

なぜ「女の会」なのか——ということとは、男主体の会は数多い、たまには女ばかり女流一辺倒でやってみようかとなったからです。あくまで個人参加が条件です。

気楽なおしゃべりをふくら

ませ、学びあいながら、死刑という刑罰を一日も早くなくす方向へ、ともに努力していきたい、と思っています。

死刑廃止実現の波を高めるために、あなたの参加を心から呼びかけます。

会費 年一口 二千元

振込先 〒160 東京都新宿区大久保一―一三一―一九 コスモスマンション二〇一号 ライムライト内『死刑をなくす女の会』宛・郵便振替口座番号 東京9―96158

(丸山由岐子)

わいふ会員の

フランス料理の店

「わいふ」の会員が本格的なフランス料理の店をはじめたというので行ってみました。京王線の下高井戸の上り電車

の駅前からたった十米、果物屋の二階でとても便利です。

味は本格的、そしておねだんが安い。ワインも吟味してあってすばらしい食事を満喫できました。名前はレストラン・ジョリコック。女が主になって作っているこんなお店がだんだん増えていくのが嬉しいです。クリスマスパーティーなどに出かけてみませんか? 雰囲気のある店です。

TEL 324・一七三七

アサーティブトレー

ニング参加者募集

女が「いきいきと私を生きる」ことのむずかしさを知らされる毎日です。つましやかに生きてしまっているうちに自分らしさを見失ってしま

いそです。自分の手の中に私を乗せてゆっくりあじわうような時が欲しいですね。

「アサティブ・トレーニング（自己主張訓練）」を、横浜中心に始めます。自己主張は、わがままや相手に対する攻撃とは違います。自分の本当に望んでいることを知り、自信を持って発言し行動して行こうとする一つの方法なのです。参加者を募集します。

日時 二月五日より毎週金曜
AM 9時30分より2時間 13回
定員 12名

場所 横浜市婦人会館
費用 七千円（13回分）

（河上友子・川口ひろ子）

TEL 045・953・二六二三 045・
242・〇二五六

「女たちは戦争への道を許さない！」

いまヨーロッパでは、反核デモのうねりが空前の勢いで高まっています。米国の中性子爆弾の生産開始や、ヨーロッパが限定核戦争の舞台になり得るということへの怒りと恐怖にせき立てられた抗議の輪は、「核戦争の脅威にみんなで立ち上がろう」という合

い言葉のもとに人口二八万人の西独の首都ボンを三〇万人ものデモで埋めつくすほどの規模で各国に広がりつつあります。

私たちも、昨年十二月七日に初めての集会を開いては一年。以来五月二日に憲法改悪に反対する集会、八月十五日には反戦マラソン演説会などを開き、戦争への道を許さための活動を続けてきました。「黙して再び戦争の加担者とならぬよう、いまこそ行動を」との呼びかけは、女性

たちの深い共感を得、全国にその輪が広がっています。

しかし、私たちをとりまく情勢は戦争への危機をはらんで、とどまるところを知りません。教科書からは原爆の図が削られ、防衛白書は「守るべきは国家体制」「愛国心」や民間防衛体制の必要を打ち出してくる有様です。

世界の声と私たちの声を響かせ合っていくために、十二月六日（日）ヨーロッパとベラウから、反核運動を担っている女性を招いて集会を開きます。ぜひ参加して下さい。

●時 十二月六日（日）p 一時

●所 日比谷野外音楽堂

●参加費 三〇〇円

連絡先 文京区本郷一―三三―一東京プロダクツビル2F
「戦争への道を許さない女たち」の連絡会

TEL 八一六―二〇五七

書店にない本

あります

書店で売っていない本をあつかっています。興味のあるかたはどうぞ。

「じゃんびんぐまうす」おおえまさのり訳・画（一八〇〇円）アメリカインディアン伝説をもとにおおえ氏が版画を作り、手刷りしたものです。

「バツチェラ君と星の仙人」（三〇〇〇円）。「ヒマラヴ

アットの詩」（二五〇〇円）

「宇宙の森の物語」（二〇〇〇円）長谷川時夫作・画

「私のいた施設の実態」「それでも地域に生きつづける」（各五〇〇円）三井絹子著

送料その他の相談は野村瑞枝まで TEL 03・982・一九一六

わしい家庭科

男女共修

●ドブロク—付・ブドウ酒・リンゴ酒●

ドブロクをつくってみよう

●水入り市販酒より

ドブロクを

ドブロク。若くてエレガントな「わいふ」の読者諸姉には縁のない「下品」なお酒かもしれない。みなさん食卓にはフランスのワインでもお置きになってることだろう。

しかし連載の「問はずがたり」のヒロインが、飲みたがった「白いもの」はドブロクなのだ。むかしは清酒がなかったので、天皇の愛人もドブロクを飲んでいたのである。

ドブロクは悠久の歴史ある純日本酒。それが今ではどこにも売っていない、幻の酒になってしまった。「濁り酒」と称する白濁したお酒は、ドブロクではなくて業者が仕込んだ清酒を、十分にしぼらずにかすの白さを残してびんづめにしたものだそうだ。

ドブロクだってかすをしぼらぬ酒だから、同じだろうと思うのは大まちがい。

図1は現在の市販酒の一般的な製造工程であるが、醪（モロミ）というのが米に糲を混ぜて発酵させた、ドブロクのもとみたいなもの。

の。これがホンモノの酒なのだが、そこへ次々とおかしなものが加わっている。アルコール、グルコース、水飴、味の素……なんだね、いったい。

これは秋田県のある造り酒屋で、見学者に渡したパンフレットに載っていたもの。

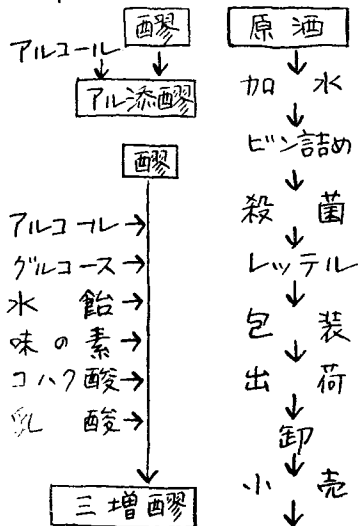
原酒↓加水……なんてどうどうと書いてあるのだからおどろく。

敗戦後出回った（ヤミではない、正式に許可されて製造販売されたもの）合成酒には、モロミのかわりに化学的につくったアルコールしか入ってなかったそうで、それよりましかもしれないが、一種の合成酒であらう。そしてこれが現在の市販酒の大部分の実態だそうである。昔どおりのつくり方をするホンモノは、全体のわずかに一、二%しかないといわれる。

サア、家庭科は男女共修だから、ここまでダンナさんにも読ましてください。酒好きのダンナならびつくり、「フウン、こいつはドブロクを作らにやならんかな」と言うにちがいない。

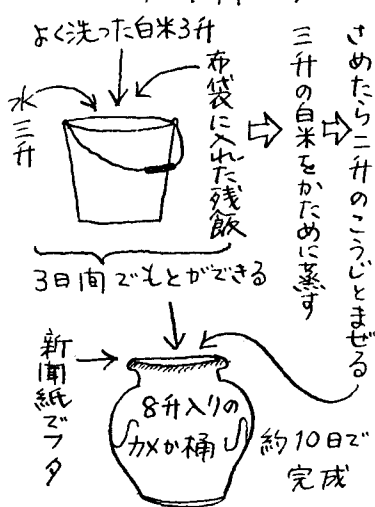
<図1>

●市販酒の正体



<図2>

●ドブブロクの簡単な作り方



社団法人・農山漁村文化協会というところから、おもしろい本が出た。題して「ドブロクをつくらう」オビには「酒税法は憲法違反である。酒の手づくりは世界の流行ノ・ドブロク・焼酎・ワイン・ブランデー、簡単な自家用酒つくりの手引きを収録」と、思わず手が出るような魅力的なキャッチフレーズ。

わいふ編集部は呑み助が多い。一ばん飲まない田中女史でも、ワインの一、二杯は顔も赤らめない。和田、林も上戸、原田女史もぐまっ赤になるわりにはよく飲む。早川女史に至っては、中学生のころから酒好きのおばあさんのお相手で、晩酌をしていたという剛

の者。朝日新聞にこの本の紹介記事が出ていたのを、目ざとく見付けて切り抜き、衆議院決して「つくり方」「おいしいかどうか」を探索してみることにした。

まず発行元の農山漁村文化協会へとび込んだ。ここは「現代農業」という月刊誌を出していて、以前わいふで農業問題を連載したとき、いろいろお世話になったことがある。そのときのF記者を呼び出してご協力をお願いした。

「じつさいに作ってみて、どうだったか、という記事にしたいんでございます。お作りになった方をご紹介ください」

●試作者を歴訪

「よろしい、ドブロクと、それからご婦人方はドブ酒がお好きですから、ワインをご紹介しましょう」

ドブロクは、いろんな作り方がある。「ドブロクをつくらう」には、簡易法四種、本格法一種のほかに、イモ、ムギ、アワ、ヒエなどをを使ったつくり方を載せている。さらに、「現代農業」十一月号には本格法と簡易法のあいこのぐうらいのが、写真入りで解説してある。

F記者の話だと、彼はどれもこれも飲んで

みた。本格法は酒造家がやるプロのつくり方で、何時間おきとかにかきまわさねばならぬとか、一、二度ずつ徐々に温度をあげていくとか、極寒の季節でないといけないとか、とういてい家庭の台所ではやれそうもなく、冷蔵庫を用い奥さんに厳命してかきまわさせ、上手にできたという人もあるということだったが、敬遠せざるを得ない。その他のやさしい方法でつくったものでも、ふつうの舌、つまり利き酒の専門家でない、われわれの舌で味わう限りでは「みんなそれほど違わない」ということであつた。

まず都下にお住いのM氏をたずね、「現代農業方式」でつくったドブロクを飲ませていただく。

コップに半分注がれて出て来たのをみるときれいに澄んだ黄金色の液体。

「アラ、ドブロクじゃありませんね」

「ドブロクの上澄みです」

ドブロクを、かめに仕込み、できたところで小さいざる（ぬかみその水を取る、アレ）の外側をガーゼで包んでつこんでおくと、ざるの中にこういう液がたまる。それを汲み出して飲むのだそうだ。

一口味わう。これまで経験した清酒の味と

はかなり違う。たいへん強い。二口飲んだら体がぼかぼかし出した。

「強いですねえ」

「十八度くらいじゃないでしょうか」

三口、四口飲むうちに、あ、これがほんのお酒なんだな、と思った。市販清酒のフヤケタような味とは違って、あらあらしい、自己主張の強い、独特のあじわいである。甘さはまったくない。市販の「辛口」と称するものは、塩を入れたような辛さであるが、これは甘味ゼロという意味での辛さだ。そしてかすかな酸味が舌に残る。

「酸味ってのはドブロクの特長だそうです」

いいかげん酔っ払って外へ出、編集部へ電話して「うまかった」というと林女史、

「それもらって来なさい。試飲会だ／＼」とのを鳴らさんばかり。まさか引返しておみやげをくださいとも言えないが、ほかで頼んでみることにする。

次はブドウ酒。農文協に近い、都心のマンションにお住いのI夫人。つくり方は農文協に行つて根掘り葉掘り聞いた。

「この本（ドブロクをつくらう）で見る限りではすぐく厄介そうなね。農文協へ行き、現代農業を買つてきた。ここに出てのつくり

方（図3）ならよく分ります」

フランスもののびんに入れて、ラベルを張り替えてあるロゼ。「一九八一・八・三〇シャトウ・ノウブンキョウ」とあつた。八月末日に仕込んで、今日は十月十七日。このくらい日にちがかかる。

「おさとうの入れ方が足りませんでしたの、それでアルコール度が高くならず、よわいんですのよ」

酒は糖がアルコールにかわつてできるものである。したがつて糖分が高いほど強い酒ができる。（甘味はアルコールになつてしまつてなくなる）I夫人が使つたのはスチューベンというブドウだが、糖度が少なかつたらしい。さとうを添加すべきなのを、控えすぎたとのこと。

飲んでみるとなるほどあまり強くはない。フランスあたりの上物（何万円もする上物は飲んだことがないが、何千円クラス）に比べると、なんといつてもコクが薄く、ドブロクと反対に自己主張がよい感じであるが、家庭の夕食に、西洋料理をつくつて添えるなら十分である。

「まあいけますね。あんまり強くないから、食事中水がわりに飲めていい」

「私もそう思って、ガブガブ飲みましたらひどく酔っ払っちゃって……」

みかけほどアルコール度は低くないらしいかった。

最後に、簡易法でドブロックをつくった都内のW氏を訪問。「ドブロックをつくらう」に出ている、秋田県の故老から伝わったというやり方である。

●失敗か成功か？

とにかく酒ではある

「いちばん簡単なイースト法というのをやろうと思ったんですが、あんまり簡単すぎでできのかねえ、という気がして……」

△図2▽の方法をえらんだのだそう。

「まずこうじの入手です。ここは都内といっても戦後しばらくつまで農地帯でしたから、江戸時代から続くこうじ屋という乾物屋がありまして、そこで相談したところ、十一月になるまで生こうじは出ないといわれて、乾燥こうじを売りつけられました」

それは「雪の花」と称する甘酒用のドライこうじであった。W氏は雪の花の袋に書いてある甘酒づくりの説明に従い、一袋二七〇グラムのこうじにつき、二合の白米をよく洗って、ざるにあげ水をきり、ホーローのボール

に入れて同量の温湯を加えた。するとばかに水量が少くて、心もとなく思われたから、少しづつ湯を足してけっきょく三合近く入れてしまった。ふきんに冷やごはんを包んで加えて、本文の説明に従いドライイーストを小さじ半分入れた。イーストは入れないのが本格だが、入れれば失敗がないそう。

サテ毎日一回、残飯の包みをしばって全体をかきまわし、結果やいかにとれたずを飲むうち、本の説明どおり三日たったら甘い食パンみたいな匂いがしてきた。これで「モト」ができたのである。

そこでホーローボールにざるを置いて米を

あけ、甘い匂いの水はとっておき、米を蒸し器で蒸した。間で一べん打ち水をして、お赤飯の要領で蒸し上げる。それを三〇〜三五度

(いわゆる人肌)にさまして、ドライこうじをもみほぐしながら万べんなく混ぜ、梅酒用のガラスびん(未使用。漬物など漬けていた器は不可。ポリバケツでもよいそう)に入れてとっといたモト水を加えた。

これで「仕込み」が終ったので、あとはまた毎日一回かき回してでき上りを待つ。

「なんとも不安だったのは水つ気が少ないことだね、おかゆの固いのもいところで、ごはんに近いんですよ。農文協へ電話したら、係が出張だというんでわ

からなかった」

よほど水を入れてやろうかと思ったけれども、失敗を恐れてがまんした。するとだんだん米がぐじぐじやきてきて、水気が出てくるみたいなので、「なんとかないそうだ」と思い、そのまま続行。

<図3>

●ぶどう酒のしこみ方

①ぶどうを洗ってつぶし、ドライイーストを少し入れる



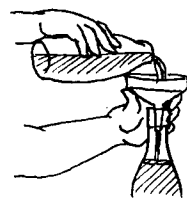
②砂糖を加え79はゆるめに



③「カゼ」でしぼる



④1ヶ月めにうわすみたけ他のビンに移す



三日したら本にあるとおり発酵がはじまり、ブツ、ブツと小さな穴があいてまぎれもない酒の匂いがブンブン立った。

「イヤ楽しみでしたねえー」

W氏はのんびりして、それこそつばを飲んだらしい。五、六日して、耐えきれずさじですくってなめてみたら、本には「最初は甘い」と書いてあるのに、ちっとも甘くない。ほんとの酒の味になっていたので、もうここではほらぬと酔っぱくなるんじゃないかと心配になったが、水気がやはりひどく少いので、思い止まった。

ついに十日め、まだ水は少かったけれど、

もはや猶予はならぬとしほることにする。またホーローボールにざるをのせ、よく洗ったガーゼを敷き、びんの中味をあげる。上にふきんをかけて一晩置き、翌朝おそるおそる持ち上げてボールをのぞいたら、透明な黄金色の液体がたまっていた。

「サアそれからがふしぎなんです。さういってをさじですくって飲んだら、まったく甘味のない、強い酒だった。しかしあまりに量が少い。せいぜい一合くらいしかないのです、やっぱり水気が少かったんだなあと思いつつ、ガーゼをしぼっちゃったんですよ。上におもし

をのせたり、手でぎゅうぎゅうやったりしてね。けっきょく七〇〇ミリリットルの洋酒びんに、七分めくらいの白濁した酒がとれたのですが、そいつは甘いんだ。甘口もいいところで、なんか日本酒というよりワインみたいな感じなんです。気に入らなかつたねえ」

その「ワインみたいな」ドブロクをのませていただく。なるほど甘い。酸味もかすかにあるが、現代農業方式のM氏のものより、ずっと少ない。

「しかしまぎれもないお酒ですわね」

「酒にはちがひありません。市販の清酒より度^どはちよつと強いんじゃないかな」

農文協に電話かけて、コレコレ、シカジャはどうしてくれる？ といったら、「少し記事が不行届きでした。水が少い、もっと加えてもいいらしい。また決定版を雑誌にのせますので……」

とのこと。

「現代農業」がさらに一冊売れるってわけですよ」

●酒は家庭で

じゅうぶんできる

W氏はすこしおカンムリであったが、しかし甘口を好む女性ならば、あれでもけっこう

ではないかと思つた。甘いのは発酵が完全でないのだから、やはりどこかで間違つたか、日数が足りないかである。水が足りなかったせいか、値段はあまり安くない。こうじと米で四三〇円、それで五〇〇ミリリットルでは特級酒なみになってしまう。

農文協ではだいたい市販酒の半値でできるといっているの、W氏は方法を改めて再挑戦なさるべきだろう。

一ばん簡単なイースト法を「ドブロクをつくろう」から転載しておく。読者はぜひ試みて欲しい、農文協によれば、どれも味に違いはないということだから。W氏方式ならば、水の量を倍くらいにして、十二、三日置いてみたらどうだろうか。

どちらにしても、酒づくりは案外簡単で、パンやケーキをつくるよりずっと手間がいらないのである。味の素や水の入ってる市販酒より、でき上りに少々バラつきはあっても、手づくりの味が楽しめるのではなからうか。パンだってケーキだって、失敗することはあるのだから。

またこれからはリンゴの季節に入るので、農文協のご好意で一月号に掲載される「つくり方」を、先取りして教えていただいた。

ドブロク

リンゴ酒

あわせて転載したので、試してほしい。
ドブロク・イースト法

リンゴ酒

米三合をよく蒸して人肌にします。こうじは同量（雪の花なら一袋）を加えてよく混ぜる。イーストを小さじ三分の一くらい、さとう湯でとかして加え、容器に入れてわかしぎましの湯（人肌）を入れる。分量はかきまぜて手が重く感じない程度。（おかゆ状）そのまま、フキンか紙でフタをしておけば七、八日で酒になるので、ガーゼでしぼる。

酸味・甘味の強い国光、紅玉、スターキングなどのリンゴ二・五キロの皮をむき、芯をとりミキサーでつぶしてジュースにする。できた二キロのジュースにつき二〇〇グラム（10%）の砂糖を加え、茶さじ二杯のドライイーストも入れて、熱湯消毒した広口びんに仕込む。フタをゆるめておく。密閉するとガス圧でびんが割れかねないからだ。さかんにアワが出て、約十日で酒になるから、ガーゼ

をざるに敷いてこす。酒づくりは酒税法で禁じられているが、これは日本だけだそう。農文協は憲法違反だと言っており、梅酒なども以前は禁じられていたのが、各家庭でかまわず作っているうちに既製事実ができて許可されたという前例もあり、個人の家庭に踏み込むことはまずないので、せいぜい作ってみて欲しいという。

問合せ先 農山漁村文化協会

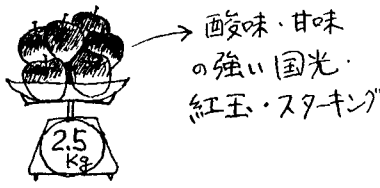
03・(585) 一一四一

(和田好子)

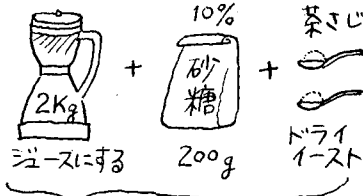
(イラスト・松本をきえ)

<図4>

●リンゴ酒のしこみ方



↓ 皮をむき芯をとる



↓ 熱湯消毒した広口ビン

約10日で酒に



子育て会議

本間千代子

千葉県流出市

一カ月程前の事なのに未だに胸の内がすっきりしない私の体験です。

当地に越して来て間もないある日のこと、息子と散歩中に、三〜四歳の女の子二人連れに出会いました。見慣れぬ子（我が息子）に興味があつてか少し離れた所から二人で頻りに、「イーダ」とか「アカンベエ」とやっているのです。息子は珍しいものでも見るように、ジーと動こうともせずに見入っていました。しばらくして反応の無い相手に飽き足らずか、二人で駆けよって来ると咄嗟に、一人が息子の腰にかけている車を奪い取り、一人は歩道に転げた息子に、しがみついて、引きずり出したのです。駆けよった私は、「危ないでしょ」と大声を出していました。

「乱暴はダメよ」と。泣いてる息子を抱き上げると今度は一人が私の脛を、「エイッエイッ」と数回けとばしたのです。可愛いフリルのワンピースとその行為は余りにも不釣合でした。そして

子どものしつけと近所づきあいには、どうやら微妙な関係がありそうです。

どうしても放っておけない気持ちになり、「お家はどこ？」「お母さんはいるの？」と尋ねたのですが、それには答えず近くのある家に駆け込んだのです。私も後をついて行き、その若い母親にわけを話しました。その方は私をけとばした方の子の親でなく、いつもはいい子なんですよ。と不思議と言わんばかりの口振りながらも、「すみません」とおっしゃっていました。そして子供達にも、謝りなさい！と母親が言えば二人とも「ごめんなさい」と、とっても素直なんです。

子供達はそれで何のわだかまりもないのですが大人の方がいけません。町内で顔を合せるたびにギクシャクしたものを感じてしまうのです。私も早く地域になじまなければいけない時にトラブルの種を蒔いた様で後悔もしました。地域社会を上手に渡ってゆくには子供の問題などに親が口出しすべきで無いのかも考えたりして……。また我が子の成長につれ、反対の立場で問題を起こすこ

ともあるでしょう。よその子を非難しても自分の子だっていざれはと、どこから聞こえて来そうな気がします。しかしだからこそ親同志がお互いに気付いた事を知らせ合う必要があると思うのです。いつでも忠告を受けたなら、「教えていたでいて、ありがとう」と言える親になりたいとつくづく考えたりしています。

さて、近所のT君は四歳、聴覚に障害があるのか少し発育は遅れますが、とっても明るく元気です。そのT君の母親が数日前、「Kちゃんは女の子なのに、いつも家のTにらんぼうばかりするのよ」と淋しそうに言われました。聞けば、Kちゃんとは、あの私をけとばした女の子だったのです。町内でも一際目立つ広い庭付のモダンな邸宅のお嬢さんとのこと。私も例の一件を話すとT君のママは、安堵の笑顔を見せました。それは、我が子だけがいじめられっ子と思っていた者が仲間になったことを知って救われた気持ちになったように見受けました。幼児が障害のあるお友達を思いやるまでには、まだ時間がかかるとは分りながらも、T君が言葉で訴えられないだけに心が痛みます。

M君の親からKちゃんのことを聞いたのは、そ

れから暫くしてからでした。M君（一歳十カ月）はKちゃんのお宅と近いために被害(?)を幾度も受けておられながら、その対応に苦慮しておられたとのこと、どこの親も子供のためより、まず近所付き合いに波風をたてぬ事に執着していて苛立ちを覚えます。そういう私も、あの時もしも、子供達がKちゃんの家へ駆込んでいたら、あの広い庭を通じて玄関のベルを押す勇気があったであろうか？ 人間は地位や名声、資産のある者に対して、弱腰になってしまふものなのか？ しかしそれらに類する人達の子供に周囲のだれもが注意や叱ることをためらっては、意地悪で思いやりのない我儘娘が、小説や少女マンガの中だけのものではなくなってしまうでしょう。

Kちゃんは最近弟ができたママを一人じめにできない不満とか、お友達が少ない淋しがり屋さんだとか、いつも男の子と遊んでいるからその影響だとか、周囲の見方もいろいろです。お友達を強引に自分のお屋敷へ誘っては、その子の持物を物置に隠して錠をかけるとも聞きました。お友達が帰らぬ為の小さな知恵なのでしょうか。あの時息子を引きずろうとしたのもあるいは、自分のお家に連れて行きたかったのかも知れません。Kちゃん

の家に近いところでしたから……。

私も、ただ叱るのでは無く、どうしてこんな事をするのか、何を要求しているのかを、よく確かめ諭すべきでした。Kちゃんの母親は余り外に出ず、近所の井戸端会議に参加することが無いため誰もどんな方針で育児をされているのか知りませ

ん。私達周囲の者もただ、「乱暴な子」のレッテルを貼って遠ざけるのではなく、積極的に関わって行く必要があるでしょう。子育ても、「正解不明」の難問がいっぱいなんです。親の方にストレスがたまってしまうそうですが、投稿によって、いくらかは解決する事でしょう。

野村 瑞枝

東京都練馬区

私の「ないない育児」。子どもに必要なことって何だろう。

私には現在、九・六・四・二歳の四児がいるが、この四人の子に対してまったく何もしてこなかった。

服を着せない、オムツをしない、顔を洗わない、歯をみがかせない、髪の毛をとかさない、くつ下をはかせないにはじまり、叱らない、しつけをしない、幼稚園にいかせない、医者に行かない、注射をしない、体温計を使わない、薬をのまない、おもちゃを買わない、パンツ以外の下着を着ない、セーターを着ない……きりが無い。

特別の信念があってやってるわけじゃなく、や

る気がない、できない、めんどくさい、お金がない、などが主な理由。

この頃しきりに思うことは何かといえば「子供に友だちって親がなさねばするほど必要なんだろうか」ということと、「今の子供たちに一番必要なのは、一人ぼっちの時間、親からも学校からも塾からも友だちからも離れた手もちぶさたの時間じゃないか」ということの二点。

これが前述のないないづくしとどうつながるのか自分でもわかんないんだけど、まあ、ないないづくしのわが家の子供たちが、ないないついでに



友だちはない、あるいは一人ぼっちの時間だけというところで、かろうじてむすびつく。

第一子が四歳になったとき、幼稚園へ行かせない、と親が勝手に決めてから、子供がボンヤリしたり、たいくつそうにしたりちよっとでもすると、もうかわいそうで心配で「知的好奇心が十分に満たされていないのではないか、同年齢間の刺激に欠けるのではないか」と矢もたてもたまらなくなり、区報に呼びかけて「はだかんぼ教室」なんて作ってしまった。もうまったくわが子かわいさ、わが子の時間を埋めたいがためのみに作ったのだった。集まったのは当然、幼稚園前の年下の子ばかりだったけど、親にしてみれば、ともかくこれうちの子はたいくつしないですむ、一人ぼっちの時間をすごさないですむ、と安心したのだった。はだかんぼ教室は一日おきだったので、あとの日は週三回水泳に行った。私までついでに泳いだりして。

まあ、とにかくこんなわけで第一子の時は私もしゃかりきに子供の時間を親の手で埋めようとしたのだ。

それが第二子になるともうまったく、「はだかんぼ教室」も水泳もなし。放っぱりばなしであ

る。三、四がどうなるか、今のところ定かでない。

風の音に耳をすませたり、雲をひたすらながめたり、自分の足の指先でもいい、とにかくボンヤリはてしなくながめる時間や心のゆとりが、子供たちが成長してゆく上で非常に大事なのではなからうか。

金や品物で子供を埋めつくすのが親の愛という時代はとくに終って、今や教育を金で買い与える時代だけど、子供に何かを与える必要があるのかなあ。

ないない育児の私がひたすらしつこくガムシヤラに与えつづけていることがあるとすればただひとつ。「お前たちを愛してるよ。何がなんでも愛してるよ」ということだけだ。

そのうち、うちの子も大きくなって私たちに不平不満をいうようになるだろう。何をいってもいいけど、私たちの愛情をうたがうようなことをいったら許しておかない。はりとばして、「バカなこというな」と怒鳴ってやるうと思う。

皆様のご意見をお待ちします。

子育て会議

うちの子のした病気●へんとう炎

東京都 矢崎 桃枝

古い話になってしまったので、今では記憶も不確かですが、渦中にあるときの悩みはとても深刻で、現在同じような心配をしていらっしゃる方のお役に立てばと思います。

昭和四十年生れの男児、生後十一カ月のとき、姉が斜視の手術のため入院したので、おぶって毎日病院へ連れていきました。何日めでしたか、顔がまっかになってひどい熱を出し、看護婦さんから「わるいカゼがはやっている、病院へ赤ちゃんはつれて来ないほうがよい」といわれた。で、カゼだと思ってお医者さんもそうおっしゃったが、これを皮切りに一、二カ月に一回は大熱を出すようになってしまいました。けっきょく幼稚園へ上るころにもなおらず、そのまま小学校まで持ちこんだのです。

ハッキリした病名は聞いたおぼえがないのですが、「ノドがわるい」「ノドがはれている」などといわれ、ヘントウ炎だと思っていました。

引越したばかりでしたが、行く先々のお医者様で抗生物質を飲まされ、飲んでも飲んでもなおらぬので、困りました。熱は五月一週間つづ

き、三十八度〜四十度ありました。ふしぎなのはわりと平気で元気なことで、ノドが痛いにもかかわらず、よく食べました。

小学校に入って困ったのは、勉強がおくれることとで、「これでは追いつけない」と先生に文句をいわれ、成績は中以下だったと思います。熱が高いのですから家で勉強もさせられません。

さいわい近くに私立の学校があり、高校まではエスカレーターなのでそこへ入れました。一貫教育だから「いつかはよくなるでしょう」と待ってくれるので助かった。

四年生のとき、こんなに抗生剤づけで大丈夫かということと、がまんしきれなくなったのとで、ある人のすすめに従い、北里医大で漢方の治療を受けました。草根木皮を紙袋にもらってきて、三十分くらいも煮つめてのませるのです。飲み出しましたら何と四カ月も異常がなかったのです。コレあるかな、と喜び一生けんめい高い薬（一カ月一万五千円くらい）を煎じましたが、五カ月にならないうちにやっしまいました。しかたなくかかりつけのお医者さんへ行けばまた抗生剤です。利

くならいいが利いてるようにも思えないので、漢方も止め、一ぺん一さい薬を飲ませずに、のどを氷で冷やして寝かせておいたところ、一週間でやっぱりなおったではありませんか。でも……抗生剤飲んでたら三日～五日でなおったかもしれない……という迷いが出て、次のときはまたお医者さんへ連れて行ってしまいました。

話が前後しますが、耳鼻科へ行って、切るか？という相談になったこともありました。しかし近頃は切らない傾向なのだそうで、お医者が迷っているうちに、こちらが移転したのです。

六年生のとき、私の市民運動仲間である小児科のお医者さんに診ていただきました。「これは年が来なけりやありませんよ。もう少しの辛抱でしよう」といわれ、あと何年……と待遠しく、そのうちに他から、大人でもヤル人がいると聞きこんで、前途はどうなることかと悲観したり……。でも、結果的にはこの先生の予言が当たったので

私のアドバイス

小児科医 毛利

この子のように、しょっちゅう病氣ばかりする子どもをもった親の苦勞は、並みたいていではないでしょうね。ぼくの医院にも、そういう子が、

した。中学一年になると回数が減りはじめ、二年のときはたしか二回ですんだと思います。そして中学三年のはじめに一回やったのが最後。もう二年以上無事でおります。その間カゼで発熱したことが二、三度（カゼはひきやすい）あったが、いずれも三十八度止まりで、一日で下熱（薬をのまず）しました。ノドがはれないのです。

ちかごろ顔色が変わると先生や友達がいうので抗生剤＝貧血？とすこし心配になっていきますけれど、これまでたびたびの検査で一度も貧血といわれたことはありません。改めて検査が必要でしょうか？ けっきょくあの大量の抗生剤は役に立ったのでしょうか、立たなかったのでしょうか？ 学校の成績は中学でかなりとりもどしましたがどうしても私が世話をやいてしまうほかなかったの、センタク、片づけ、その他たいへん下手で身辺の自立ができていません。とても厄介な病気で閉口しました。

子来

いつもなんんか来ています。「どうして、うちの子にかぎって」とか、「どこか体質的におかしいのぢゃないかしら」とか、みんな考えてしまう

ようですが、案外、お仲間はたくさんいるものです。

医者通いに明け暮れる年月は、きつと長く感じられると思いますが、でも、幸いに、ほとんど例外なく、この矢崎さんのように、いつかは解決をみるのが救いです。しかも、これほど長くかかるケースは、そんなにはありません。たいていは、小学校にあがる前後、おそくも三年くらいになると、いままでの苦勞が夢みたいに丈夫になってしまします。

そこで、こういう場合には、とにかく、希望を持つことが大切です。そうでないと、この試練の期間が耐えがたいです。必要以上に病気に振り回されることにもなりがちです。とりわけ、「うちの子は弱い」などと悲嘆に沈むのは、マイナスをもたらすしこすれ、なんの益もないでしょう。それは、親の心に罪の意識をもたげさせますし、ひょっとすると、わが子への憎悪をもつらせるかもしれません。そんな情況がいいはずはなく、育児は消極的になり、子どもも罪障感と劣等感にとらわれる羽目に陥りかねません。

だいいち、よく病気をする子が「弱い」とはかぎらないのです。とくに、この例のようによく熱

をだす子は、からだを守る力がかえって「強い」とさえいえるでしょう。なぜなら、熱は新陳代謝が高くなったことの現われで、その新陳代謝は病原体をやっつける免疫力を動員し、一切のからだの機能のレベルを上げ、破壊された組織の修復を営んでくれるからです。「熱はむやみに下げないほうがよい」といわれているわけも、ここにあります。ただ、しょっちゅう熱を高くだす子は、こうした病気を治す働きが少しばかりオーバーにすぎるのです。いわば「強すぎる」といったら当るでしょうか。

とすれば、発熱したからといって、あまり早く医者にかかるのは考えものです。せっかく本人はオーバーなくらい「病気を治す働き」をみせているのに、抗生物質などを使って、わきから助けてやっっては、自力が鍛えられませんか。ひどくぐったりしているとか、なにかのハンディ（たとえば心ぞう病、じんぞう病）がないかぎり、せめて一日なるべくなら二日ぐらいは、自力で病氣と闘わせるほうが、けっきょくは丈夫になると思います。事実、ぼくは扁桃炎の常習犯の子がいたら、そのようにさせるのですが、結果はほとんど良いようです。



熱が高いからといって心配することはありません。子どもの場合、熱の高さと病気の重さは、かならずしも比例しないからです。それよりも、大切な目安は、元気があいか顔つきとか食欲といった全身の状態です。これらがさほど悪くなければ、自然に治す努力をしてみてください。

矢崎さんの場合が、すべて「へんとうえん」であつたかどうか判りませんが、手術しなかつたのは賢明であつたと思います。扁桃は、最近になって、「からだを守るしくみ」、つまり免疫の中樞司令部の働きをしているところだということが明らかになりました。ですから、特別の事情がないかぎりには、取ってしまうのはよくありません。めつたにないことですが、じんぞう炎とかリウマチ熱といった余病をおこしてしまつたときだけ、手術は必要です。あまりにも扁桃炎の回数が多く毎月のようで、そのたびに重く、しかもなん年もつづいているという場合には、手術を考えるのもやむをえませんが、それでも手術を思ひたつてから半年くらいは経過をみるのが賢いでしょう。とくに、五、六歳から上にもなつていれば、そのうちにばつたりとやらなくなることが多いからです。その年頃になると、扁桃が役目をすませてしぼん

でくるのが普通なのです。

矢崎さんが、抗生物質に不信をもたれたのも、正当なことだと思います。熱がでたとしても、その全てが細菌の感染とはかぎりません。扁桃炎をおこしているとしても、ビールスによるものがけっこう多いのです。抗生物質はビールスには効きませんから、それを与えるのは、かえつて害を加えるだけになります。ただ、細菌が原因と考えられ、元気もなくなっているといった場合には適当な抗生物質を選んで、十分に使うのもやむをえないということは、知つてほしいと思います。副作用については、長期間つづけたときと、なかおかしなようすが現われたときには、検査が必要です。この子は、たびたび血液を調べてどうもないのですから、もういいでしょう。

悪夢の時代が過ぎたなら、思い切つて積極的な生活をさせてください。病気の体験を、人生にとってプラスに転じさせることです。

義務だけは荷え、権利は平等だ、と
いうきょうだいにはさまれて……

●東京都練馬区

山本 和代

「長男の嫁」って なんだろう

昭和五年生まれの私は戦中派。旧制女学校から新制度にきり替わる目まぐるしい中で高校を終え、昭和二十年代後半に女子学生のまだ少なかった公立大学を出て高校教師になった。

昭和三十三年、サラリーマンの夫と結婚した。夫の父は商社マンとしてすでに大正時代から海外生活を体験したカソリック信者で現在八十八歳。母はこの典型的な明治の男の庇護のもと、長男である夫以下五人のこどもを育てることだけに専念した人で全く世間知らずの八十歳。夫の姉である長女は五十六歳。技術者と結婚しこどもはふたり。妹である次女は銀行家に嫁ぎ、こどもなく五十歳。三女は技術系サラリーマンの妻で四十六歳、こども二人。病弱の次男は四十四歳でまだ未婚で翻訳業。四女は造園家に嫁しこどもふたり。

夫と次男が幼い時からあまり仲がよくなかったというほかは、子ぼんのう

の父のもと兄妹仲もよく、とくに貧富の差もなく、中流の上と中の暮しを営む一族である。

借地だが三百坪の土地があるため、長男である私たち一家と、長女一家が同一敷地内に家を建てて住み、三女一家と次男が、両親の家屋を三分して住んでいる。昭和三十一年、まだ私たちの結婚話さえない頃、父は長男のためにと当時四十万円程度の二間だけの離れを建ててくれた。しかし、その直後長男が転勤になったため、その家を他人に貸し、その家賃で浴室などを付加し、残りで地代を払うようになっていく。

私たちが結婚した昭和三十三年にはあいにくその借家は他人が入居していたため夫はそれに隣接して空地に私たちの家を建てようと言いつつ、私は深く考えもせず同意した。当時夫の給料は一万八千円程度で公庫融資の資格に足りなかったため、同額の給与のある私が共に返済することを条件に融資を

受け、工務店からの借金ともども、私の給与は全部家屋の返済に廻した。

今になって考えると、その時共有登記をしておけばよかったと思うが、そんな法律があることすら知らなかった。四年間返済を続け、残額がなくなると夫の給与だけで賄える目算を立てて私は出産のため、一応職を退くことにしたのである。

職を退く決意をしたのは両親の暗黙の反対と姉妹たちの白い眼であった。一見自由でハイカラなムードのある家庭だったが、内に入ってみると私の育った家庭とはまるで逆の家訓があった。まず驚いたことは、女に教育は必要ないという父の信念のもとに、母はもちろん姉妹は高校が短大どまり。まして女の就職など家の恥。いわゆるおけいこごとだけ身につければそれで満点だった。姉妹たちは新聞さえ開かない日が多く、知的関心は薄く、カソリック信者としての生活ぶりも、私にとっては疑問だらけであった。そんな家

庭だったから唯一の外部からの入籍者である私は全くの異端者であった。両親の遠まわしの離職勧告に、つわりがひどく、健康に自信が持てなくなった私は、「生れ出る者のために」と自分を説得してつとめをやめたのである。

はじめてわが子を持った喜びはあったものの、それから在宅の一年間は私にとって最悪の心理状態が続いた。波長の合わない一族と年中顔を合わせ、調子を合わさねばならない苦労、それと今日私を悩ませている「長男」という夫の立場。明治生まれの両親にしてみれば当然かもしれないが、新民法ではすでになくなった「長子相続」がいまだに家庭の中で厳然と幅をきかせているのである。

「それは長男に相談してから」

「B氏が亡くなったから私の替わりにはやはり長男を行かせなくては」

「C嬢が結婚するから、長男として祝いをしてくれ」

「甥や姪の誕生、入学、卒業などの祝

いごとは欠かさぬように……」

といった具合に。その風潮が姉妹弟たちにも滲透しているから、長男だけはすべて別格である。夫もそれを当然と受けとめ、経済的に苦しくとも、なんとかそのやりくりを私に強要するのであった。

男というものは本質的には女よりずっと見栄っ張りだと思ふ。とくに長男意識を幼少から植えつけられて育った夫は親姉妹弟には常にいいカッコをつけて自分を演出しているのがわかる。

さて、一年間の子育て中にこんな生活をしていたら、自分がダメになつてしまふと思ひ、誰に何と言われようと復職をと決意した。幸いなことにもとの職場に産休補助員として週二日出勤することができ、こどもは実家の母や妹、時には弟にまで頼んだ。こどもに仕事のしわ寄せをしない約束で、夫はしぶしぶ承知した。夫にしてみれば「長男」の立場上私の再就職はカッコ悪かつたのである。

あれから十九年。私は産休補助員のほか友人の開いた塾の教師、出版社の辞書の編集、教材研究や出版と仕事の範囲は次々に拡がり、もう私から仕事を奪うことは不可能という印象を一族に与えてきた。あつちこちにあずけられながら成長した息子も自分の妻には職を持った人を選ぶという。少々の摩擦にはいつも目をつぶって生きてきたし、最低限の両親へのサービスも怠らなかつたから、大きな争いは一度も経験しなかつた。しかし、貯えも底をついた両親に月々の手当てと、練馬で



は高級住宅地であるため、年々の地代の高騰で、私たちの負担は増加の一途。そんな矢先、私は次男である義弟から、

「あなた方は不当に借家を持っている。あれを両親に返してほしい」と呼びつけられて忠告された。すでに老朽化した借家は、年々手入れのための出費がかさむ上、悪質な借家人にひっかかり一年間居坐られた揚句、補修に百二十万円もかかったほど家を痛められたし、私は以前からこの小さな借家のために一族から何度嫌味を言われたかしのれないことを理由に、夫に返却を迫ったが、夫は受け付けない。もちろん家賃収入は全額両親に渡し、税金は当方持ち。さらに別途両親の生活費も拠出しているのである。

先日、父が胃潰瘍で倒れ、救急車で入院、手術となつた。

「付添婦ではイヤだ」

と言う父に、母と私が交代で寝泊りしたが、こんなハプニングがあるとは

予期せず、すでに出版を約束した仕事や、塾の講師は休むわけにはいかず、徹夜で看病しては仕事に出かけるうちに、倒れてしまった。姉妹たちは家庭があるし、万一のことがあっては責任があるからと夜の付添はしぶるのである。姑も高齢のため長続きはしない。やむなく父を説得、手術後は付添婦を頼み、やっと急場を切り抜けた。

折から夫は三度目の転勤で不在。医師や看護婦たちへのつけとどけから、父にあった付添婦の選択、一日置きに見舞にいき、病人をなだめたりすかしたり。ちょうど一カ月の入院で幸い父は退院できたが、老人医療の恩典を受けても総支出は七十五万円。夫は全額わが家で持つと宣言、姉だけは少しでも申し出てくれたが夫は一蹴。他の妹弟からはまったく何の音沙汰なしの状況である。預金をおろし、なんとか帳尻を合わせたが、さすがに両親は気の毒がってくれた。しかし、両親を看る間に、わが家の貯金は底をつき、自

分たちの老後はどうなるのかと心配でたまらない。そのほか父の病状を気遣ってこどもたち六名が各々自説を主張それを交通整理しながらまとめるのが長男の嫁である私の仕事。そのわずらわしさに内心ホトホト愛想がつきた。しかし、やっぱり私がその役をやらないと、ことが運ばないので。時間が惜しい私はあえてそれをやったため、今度のみんなが何でも私に押しつけてくるようになった。長男の嫁だから、と。

やがて両親が逝った晩には、借地権だけが遺される。おそらくその時には新民法通りの六等分を全員主張するだろう。「長男」として、最初に生れたばかりに課せられたこの重責を、共に分ちあわねばならないその嫁は、よほど利巧か、バカでない限りつとまらないのではないかと思う。地方の地主や農家ならともかくも、都会のド真中の中流家庭でも、「長男」に対するこうした時代錯誤が通用している現実を知ってはしい。

(カット・岡田正子)

日本心理センター公開講座

「日本の家族はどこへ行くのか」

前号情報コーナーでお知らせした公開講座の内容を簡単に報告します。

まず、所長の南博さんがこのテーマのねらいとして、家庭内の人間関係から来るいろいろな問題を取り上げ、その解決の方法を考えたい、離婚も新しい家族形態の創造ともいえる、という発言。続いて、精神病理学の立場から塚本嘉寿さんが「家族関係の病理」について。心理劇の専門家北原歌子さんは「夫と妻の間―その心理と病理」で、家庭裁判所の調停にみる夫婦の実体と、葛藤のときほぐし方。精神医学の立場からは、滝野功さんが「日本と西洋の家族の比較」で、日本の親子関係の特色を。講師発表のあと、参加者は三つのグループに分れて話し合い、あらためて今の日本の家庭の流動的な姿を認識しました。

日本心理センターの問合せは、

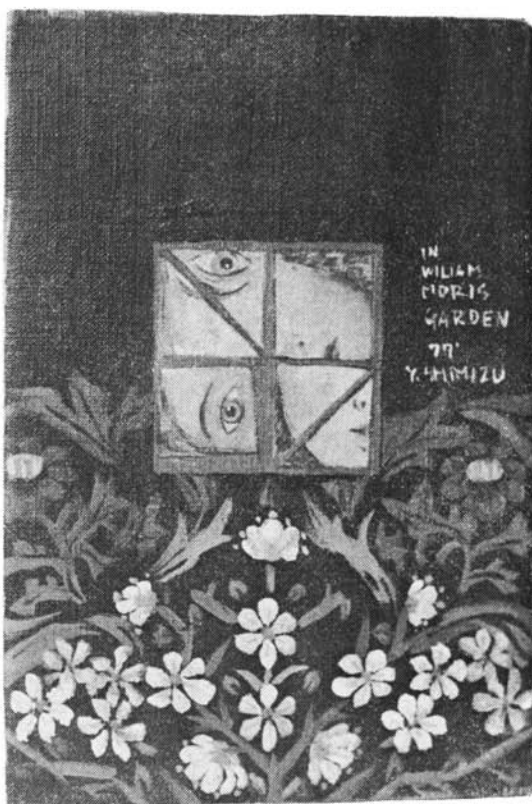
TEL 四〇一・六〇〇八

清水洋子

黒い背景に、多彩な花模様がファンタスティックに絡みあって浮かびあがり、そのなかに人形がいる。この花模様は、イギリスのデザイナーで詩人であるウィリアム・モリスのテキスタイルからとられたもの。

人形は、顔を三角や四角に切られ、パズルのように組みあわされ、あるいは、眼鼻のない、のっぺりした顔をして子供のように立っている。妙になまなましい人形だ。

わたしたちは、子供のころ、人形遊びをしながら、人形の足や腕をひっぱって、わりやり動かしてみたい衝動によく駆られたものだ。静止的な人形を意識的に動かすことによって、人形を一個の肉体とみなし、その美しさに直接触れようとしたのかもしれない。



「ウィリアム・モリスガーデンにて 1」

「ウィリアム・モリス ガーデンにて 2」



清水さんの描く人形が肉体やエロティシズムを感じさせるのは、人形にたいするこうしたイメージがあるからだろう。

清水さんは、最初、美校で油絵を学んだが、後に版画に転向、イギリスに留学。

版画に転向した理由は、自分の思考方法が版画という「労働」を通して、もっともよく定着できると思われたからだ。

「……私は版画（リトグラフ）をする、——石をとき、石の上に描き、プレスをまわして刷る——手とからだを動かしはじめる時、私の思考もなめらかに動きます。版画という（多分に）労働が、私の思考のような気がするからだ。それ故、版画をしないということからは、思考を停止していると同じことになる」と、清水さんは書いている。

一方、清水さんは、すぐれた製本家でもある。自分の絵と文を、美しいオリジナル・ミニアチュールの本にする。

「モリス書房」は彼女の出版社。すでに、『博物誌』『ハムステッド・ヒースから』など多数出版。

「絵というものを、他の芸術のジャンルに関連させながら、広く、総合的にとらえてゆきたい」と、清水さんは制作に意欲を燃やす。

サークル だより



●渋谷サークル

例会だより

十月二十日（火）渋谷サークル例会が会員の田中耐子さんのお宅で行なわれた。

会員各氏に電話で連絡したが、連絡のつかなかった方も多く、集まったのは木村、高野、福田、恒川各氏。おかめうどんをすすりながらこれからのサークル活動やわいふについての合評が話し合われた。

渋谷サークルは長い休みを持っていたが、これからは月一回当番制で会を持つこととなり活発な活動が期待できるかも。入会希望の方は〇三（山）四六七四 高野

（713）八五四六木村まで

●横浜サークル

合宿記

八月二十五日、横浜サークルのために晴れた空のもと、貸し切りバスは、小型の無冷房車。たつぷり開けた窓からは風が快くめぐりこみ、今月の私たちの心は、たつぷり自由です。今年の合宿は例年と違います——貸し切りバスの民宿どまり。私たちは貸し切りバスに喜び、民宿に涙し、家に残した夫には目もくれませんでした。私たちが自由に旅するなんて、何年か前に想像できたでしょうか。自分の行きたい所へ、乗りたいたいのに乗り、食べたいものを食べ、飲みたい時に飲み（ビール！）ながら行くなんてことが——。私たちはその上、自分たちの仲間と二日間いっしょにいられるのです。日夜、食事も、フトンも。いっしょに抱っこしあって眠ることさえできるのです。子どもたちも、私たちのたのしそうな様子にすっかりリラックスして助け合いながら、遊んでいます。何故か、女組と男組に別れてのトラブルには、我が身を見る思いでし

たが——。（女組はあくまで冷静でした）夕食後、全員で「吉田の火祭り」を見学に行きました。ファンタスティックで、勇壮な祭りに魅了されて、しばし迷子ならぬ、迷母続出。子どもたちは固く手を組み、夜の裸電球に写し出される、不思議の世界に引き込まれそう。キラキラ光る目は、風車だの、わたあめだの、ケイ光腕輪だのに吸い付いて離れません。夜遊びを終えて宿に帰り、十一時すぎに、オバケごっこも、暗号ごっこもすませ、子どもたちは眠りました。その後、私たちは例年通り、ミーティングに一ばい会。なん時に眠ったのか、わかりません。

習朝、子どもたちと、割合い元気な何人かで、河口湖畔を散策。「白糸の滝」「富士の水穴」を、見学後ゆっくり帰路に着きました。「またやろうね」「たのしかったです」「うーつかれた」と、声を交しながら私たちは解散しました。

こうして、自分自身をたのしませる為にお金を使い、子どもといっしょであっても別々にたのしんだ私たちの合宿は終わりました。昨年の夏の合宿は、武田さんの家でし

た。夕食後キッチンと家事を終えて集り、あけ方は、そそくさと朝食の仕たくのため、家へ帰ったり、泊れずに帰る人もありました。夢のような変化です。この一年間の私たちの歩みはあまりにささやかで小さいものでしたが、少なくとも、自分自身をたのしませ、大切にし、豊かにはぐくんで行こうとしています。(川口記)

●柏サークルだより

千葉県北部一帯に被害をもたらした台風24号。「柏サークルの皆さん大丈夫でしたか」と全国からのお手紙やお電話(ちよつとオーバー)どうも有難うございました。実はまさにあの翌日十月二十三日が、柏サークル会合の日だったのです。私宅でやることになっていたのですが、常磐線も野田線も不通、その上子供の幼稚園が浸水して午前中は復旧作業?にかり出される始末。それでもガケくずれの危険をおかして?鎌ヶ谷からやって来てくれた鈴木さんと二人で、午後アンケート集計をやりました。

亀山さん、松下さんの住む新松戸も水びたしの由。

四方「タクシー代皆でもつから車ででもおいでよ」

亀山「それが自動車も水に浮いてるんだ。

下水のあふれる危険があるんでトイレもおふろも流せないの」

掛ってくる電話は通じるが、こちらからの電話がダメになった地域も多く、新松戸の高層団地では、都心のオフィスに連絡できずに右往左往の働きバチパパが続出。亀山さん宅では、東京の鈴木みち子さんから「きょう柏サークルに行こうと思っただけで電車がうごかないんだって?」と電話があったのをいいことに「〇〇〇の××××に電話して、うちに電話くれるように言ってよ」

〇〇〇の××××はおつれあいの勤務先。

連絡とれたのはよかったがみち子さんの例のハスキーボイスで「モシモシ〇〇課?新松戸の亀山さん宅におデンワしてチョーダイネ」といわれた勤務先の同僚はおつたまげて電話、

「あれ、ほんとにお前、自宅にいの、こんな電話かけて家庭騒ギモンかと思った

よ」「家に、今朝帰ったんじゃないの、水ならもうひいてるだろう」「おだやかじゃないね、別宅からお電話があったよ」と騒いでいたとか。

まあ、浸水も大したことなく、電話不通もまもなく直って、被害というほどの被害はなく、笑い話でおわったのは幸でしたが、上下水道、ガス電気はもとより、電話もなしでは成り立たないようになってしまった最近の生活、ちよつとしたことでパニックになってしまふ恐しさを改めて感じました。(四方記)

●藤沢サークルだより

去年の五月、四名で出発した、藤沢サークルです。その後少し増減があり、現在七名となりました。乳児から幼稚園児を抱える、30代が大部分で、ゆつくりと話合いをという雰囲気ではありませんが、なんとか一年半が過ぎました。家庭の事情が重なり、会えない時期が続くこともありましたが、電話連絡や当番制による、個人的藤

沢サークルだよりでつなぎとめ、やっと冬への準備ができたという状態です。

十月二十六日(月)に大人五名、子供五名による、にぎやかな例会を開きました。同居の場合の台所考やら、妊娠、避妊のことなど172号の感想も含めて、三時間余り話しました。避妊については、京都大学医学部産婦人科の免疫研究グループが、ワクチン避妊法の研究を進めており、副作用の心配のない避妊法が、実現する可能性があるそうで命中率がよすぎると、夫から言われている私などは、首を長くして待っている次第です。

特集の内助の功については、言葉自体に反発を感じ、気分よく読めなかった。出世は望まないが、給料は上がって欲しい。年をとって夫だけヒラというのも、さみしいわね、というのが本音でした。

横浜サークルでは、すでに始めているようですが、さわやかに自己主張をという主旨のもとに、「自分を変える本」という本を読みながら、半歩でも前に出る為に身近なところからまずやってみようと、自己主張訓練を始めました。

とにかく、「持続は力」で、これからもやっつけていこうと思います。(広瀬記)

●小田急沿線柿生サークル

だより

十月二十四日(土)第三回会合を川崎市多摩農協柿生支店で開きました。

新しい参加者二名を迎え簡単な自己紹介のあと、サークルのあり方について、何を求めてこのサークルに参加したかということになり、それぞれが発表した結果、各人各様、一つの主義主張に偏らないで、自由に発言し意見交換のできる場でありたいと一致しました。

手のかかる小さな子供を持つ母親のいや応なく家庭にこもらざるを得ない日々の苦悩、解決策はないのでしょうか? 二、三人のメンバーの経験談を聞きました。そして、専業主婦であった者が外に出はじめるにあたって、共働き主婦の家事雑事の負担について話しあいました。当分は絶えない話題ですね。ほかに、サークル活動が具体的にどう「わいふ」に反映していかなければ

ならないかなどなど、話題が多すぎてあつという間に二時間が過ぎてしまいました。

次回は忘年会を兼ねて気楽なおしゃべりをし、今回のテーマも大半は残ってしまいましたので、引き続きというところです。

日時 十二月五日(土)午後二時

場所 佐尾宅 会費五百円

ケーキとお茶とワインも少々!

今年のおしゃべり総決算のつもりで、ぜひ参加を。もちろん子連れOK。(松村記)



心のこもった

手作りの味

荻窪 (有) すみれ家



杉並区荻窪 3 の 20 の 10

電話 398-5877

お蔭様で三周年を迎え、すみれ会の方も九月よりスタートいたしました。尚一層本腰を入れ心新たにがんばる所存でございます。かよろしくご利用のほどお願い申し上げます。

すみれ会 予約制

(忘年会・新年会・送別会
誕生日会・法要等に)

●おすすすめコース

和風料理と

オードブル盛合せ

四千元

●懐石コース

四千元

●クラス会コース

三千元

●みのりコース (55歳以上)

二千元

場所 杉並区松庵

時間 午前十時—四時

おせち料理

限定二十組

二十梶角三段重箱入り四、五人用
お重箱別 三万円

一の重 鯛の姿焼、鰯の照り焼

ろーすとびーふ、がらんて

ーん、そふとさーもん、

その他

二の重 祝いかまぼこ、数の子

栗きんとん、その他

三の重 にしんの昆布巻、なます、

鮎の甘露煮、その他

尚お弁当の配達も致しておりますので併せてご利用くださいませ。

男の仕事をとろう

その 6 (最終回)

不動産紹介業

このシリーズも No. 6、最終回となった。これまでは女性が進出していく業種として今後可能性があるものをお伝えしてきたが、今回は「乗っとうろ」ではなく男性ばかりの職場がこの五、六年でほとんど女性に取って替った、そう、いつのまにか「乗っとうろ」という職場を紹介したい。

彼女達は中年すぎでの再就職組、その若さと活気には、ただただ圧倒されるばかりであった。

No. 1 の職業訓練校ルポからずっと取材してきた感じたことは、私達女性が単純に「男の仕事」と思いこみ、少々敬遠しすぎていた職業がいくつもあること。また、性別も資格も年齢制限も何ら厚い壁ではなく、少し力強く押せば案外もろく崩れるものだ、ということ。シリーズに登場の女性たちは、みながみな、この障害の前で引き下らずに少しだけ押してみた、という人たちだったのである。

テレビも仕事仲間

東京・代々木、明治神宮の森近い一角のビル三階にこの職場はある。室内の半分には応接セット。十七、八人は坐れるほどで、来客の多いことがわかる。あとの半分は事務机、十本の電話がひっきりなしに鳴っていた。

壁には標語、“ただひたすらに誠実に。いつも明るく弾んだ声で快活に。おもいやりの心を忘れずに”とあり、支店長以下六人の女性が電話に飛びついて、取引きの交渉がつぎつぎと行なわれる。

ここは㈱甲南不動産会社の一支店。新聞広告を見た顧客の問い合わせに答え持主との間の橋渡しをする仕事、いかえれば住宅情報を売る会社だ。不動産やさんといわれて思い浮ぶのは、お客を道案内して物件を見せ、家主に引き合わせて話をまとめる、というイメージだが、ここでは借りたい人、賃

したい人へ電話で情報を流す。物件案内をしないわけではないが、ほとんどかかってくる電話で勝負だ。

毎日二、三十軒の持主から依頼される物件を頭にたたきこんで、矢継ぎ早やに応答しなければならぬ。電話の相手がどんな条件——家族構成から一戸建てがいいのかマンションがいいのか、はたまた上限どこまで家賃を出せるかなど——を、すぐのみこむテクニク。

「二週間もあれば身につく」とはいうものの、取材に応じている時の静かな物腰柔らかな中年奥様が、電話に出るととたんに威勢のいい声になる。

野球放送をやっていたテレビが子供番組にかわっても、誰一人消そうとしないのが不思議でもある。音量が大きく耳にガンガン響くのだ。

「ああ、それ社長命令なんです。電話のこちら側が賑やかだと、活気のある会社、と思われるでしょ。それからうちは情報を提供して報酬を得るんだか

から、イバッテ商売しろ！ 自信をもってリードしていけ！ という社訓です」

テレビが活気に一役買っているなんて、ちょっと珍しい光景だ。

“口ききのお礼”に味しめて

どんな経歴の女性がこの会社をリードしているのだろうか。肩書きは課長という石井洋子さん（51歳）が入社したのが昭和五十年、かれこれ七年ほどになる。

若くして結婚した石井さんの専業主婦歴は十三年で終止符を打った。離婚したのである。

「事業をしていた夫ですが、その経営にいろいろな要素が加わって、逃げ場を失なうほど私が夫を追いつめちゃったんでしょね」

夫は他の女性のもとへ、三十三歳の妻は七歳の娘、六歳の息子と共に家を出た。妻名義の家も財産もすべて夫の

方に行く。「二十年前といえは裁判や
ったって慰謝料も取れない時代だし、
子供達が一人前になるまで籍も抜かず
で、親権者にだけは私がなりました」
という別れ方をした。

サラリーマンの家庭で育った石井さ
んは水商売をまるで知らなかった。し
かし喫茶店やバーの雇われママ、キャ
バレー勤めなどの経験を積み、やきと
りとおにぎりの店を持つまでになる。
子供を育てるために昼間は保険の外交
もしていてそれでも月三十万程度の収
入にしかない。

ところが昭和四十七年頃、角栄の日
本列島改造論で土地ブーム、何気なく
「口をきいた」那須の土地が売買成立
し、お礼として二十万受け取ったのに
は自分もビックリ。

「これはいい」と味をしめ、夜のおに
ぎり屋を続けながら昼間の仕事を不動
産屋に勤めかえた。すると何と月五十
万から百万の収入が得られた。

「勿論こないいい思いは一年も続きま



せんでした。急に不景気になりました
からねえ」

家庭の事情でしばらく東京を離れ、
再び上京して来た時にこの会社の広告
を新聞で見る。「年齢制限二十〇三十

五歳”までを強引に口説き、「やる気
があるなら来てごらん」との約束を取
りつけた。勿論電話でのやりとりであ
る。石井さんは四十五歳になってい
た。

男性の中に紅一点、必死に働き業績
も上り、会社も顧客も彼女を認めてく
れるようになって、今日に至る。しかし
平穩無事に勤められたわけではなく、
「なんだ女か！男を出せ」と幾度言
われたことか——。人間として誠実で
あるかどうかなど問題ではない。不動
産の取引が相手が女だなんて、男たち
は許せない。ただそれだけのことであ
った。

この反面、女は嘘をつかないから安
心、と思いきや男たちもいる。「男だ
から女だからではなく、人間として見
て欲しい」というのが、そのころの願
いでもあった。

ところが、年経ることに妙な現象が
起りはじめた。石井さんの業績を評価
した会社側が女性にも門戸を開くよう

になると、なぜか男性社員が少しずつやめていった。物件が大きく動かなくなると、男性たちはウマ味がなくなり、賃貸の物件手数料二〜三万円を扱う仕事に意欲を失なったのか？

けれども女性にはたとえ僅かでもシコシコと集め、辛抱強くいらだたずに追いかける、ということが出来る。それが結果的には業績にも反映し、女性が生き残った、ということらしい。

報酬の尊さを知らなかった

支店長の松尾久美さんは大正十三年生まれ。旧制女学校を卒業したあと女專に入ったが、戦争が始まり陸軍省に勤務。再び学業には戻れなかった。

終戦後まもなく結婚、二人の息子を育て、PTAで活動する母親となる。しかし子供達が卒業してしまえば、この役も終る。家庭には姑と自分、「二人の主婦はいらぬ」と考え、活力は就職へと向いた。

この会社に採用されたのは昭和三十一年、日本がオリンピック開催国として浮かれていた年で、松尾さんは四十歳になっていた。以来十六年、その間に他の不動産会社に移ったのだが、数年前「ぜひ戻って来て欲しい」と望まれ古巣に帰ってきた。

「不動産会社に就職、とは誰にも言わなかった。その頃のこの業種はあまりいいイメージを与えなかったし、たまにまな古屋へ単身赴任していた夫には何も言わずに、さっさと就職しちゃったの」

今でも九十一歳で健在の姑は、松尾さんがどんな会社に通っているかを、まったく知らない。

ある省の局長から「天下り」して、いまでも某企業の重役、世間でいう超エリート公務員を夫に持つ身でありながら、「夫は夫、私は私」とはきりけじめをつけ、家計も出し合って運営する歯切れの良さ。そんな松尾さんも「専業主婦」の傲慢無礼を引きずって

いた時もある。

「仕事を始めた頃は手数料をもらうのが恥かしかった。その上家主さんから『苦勞さま、はいチップ』と五百円千円と手渡されると、私本気で怒っちゃう。『失礼です。絶対いただくわけにはいきません!!』って……。当然それは仕事の報酬として受け取っていいものなのに、拒否する。いま思うと世間知らずの自分が恥しい。

家庭の主婦でいた時は、夫の持ってきたくれた給料を使うことだけが仕事だったから、夫以外の人からお金を直接受け取るなんて、恥しいことだったし許せなかったんですね」

お金というものが、自分自身の労働に対しての報酬、また汗と涙の結晶だとよくわかったときに、松尾さんはこの道でのプロになった。

女性も有能だなあ！

佐藤ゆうこさん（48歳）も二年前に

友人の紹介で入社して頑張っている。

「家庭の事情があるので、名前だけは書かないで……」という二人も、四十歳すぎでの就職。みんな長いこと「主婦業」を経験してきた上で、自立を考えて実行した。

収入は固定給十五万に手当がついて約二十万は最低、あとは契約の額によつての能率給だから、努力次第でというシステム。石井さんのように、これで一家を支えることもできた。

この会社は他に二支店があるが、そこでも女性が男性に取って替わった。社長以下数名の男性以外はみな女性、そして全員が顧客との交渉など第一線で働いている。

この支店で唯一人、男で仕事をしているXさんに聞いてみると、「僕も女性是一段低い、と見る世代でしたが、ここに至って女性の有能に驚いているんです。仕事の処理はテキパキと、そして交渉などもうまい、感心しますからね」と、仕事のできるできないは能力

差であって、決して性差ではないことを強調していた。

そういえば、ここでは掃除やお茶汲みも全員平等で当番制、当然Xさんもトイレ掃除の番がまわってくる。誰か一人でも「気の毒だわ」などと手伝ったら、チームワークは崩れてしまう。

「それを絶対しないのが、いいところでしょう？」と異口同音。

時には五十万にもなる収入も、流動する顧客相手ではコンスタントというわけにはいかず、このところの不景氣に対処するには良いチームワークが必要だ。また、不動産業というのは悪徳、と言われたりもするけれど、彼女たちの誠実な仕事ぶりが信用にもなり、誇りを持っている、という。

人生経験豊かな中年女性は若い人に頼られ、安心して相談できるおばさんでもありお母さんでもある。「悪いようにはしない」というのは中年女性の武器なのだ。

「みんなマジメですが、仕事のこと

なるとお互い痛烈です。大ゲンカに発展することもあります。ほとんどが家主さんやお客さんの違約から起るんです。解決すればケロッとして……」

甘ったれや私憤が渦巻いていたら、とても仕事などできない。割切って処理していかないと永続きできるものでもない。女の域とは外側から見てのセリフ、意志をはっきり前面に出し、自分を主張できないような人は勤まらないし、それは男とか女とかの論をはるかに越えていると思う。

一日の仕事が終ったあと、お茶を飲みながらの話題は「女性の生き方」や「子育て」「夫との関係」などに発展していった。全員が子育てを経験し、子供はみな大きく、結婚して巣立っていった家庭もある。

石井さんの他はみな夫ありなので、専業主婦として生きつづけたかも知れ

なかったのに、チャンス逃がさず仕事につき経済自立を果たした母親たち。

——働く姿を子供に見せていたことは結果的によかったわねえ。

——そう、ちいさい時は厳しいお母さんと言われたけれど、基本的な生活習



慣えつけておけばいい。働く母親に協力して、うちなんて家事をすっかりマスターしちゃったわ。

（どこの家庭でも息子、娘には家事能力があるという、しかし夫は例外）

私のところは六十歳すぎているのでもともとテレ屋なの。誰か見てるな、と気づくと絶対やらない。私と二人だとスイスイ手伝う。

——それは世代の相違よ。うちでは何でもやる、あたりまえのこととして。男性はもっと素直に家事分担すればいいのよ。この会社のように。（笑）

——家探しの条件に「子供を転校させたくない。学区を……」という母親が多い。可愛想だというんです。これには一番腹が立つ。過保護もいいところよねえ。

——家にいる人と外に出ている人とは考えることが違うのよ。私たちはいろいろな人と接するから。

——そうね、俳優、大臣、学生運動やってる人、億万長者、水商売、令夫人

二号さん、教育のある人ない人……。

——私も昔はまっすぐしか見られなかったから、二号さんなんて動物と思ってた。「あの人は人間じゃない」

——本当にどんな商売の人にも思いやりがでてきたわね。

——億万長者や大臣があつというまに家賃払えなくなるのを見たり、水商売の中に素晴らしい人がいて感激したり。

——だから私たちは家主さんに「職業で区別するのはやめて下さい」ってケンカすることあるわね。

——自分の世界を生みだすためには、働かなくっちゃ絶対ダメ。

——扶養家族から抜け出して税金を払っている私たち、もっと胸を張って堂々と歩いて行っていんじゃない？

——それにつけても、同年輩の仲間がいるというのは心強いわねえ。

こう語り合える女性がこれからますます増えることを願いつつ、このシリーズを終える。

（原田静枝）

●和田直久

女と ファッションの 戦後史

● 保守化の時代

ジーンズは今や家の中だけ。外へ出るには

ニュートラ、ハマトラ。なぜか？

みずから保守的な服装をえらぶ日本の女性。

理由は「いいところへお嫁にいくため。 ああ、

不毛の市場が救世主に

昭和四十五・六年ごろ、東京のデパートは軒なみに婦人服の売場を拡張し始めた。その目玉は「ミツシー」の婦人服売場だった。

「ミツシー」という表現は、たしか伊勢丹あたりが使い始めたのだと思うが、英語の辞書をひくと、「ミスのような」とある。要するにミセスになっても、ミスのように若々しい女性という意味だろう。「ミツシー」売場の対象の年齢を聞くと、デパートからは三十前後の既婚女性という返事が返ってきた。その当までの業界用語でいうと、ヤングミセスである。

ある時期私達は、ヤングミセスを不毛の市場と考えていた。独身時代は稼ぎの大半を勝手に使えるから、好いお客である。しかし結婚すると、亭主の安月給で家計のやりくりはせねばならず、子供は育てねばならず、テレビ、電気洗濯機、電気冷蔵庫のローンに追

われるで、主婦は自分のための衣料には手が廻らない、せいぜい安いブラウスカ、セーターぐらいで、スカートやホームドレスなどは、バーゲンの端切れを自分で縫うものという常識があった。このヤングミセスが、「ミツシー」と名を変えて華々しく登場するようになったということは、やはり高度成長のおかげと言えよう。

ミニスカートが流行していたころ、デパートは専門店に押されぎみだった。一つにはヤングがショッピングにのり出すのは、勤務後が多い。ところがデパートは、六時には婦人服売場を閉めねばならない。またファッションの変化が激しすぎると、小廻りのきく専門店の方が有利である。特にデパートに置いてある商品の大半は納入業者の委託なのだから、あまりファッショナルな商品は、リスクを恐れて、業者は納入しない。その結果ヤングは、デパートに魅力を感じなくなってしまった。この点「ミツシー」のファッション

は、変化がゆるやかでデパートでも十分に対応できる。またこの年齢のための商品ともなると、サイズ揃えが不可欠だが、これは売場面積の小さい専門店よりも、デパートに有利である。そもそも子連れでは、専門店をぐるぐる廻って歩くなんて芸当はやりにくい。これがデパートの魂胆だった。そうしてそれは当たった。

喜んだのはデパートだけではない。レナウン、樫山、サンヨーなどの大手アパレルの婦人服が、これを機会に急成長した。ヤングファッション全盛時代、例えば原宿の売れ筋は、二週間に一回の割合で変ると言われた。このような変化を利用して儲けるのには、大手アパレルはいささか図体が大きすぎた。まさに「ミツシー」は、デパートと大手アパレル復活のための救世主であった。

白人以上、黒人並み

あれから十年、「ミツシー」売場は

ますます発展している。それにつれて「ミツシー」売場の中心年齢も、現在は四十前後に上昇している。つまり「ミツシー」とは、昭和十年代の生れで戦後ベビーブーム世代の一つ上の世代なのだ。

この世代のファッション特性を、昭和一ケタとの比較で行ってみよう。昭和一ケタのファッションは、よく言えば個性的、悪く言うくと玉石混交である。この世代の中には、若い娘が「まあステキ」と叫ぶほどおしゃれの上手な人もいる。ディオールに狂って以来三十年もおしゃれを続ければ、やはりガキよりもチャネルスーツを上手に着こなせるものだ。ただしその着こなしはやはりオート・クチュールのではあるが。一方羽のついた帽子にミニスカートといったとつびな格好で、嬉しそうに歩いているオバ（ア？）サマもある。また服は軽ければよい、暖かければよい、と機能一点張りで、その着こなしが形になっているかどうかを、ま

るで気にしない女性もいる。一番多いのは洋服を着ていても、なぜか和服の着こなしになっているというタイプである。

これに比べ「ミッシー」のファッションの質はわりと揃っていて、「余りにもひどい」と思わせる女性はいない。流行に対する関心も高い方で、パントロンが流行する時はパントロン、ブーツが流行ればブーツと、業界がプロモートするファッションをほど良く受け入れていく。

両者の差は、二つの世代の青春時代の状況で説明できるのではない。一ケタの女性たちの若い時は、日本が焼跡から復興しつつある時代であった。従って、彼女たちは、今でも物を使いつてることに、時々とまどいを感じたりする。娘時代の「よい」生地洋服がたんすの下から出てくると、もったいながって子供に押しつけようとしたり、ついには自分で着たりして、周りをあきさせたりする。

また戦中・戦後の苦しい時代を苦闘して生きぬいた自信のためか、頑固で人の言葉に耳を傾けない傾向がある。

これは戦後第一期の民主主義教育の結果でもあり、あの悲惨な戦争体験をくりかえさないためには、まず自分の信念に従って行動し、お上や大企業の言うことには半身にかまえる習性がついている人が多い。従って（感覚面がにぶいという傾向もあいまって）コマージュを楽しみながら、そのメッセージュを受け入れるというタイプの世代ではない。この世代に流行を持ちこむのは至難のわざなのだ。

もう一つ、彼女達の青春時代は、生きることが全てという時だった。この頃いろいろな欲望をもったとしても、そのうちの一つを（絵画ならば絵画だけ恋愛ならば恋愛だけ）守り抜くことが全ての時代であった。その結果この世代の女性には、何か一つのことになれる代りに、今の世間の常識とな

っていることが欠如しているというタイプが多い。極めてファッショナブルか、もしくは全然ダメかというように分れてしまうのだ。

ミッシーの青春時代には状況が一変した。一ケタの青春が「働かなければ生きられない時代」であったのに比べ、ミッシーの時は「働けば欲しい物が次々と手に入る時代」であった。

昭和三十年前後から、日本の経済の中心は、鉄や石炭から、テレビや電気冷蔵庫などに変った。消費の時代が始まったのである。この消費を促進するために、マスコミも成長を始めた。この時代における「良い消費者」とは、企業においては笑顔でお茶汲みをして男子社員に重宝がられ、その結果得た所得の大半を、週刊女性誌などが華やかに広告するブラウスやブリーツスカートの購買に廻す「可愛らしい女の子」であった。

企業が提供し、マスコミが宣伝するものに素直に反応するという性格は、彼女達が「ミッシー」として再登場し



今 や 制 服 ? ハ マ ト ラ

てからも、あまり変りはないようだ。おかげで、前述のようにデパートや大手アパレルは急成長し、ミッシーはたちまちファッショナブルになった。

ミッシー誕生のころに私の会社でファッション関係の翻訳の仕事をしていた昭和一ケタの女性が、亭主の仕事の関係で一、二年アメリカに滞在し、戻

ってきた。以下彼女が日本のミッシーマーケットを再見しての感想である。「あなた達、私がない間にやったじゃないの。今日本の奥様たちの方が、

アメリカの白人達よりも、よほどいい服を着てるわ。何しろあの人達は、家やインテリアに金を使いすぎるせい衣服にはケチなのよ。そういえば、日本人に似ているのは黒人ね。あの人達、スラムに住んでいのに、自分たちと子供の服には金をかけて、いい自動車を買って、皆揃って遊びに行くのよ」

高いものほどよく売れる

この数年間、「お洋服が高くなってとても手が出ないわ」という声をよく聞かされる。それはそうだ。私でさえも、一万円以上するブラウスなんて、どうして売れるのだろうかと思う。私だけではない。デパートの人と話をすると、「こんなに服が高くなると、消費者が今に売場に来なくなるよ」という愚痴を聞かされる。

ところが現実には、高い物ほどよく売れるのだ。まず第一の証拠は、最近のスーパリーの衣料品の不振、デパートの好調である。デパートでも、お気づき

だろうか、実用品売場のスペースは、最近縮少の傾向にある。逆に高級品の売場は、拡大しつつある。これは都心だけの傾向ではない。最近郊外へのデパートの進出が目立つが、その際価格帯を一格おとす戦略をたてた店は失敗し、できるだけ都心店の商品構成に近づけた店は成功している。

実は、消費者の高級品志向のおかげで、ファッション業界が辛うじて息をついているというのが現状なのだ。このところ数量ベースでは、婦人服の売上は減少の傾向である。またスーツやドレスのような値のはる服種の売上は減少しており、セーターやスカートの単価の低い服種に、消費者の志向は移っている。従って単価のアップしか業界の手はないのである。

高級品志向は、年齢を問わず、最近の消費者の一般的傾向だが、奥様向けの方が、平均的に値が通るようだ。例をブラウスに取ると、デパートのヤング向けの中心価格は一万円を割るが、ミ

ッシー対象だと、一万二千元になる。

高級品志向と関連するのだが、消費者のブランド志向も高まっている。詳しく観察すると、若い人の場合と年輩者とは、ブランド志向もニュアンスを異にする。若者の場合、たとえばジヨギングシューズは、タイガーのリンバーアップが「本物」というような志向であるのに、ミッシーの場合、レナウンやオンワードのような有名ブランドならばどれでも安心というようなパターンになる。

このようなミッシーの有名ブランド志向は、ファッションだけの問題ではないようだ。トイレットペーパーなどの家庭用品の間屋の社長に聞いた話だが、最近スーパリーが、プライベートルランドや、ノーブランドの商品を開発しており、彼の目から見ると、品質や価格の面で、そちらの方がお徳用と思うものがある。やはり消費者は、クリネックスやスコッティを買うとのことである。

最近自動車の例だとコロナの上にマークⅡを作るように、より高級なブランドを作る作戦が流行っている。ファッション業界では特にデパートが積極的で、海外ブランドの導入などをすすめているが、おおむね成功しているようだ。

私は、ブランドへの関心が高くなったことを、必ずしも悪いことばかりとは考えない。たとえば私の背広の場合、サイズがＹ７でも、合うブランドと合わないブランドがある。これは私の体型が、猫背で撫で肩のためで、パートナーが反り身の人に合わせて作られているブランドは、私などお呼びではないのだ。消費者の衣生活への知識が増大し、好みが生ビアになるにつれて、結果として、より高級なブランドに目が行くことは仕方がない。ただ、実体のないブランド志向は、一時的に業界をうるおすだけであろう。残念なことと奥様がた、それも三十代よりも四十代の方に、この傾向は多いようだ。

ニュートラとキャリアウーマン

ニュートラを御存じですか。最近はそのものズバリのタイトルの雑誌まで出るそうで、名前が一般化したのが、私にとっては、この四、五年ずっと見続けている丸の内のＯＬの典型的な通勤スタイルである。現在ではニュートラは、丸の内ルックから拡がって、ハマトラなどのバリエーションを含めると、学生からミッシーに至る日本人の一般的スタイルとなった。

ニュートラの登場は、ファッション屋にとってショックだった。第一の理由は、ニュートラがファッショントレンドと、全く関係のないスタイルであったことだ。普通ファッショントレンドと言う時は、パリのプレタポルテを頂点とする欧米のファッションの新しい動きを指す。ところがニュートラは、日本しかも関西で生れたファッションで、欧米にそのような物が新しく

わいふバックナンバー

* 159 同居か別居か

* 165 夫の貞操

* 166 なぜ女ばかりが家事をする

167 主婦の近所づきあい

168 悪妻

169 母親が働きたずとき子育ては？

170 変貌する夫たち

171 ただの女の防衛論議

172 夫の成功は妻次第？

誌代は167号まで三五〇円・168号・171号四五〇円。送料は一冊二〇〇円・二冊二五〇円・三冊五冊三〇〇円・六冊九冊まで三五〇円です。*印の残部は僅少です。ご注文は編集部へお電話でどうぞ。(03)二六〇・四七七

生れる動きはなかった。強いて似たようなものを探すとすれば、たとえばセリヌのようなややコンサバティブなマダムのための高級ブティックが、伝統的に作り続けていたスポーツウエアだった。

ニュートラが誕生した頃、パリでは、ケンゾーに代表されるビッグルックというダブダブスタイルが流行していた。ファッション屋は、ビッグルックとジーンズとの間に、これからのファッションを予測した。しかし丸の内のOLは、保守的なマダムのスタイルであるニュートラを選んだのだ。

ニュートラが流行り始めたころ、私はOLたちの話を聞いて廻った。彼女達は、ビッグやジーンズを着たために、「あいつは遊んでる」という噂が立つことを恐れていた。蔭で何をやっていても、お嫁に行くためには「きちんとした」みなりをした方がよい。

ニュートラの流行は、高級品志向、ブランド志向と結びついている。ニュ

ートラの特徴は、スタイルが平凡で、変化がないことだ。差別化のきめ手はブランドだ。まずアクセサリーにその波が押しよせ、グッチやセリーヌが売れに売れた。最近流行の綿コートを例にとろう。パーバリを着ていることは裏のチェックでわかる。

私自身の考えを言うと、私はニュートラを好まない。理由は保守的な服だからだ。ウーマンリブ的な言動の女性が、ニュートラであらわれたら、私は顔をしかめるだろう。

民俗学の言葉に、「はれ」と「け」がある。服飾史の最近の流れは、「け」が「はれ」を駆逐する過程だと思う。コルセットとハイヒールでは働けない。しかし人前ではそのような恰好が必要だ、ということだったらば、ファッションは現代女性の生活に全くマッチしないということになる。

前回述べたミニからジーンズまでの流れは、「け」の服のオーソライズだった。ミニをクレーージュがとりあげ

たことの意味は、若い娘達の日常のスタイルが、オート・クチュールまでを屈服させたということなのだ。ただ戦後ベビーブーム世代は、服装革命を余りにも性急に、余りにも観念的にやりすぎた。そして今反動が来ている。

保守化は、アメリカでも始まっている。しかし欧米では、やはり機能的でシンプルな「け」のファッションが主流である。日本と欧米との見た上での一番の差は、人前でのパンツルックの多いか少いかだ。なぜ日本女性は、機能的なパンツルックを、再びふだん着だけに限定してしまったのだろうか。

欧米と日本のスタイルの差は、ファッション屋のせいというよりも、社会における女性の状況の違いによるものだろう。欧米ではキャリア・ウーマンは着実に増加している。欧米のファッション屋はこれに目をつけた。というよりもあちらでは、キャリア・ウーマンはファッション業界の救世主なのだ。ファッション屋というのはやや軽薄な

人種だから、かつてティーンエーजी
ーが最大の顧客だった時にミニをオバ
様にまで売りつけたように、今はキャ
リアウーマンルック全盛である。最近
モデルの背丈が大きくなり、変にいか

ついメーキャップで、肩パットの入っ
たスーツが流行るのも、ウーマンリブ
のファッション屋的表現なのだ。最近
デパートなどが、キャリアウーマンル
ックのアメリカブランドを次々に導入

している。ただしその日本製を見ると、
売れるようにニュートラ風に加工して
ある場合が多い。早くオリジナルに近
い形で売れるような状況に、日本もな
ることを希望する次第である。(終)



す て き な 熟 年

死刑囚孫斗八の生涯

逆うらみの人生

丸山友岐子著

死刑の執行人は、どんな気持で職務を果たすのだろう。教誨師の導きで悟りの境地に達した囚人が、すすんで死刑台にのぼってくれるからこそ、死の儀式をつかさどることができるのだらうと思う。

ところが、執行の際暴れまわって抵抗した死刑囚がいた。大勢の屈強な係官が彼を取り押さえて、むりやり首にナワをかけ、足下の台を落としたのである。遺体には、ひきずられた傷跡と、係官の指が食いこんだアザが残っていた。

この囚人の名は孫斗八。洋服商夫婦を殺害して金を奪った罪で、死刑囚監房につながれた。彼は六法全書を読破して自在に駆使できる力を持ち、監獄法や死刑制度は憲法違反であるとして、ものを書き、外部と通信する自

由も、自力で闘争して獲得した人物である。

ただ、自分が無実だとする彼の主張は、友人や弁護士にも嘘だと見抜かれていた。他人の命を奪ったことを悔いる様子もなく、自分の生のに執着して死刑制度と闘う彼は、多くの支援者を失った。著者丸山友岐子氏は、そんな孫斗八の人格を批判しつつ、昭和三十八年の執行まで七年にわたって支援を続けた女性である。朝鮮人のインテリ青年が、この社会に受け入れられず犯罪者になる過程を描いたくだりは、日本人にとってずしりと重い。

著者は孫の遺体と対面し、この死には同意できないと感じる。死刑制度は廃止すべきだと主張する。だけど、そうしたら凶悪犯罪が増えるのではないかと、だがすでに死刑を廃止したヨーロッパ諸国では、犯罪の発生件数は廃止前と変わっていないそうだ。

死刑制度は、無実の死刑囚を再生産せずには置かない。殺しには殺して報いるやり方は、現代法の理念と矛盾する……著者の言葉

は、読み手の内にひそむ死刑必要論を根底から突き崩していく。読み終えて、死刑廃止論に大きく近づいた自分に驚いた。

社会評論社 一五〇〇円（鈴木由美子）

「家族」って何だろう

ますのきよし著

日頃、『家族』というと、マイホームパパとかニューファミリーとかいうイメージが浮かんできて、タイトルを読んだ時、ピンとこないものがあつたところが、作者の意図は、家族そのものを問題にしているのではなく、男（夫）と女（妻）の関係性や、大人（親）と子供の関係性を、ある時は動物社会学に、ある時は大脳生理学などに根拠を求めながら問いかけ、それらを基礎として社会のあり方をさぐるというものである。

特に動物の生態を引用した箇所は興味深く、人間も動物の仲間だという思いを強くし

たと同時に、愛の起源が子育てにあることや、愛の裏側には、排除・憎しみの論理があることなど、今まで考えていたことが逆であったことも納得しやすかった。

著者は家族を結びつけるぎすなは愛でありその起源は子育てにあると述べる。そしてマルクス主義家族論を全面的に信じていた一時期があったが、その後自分が子育てをするうち、何かスッポリぬけ落ちている部分があることに気づいたという。すなわち彼にとって子育ては思想上での一転期をもたらしたいえよう。

子育てが歴史をつくるという考えは私も同感であり、社会一般において子育ては女の領域だという考え方はいかに偏見であるかという思いを強くする。物質を生産することが優先される現代の社会において、生命を生産する子育てという行為の重大さを、男も女も共に認識し、子育てのおかれている状況のむづかしさに真剣に取りくむべきだと再認識させられる。

現代書館 一五〇〇円（重田紀子）

「働いて生きる」

大脇 雅子著

著者、大脇雅子さんは、弁護士。女性の働く権利を訴えて、精力的に活動している。

三十歳若年定年制に抗して闘った大木捷代さん、出産明け配転を拒否して解雇され、以後十年八カ月、解雇無効を争って和解に至った立中修子さん、鈴鹿市役所の昇格差別と闘う山本和子さん、頸肩腕障害を職業病として認定するよう求めて闘う保母の関口三和子さん、合理化による人員整理で指名解雇、撤回を求めて訴訟をおこした沖電気の東田照子さん――。

彼女たちを、女である、妻である、母親である、だから差別する、という資本の論理は「女は家庭に入って夫に養われ、子どもの世話をする存在なのだ、その掟を守らないのは異端者だ」という理屈によるものだ。しかもそれは、「女は家庭で家事、育児に専念すべきであり、それが女の幸福なのだ」という社会通念にバックアップされている。自分ではその論理や社会通念を否定しながら、今なお「家庭内主婦」として生活している自分が恥ずかしくて、こういう類の本は「重い石」の

ような読後感を私に残す。

文字通り血の通るような彼女たちのたたかいが、こうして積み重ねられていくからこそ働き続ける女たちが支えられるのだと思う。

働き続けたいという思いは、何も肩ひじをはった使命感とか、やむを得ない事情からのみ生まれるものではなく、ふつうの人間の、ごく自然な、あたり前の気持であるはずだ。そして、次代を担う子らを産み育てる「母性」は、社会的に保障しなければならぬ、というのも、ごくあたりまえの論理であろう。それなのに、近代化がこれほど進んでいる日本で、こうした差別の土壌だけは、前近代的なままに残っているというのは、何とも奇妙ではないか。

女が仕事も暮らしも同等に考え、真に働き続ける権利を女自身の手のうちにたぐり寄せようとする中で、子どもたちも、家族も、社会も、そしていつかは政治をも、変えていくことになるだろうと著者は言う。単に女のおかれた重苦しい立場を分析するだけでなく、それを未来への展望に導くことが、これから私達の課題であらう。

学陽書房 一二〇〇円（友松悦子）

問はずかぬりす

繪鳥居積子
文和田好子

夢の恨み

政治の駆け引きのただ中を、泳ぎ渡るようなあぶない宮仕え、帝位を奪われたうえ、さらに圧迫されようとしている院とともに在って、権力側からの働きかけを受けている私の立場は、まさに薄氷を踏むようなものであった。

曙の君はこのときに当って、私との関係を断ち、院のご信任を得ることにつとめ、春宮^{とうぐう}大夫に就任した。春宮（皇太子）であられる院の皇子は、まるで敵中に在るようなお立場であったから、曙の君の献身的補佐はどんなに院を力づけ奉ったかしない。

私も細心の注意を払っていたが、不徳の致すところで東二条院（院の女御）あたりからのごん言は絶え間がなく、鷹司の大殿との事件以降、院のご信頼は破れ去ったというはかなかった。しかしもしあのとき、私が大殿を振り切っていたら……？ それもまた良い結果をもたらさなかったであろうことは、院自身よくご存知であったので、私をすげなくお見捨てにもなれないのである。屈辱に耐えつつ、粘り強く時を待たれる院のお気持はよくわかっていたから私もまた、時おりの冷たいお仕打ちをお許し申し上げた。こうした状態で、しかし表面は恒例の御儀式、おりおりの御遊び、催し事とはなやかな御用をお勤めしつつ、三年

あまりの時が過ぎた。

弘安四年（一二八一年）、私は二十四歳であった。春の霞立ち初めるきさらぎのころ、東二条院のお生みになられた姫宮が、おかぜが長引いてお悩みになったので、有明の君が御祈禱に参上なさった。

あの怖ろしい起誓文を突き返してのちは、ふつりと御消息が絶えたので、私としてはもはや過去のこと、昔語りでしかないと思っていたのであるが、さすがにその人を目のあたりにしていい気持ちではなかった。さりとて御役目柄いかがはせん。如法愛染王法という御修法をあそぼすのを院のお側で承わり、終ればお斎をさし上げることになる、お酌に立たないわけにはいかない。ご兄弟久しぶりのご対面でのどやかに御物語の間も、御心の中やいかにと気味がわるく思う。ところへ、おり悪しく院は急用でお立ちになり「じき帰りますからお待ちなさい」と仰せられて出て行かれた。有明の君と私は二人きりになってしまい、逃げ出したい衝動に駆られたが、礼儀上躊躇して先手を越されたのは是非もない。

二人きりといっても侍女たちの目はあるのに、はらはらと落涙され、憂かりし年月は三年もつもとったと恨み言のくさぐさ、まあ、この席でどうご返事ができよう。しかたなくただ無言で聞いていたら、だんだんお声が高くなつて「なぜ一言もお聞かせくだらんのか！」などと切迫つま

った騒ぎになってきた。ほどもない院のお帰りの物音、気がでない私の心の中も知らず、めんめんたるお口説きは止みそうもなく、なんと、院は御障子（襖）のむこうで入りかねて立ち止まっていられるのであった。

ようやく気が付いて口説き止められたものの、入って来られた院に泣きはれて真赤になったお顔がどう写ったか。さすが図々しい私もいたたまれぬ思いだった。

その夜、ご寝所に伺候して例のごとくおみ足をおもみしたとき、

「さてきて今日は、思いのほかのことを聞いてしまったなあ。どういふことなのか？ あなたは彼を愛しているのかね？」

問い詰められて、ここまで知られては言い紛らわすこともできず、ぼつぼつことの経緯を申し上げるはかなかった。根掘り葉掘りお聞きになっておおいに歎息され、

「一念の妄執だなあ。昔から高僧が女で身を滅ぼした例はかずかずある。これは彼の命にかかわることだよ。あなたと、彼と結婚してやるべきだ」

と、これまた思いもよらぬ仰せである。

「こう言ったからとて、私が愛していないということではないのだよ。幼いときから一緒に暮して、ひととおりでなくかわいいと思っている私の気持ち、知らぬあなたではあるまい。しかし世の中はわずらわしい。あなたを思いど

おりに、名実ともに妻とすることはついにできなかった。その理由もまたわかっているだろう？」

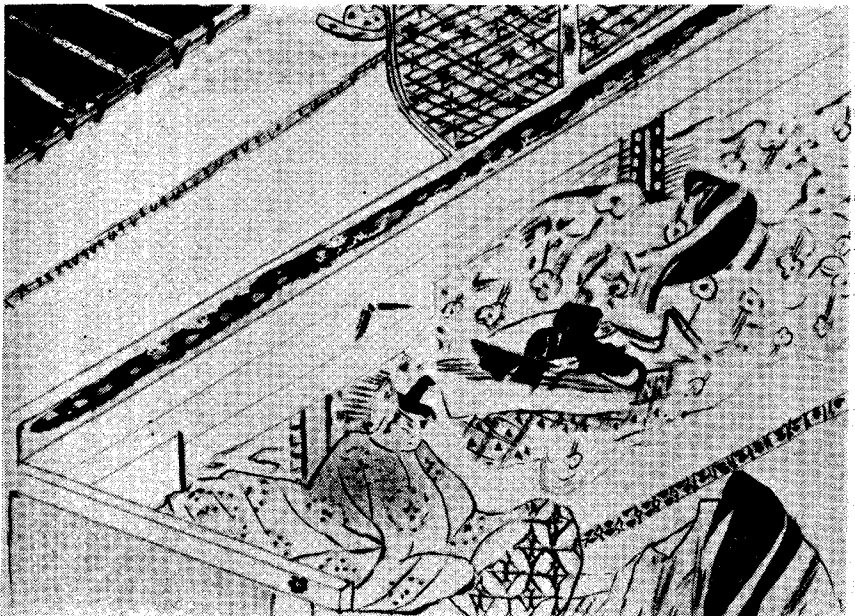
と、長々とぐちをおっしゃる悲しいお心。もはや院は私を幸福にすることはできないと、お悟りになるはかなかったのだ。仲の良い弟君に、表向きは叶わずともひそかに婚わせて、新しい運命を、私のために拓いてやろうとお考えなのであった。

「彼は子供をつくるわけにはいかない立場だ。もし子供ができたら、私が引き取る」とまで仰せられた。

高僧のかくし妻となること。それがはたしてどんな幸福なのか……私にはわからなかった、しかし危い世渡りを、これ以上続けさせることはできないと、院が恐れていらっしゃるのはもっともなのである。私は依然として新院（亀山院）にねらわれていたのだ。

お心の中を思えばまことにつらく思われたが、私は仰せに従う決心をして、翌晩から祈禱にいらっしゃる有明の君を、あの道場近くの小部屋でお待ち申し上げた。泣く泣くお喜びなさって、昼間お経をおあげになるお声さえ、いさんで張り切っていらっしゃるのだった。

ご祈禱は七日続き、毎晩あたたかい短夜の夢ながら、肌を合わせているうち、純情なあまりにも純情な、かの君は私の心にも清らかで一途な愛を、よびさましてくれたの



である。それは裏に権謀をはらんだ宮廷の情事とは、まったく異った世界であった。

しかしかの君に傾いてしまった私の心を、推しはかられる院のお気持ちは複雑で、思い捨てたとおっしゃりつつ、私を退出させようともなさらず、さりとてご寢所にお召しにもならず、悩みわずらうご様子がありありと見える。

どうすべきか、進退に窮しながら有明からの御文には一おうのご返事をさしあげ、日々忙しくご用をおつとめして二カ月が過ぎた。

「今夜は客もなし、人少なだから……」とお召しがあり、どうなることだろう、やはり諦めてはくださらなかったのだ、と気の進まぬお供をしたところ、寢殿の北側の御客間につれ込まれて、いきなり抱きしめられ、

「ああ、やっぱりお前と別れることはできないよ。好きなんだから仕方がないじゃないか！」

と、さまざま二世の愛をお誓いになるのに当惑した。うたねの後の細言に、

「じつはお前が妊娠した夢を見たので、弟の子を宿したのではないかと思つて、二月がまんして待っていたのだ。逢えないのはほんとに切なかつたよ」

ごろんになったのは正夢であつた、私はあの七夜の逢瀬以後、月事を見なかつたのである。

五月いつつきになって目立たぬよう地味な帯祝いをした。院は有

明の君をおよび寄せになり、私をゆるずる旨を懇々とお話しになった。子供は引き取ろうということも……。弟君はただもう、感謝の涙ばかりであつたという。

ついに私は退出して、まず嵯峨の継母のもとに行き、それから法輪寺におこもりをして、安産と身の行く末を祈つた。有明の君の在す御寺おが（仁和寺）は、嵯峨野に近いので継母の別邸はお通いどころとしてかつこうなのであるが、私は院のお気持を思い未だに躊躇するところがあつて、まさかに情事も語れない法輪寺にこもつたのだ。七日の結願けつがんまでに、心を定めようと思ひつつ。

流転三界中 恩愛不能断

ああ、み仏は私の祈願をなんとお聞きになったのだろうか。私の生涯を決めた大事件は、この参籠中に起つたのである。

にわかに院から御使いがあつた。兩上皇の母君、大宮院おみやのいんは嵯峨天皇の皇后、二人の天子を生み奉つて世の崇敬のあつてお方である。私の生母のいとこに当り、つねに私を後援してくださつて、私が嫉視あやしみさん言の中で官仕えを続けられたのは、大宮の御庇護に負うところが大きかつた。

その君がご病氣であるという。院は新院ともども、お見舞いに参上なさるので、私にもすぐ出てきて手伝えということなのだ。兩上皇が揃つて御幸になる、それも公式に母

后をお見舞いになるとなれば、そうとうな騒動であって、慣れた有能な女房に指揮を取らせなければならぬのはもつともだった。私が最適であることもたしかだ。しかし出産を翌月に控えた大きなお腹を抱えて、どうまあ、そんな晴れがましい場所へ出られようか。

いくらなんでもとお引き受けしかねている私に、お使いは櫛の歯を引くように続き、「装束をつければお腹なんか目立ちはしないから」とおせき立てになる。大宮院のご病氣はおそらく口実なので、母后が両院の不仲をご心配になり、あっせん役を買って出られたに相違なく、それならば天下の治定のため、重要な御行事といわねばならない。このときにあたって、日ごろの御恩寵に報い奉らないのも工合いがわるく、ついに私は出て行った。

予想通り、これは母后を中にしての御仲直りの儀式であって、そのかげには曙の君はじめ、多くの人々の政治的努力があったのだった。

華かな御催しが、御歌会、音楽、蹴鞠と打ち続き、母后のご所望で両院が声を合わせて今様を、

あわれに忘れず身にしむは、忍びし折々、待ちし宵、

頼めし言葉もろともに、二人有明の月の影……。

とおうたいになって、めでたくお開きになったのは、もう深更であった。

そのままお泊りになるので私はご寝所のしつらえを指揮

して、退ろうとしていると両院ともに入っていらっしゃった。新院が「お人少なではありませんか、私もここで兄上の宿直をいたしましょうよ」と、おっしゃる。院は私がいるのをごらんになって、「ちょっと足をもんでおくれ」。院はお小さいときにおみ足にご病氣があつて、歩行が不自由であられた。そのせいかお疲れのおりは、必ずおもみしないとお寝みになれなかった。それを知っている私は新院のご前では、といやな予感をおぼえつつ、しかたなく仰せに従ったのである。

すると新院は、私を中にしてびったりと寄りそって横になられ、

「いつもながらお美しいことだなあ。今日あなたの歌が出なかったのはなぜ？」

などと、後からご愛撫になる気味わるさ。ついに院へ、

「私に賜わろうとはいいませんよ、ご寵愛のお方ですからね。ただ今夜だけ、われわれの真中に寝て欲しい。ね、いいでしょう？」

とてつもないおねだりをなさるのだ。院ははじめはきっぱり、

「この人は妊娠中なんで、里に下っていたのをわりやり手伝いに引っぱり出したのです。立ち居も苦しいほどで、さぞ疲れているでしょう、休ませてやって下さい」と

と、私を逃がそうとなさったのであるが、新院はお離れに



ならない。「いいじゃないですか、この真中でお休みになれば」とだんだん態度が強硬になられた。

ああ、院のお心のよわさ、お立場のよわさ。せつかく仲直りをなさった権力ある弟君に、たてつくことを恐れてかそれ以上は何もおっしゃらず、酔って寝たふりをなさったのである。騒ぎ立てればどうなるであろうか？ 私は観念した。新院はあらあらしく私をお抱きになり、屏風の後に引きずり込まれ……。

翌朝、院は何くわぬ御顔で、私を信じている如くにお振舞いであった。そう、院と私とは、どうしてもああするはかなかったのだ。

決定的なこの事件ののち、私は院とお別れする決心をして、出産を機会にしようと再び帰らぬ覚悟で、例の四条の乳母の家に退った。しかしこのとき私のお腹の子が、院の御子でないという評判はすでにかまびすしく、有明の君の御名さえ、世にかくれもないありさまであった。

十一月六日、男の御子を生んだが、危険な情勢の中で有明の君は枕頭に詰めきり、陣痛に苦しむ私のために祈禱をしてくださった。そしてぶじお生れになったわが子を、涙ながらに抱き上げられてみ仏と兄君に感謝なさったのだった。

院はおおいに有明の君の評判に苦しまれて、とても自分の子としては引き受けきれなくなると、ひそかにこの御

子を養子にお出しになるほかなかった。私は三人の子を生まながら、死別生別、ひとりとして生長を見ることができなかったのである。

産褥を離れると、有明の君のしるべの家にかくまわれ、彼のかくし妻となった。子を失なった悲しさはさることながら、院のご配慮が功を奏して、しだいに世の噂もしずまったので、わずかな期間ではあったがこれまでになく静かな、心安らかな愛の生活がおとずれた。

それは一年に足らぬ日であった……しかしかの君の誠実な御情は生々世々別れがたい。「もし世の非難が避けられなくなったら、仁和寺総法務の地位を捨てて、小さな山寺の住持になって暮そう。あなたとともにあれば、どんな生活でも楽しい」とかずかずお誓いになったのに……。

弘安五年、都には疫病が流行して、庶民も貴族もわかになく生命をうばわれるものが多かった。世の中は騒然として朝廷はしきりに悪霊調伏の祈禱を行われる。有明の君は職務柄、夜を日について祈禱会を主催なさらなければならなかった。十一月十三日の夜、お疲れのご様子で立ち寄り、
「身近かな人たちが次つぎと亡くなっていく。神魂こめた祈禱のかいもない。私の命もいつまでかと心細くなったので、逢いに来た」

とおっしゃる。えんぎでもないお言葉に、私は気持を暗くしたが、もうそのとき、ご気分がふつうではなかったのだ

あろう。御寺へ帰られて間もなく発病され、たちまち重態になられたのを聞いても、かくし妻の身では駆けつけることもできない。十一月二十五日、ついに空しくなられたとお側仕えの小童が報らせてきたときの悲しさ。はじめての夜、かたみに取かえて別れた私の小袖を、「このまま焼いてくれ」と仰せられて、臨終にお召しになったということである。お形見にもたらされた大きな蒔絵の文箱をあけて見れば、包んだ黄金が一ぱい詰めてあった。私の頼りない生活を、最後までご心配になったのである。そえられたお文は、筆跡が乱れていてついに判読できなかった。

浮き沈み 三瀬川にも逢う瀬あらば

身を捨ててもや 尋ね行かまし

となげく明け暮れに、院からは「さてもお心のうちはいかに」と弔問の御文とお歌が届いた。

面影も名残りも さこそ残るらめ

雲がくれぬる有明の月

さらに「すぐ帰って来い」としきりに御使いを下さったけれども、どうしてそんな気になれよう。泣き暮すうちに心地さえただならず、なんと妊娠していることがわかったのだ。この忘れ形見ばかりはみずから育てたいと思い、東山にしるべの家を借りて移り、翌年の秋ひそかに身二つになった。なかなか乳母が見つからなかったので、自分で乳を飲ませ、むつきさえ換えて世話をしたが、はじめて知っ

た親子の情であった。乳母が来てからも手離しがたくしよに暮していたが、院からたびたび促され、どうも他の男の存在を疑っていられるようなので、ついに仕出した。

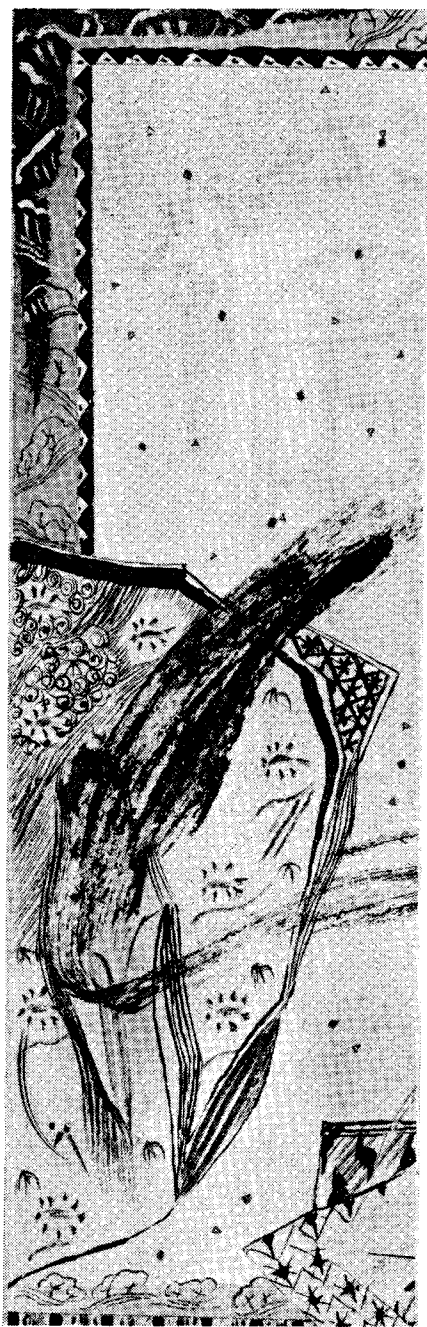
しかしあんなに呼び寄せたがっておられたのに、院はことごとくに私の心変りを疑われ、亡き弟君や新院を嫉妬されてどうにもしっくりいかなかった。そして、おそらく新院との仲をさん言したものがあつたらしく、私は弘安七年の秋、幼時から住みなれた宮中を、退出しなければならなかったのだ。私の宮廷生活、華やかで悲しいそれは終わった。

正応二年（一二八九年）、前年髪をおろして尼姿となつ

た私は、今まで経験したことのない自由を感じていた。経をよみ歌を教えれば自活することができ、憂き世のあらゆるしがらみから解き放たれた。まことに三界の中に流転すれば恩愛は断ちがたく、苦悩は尽きない。真理と心の平安は仏法のうちにあると深く感じ、三十歳のこの年、修業の旅を思い立ったのである。

いでや、日本国中の名刹みでらを拝し、歌枕をたずねんと、ときは如月の末きさらぎの方、花なき里に住む身ならねども、都の春霞を見捨てて芦毛の駒に打ちまたがり、東海道をまず鎌倉へと志した。それは生涯の後半を賭けた大旅行への出発であった。

（終）





独身の私が「わいふ」を読む理由

千葉県松戸市 林 美智世(27歳)

わいふでない私が「わいふ」を読み始めてもう一年位になります。はじめ「わいふ」という名にこだわったのですが、一七一号の「素顔の夫婦関係」など、もともとっと未婚の人が読んだ方がいい内容だと思いました。主婦の問題がいろいろ言われていても、やはり若い女にとって、結婚とは「女の幸せ」の絶対条件であり、結婚しないと周囲から言われます。私も「売れ残り」と落書されたり、「仕事してると男がバカに見えて相手にしたくないのでしょ」と言われてみたり。今でこそあつさりやりすごせるようになったものの、一時は相当マイッタものでした。

ところが、あつさりやりすごせるようになったがゆえに、さらに「わいふ」を読む必要を感じています。男社会の中で、仕事を続け、ある評価を得、独身だと自然「名譽男性」になつていく危険を感じるからです。特に私はいわゆる専門職で、男女差がほとんどない稀な職場ですから、特にその危険は大きいので

す。私のような立場にいと、「女も経済的自立を」とだけ言って、家庭から出てこない女たちを、その背景も考えずにあっさり切ってしまうやすい。主婦とは本当に「三食昼寝つき」の気楽な稼業と信じてしまいいやすい。これこそ、「女は気楽でいいよなあ」とうそぶく男と同じことになってしまします。

でも私は女。仕事をやめる気は全くないけれど、結婚したり子供を産んだりすることがあれば、子育てや家事で、いろいろ壁にぶつかることもあるでしょう。そうしたことをつまえて、女が働きやすい条件にしておくこと——それはとりもなおさず男の労働条件も良くしていくことです——人間としての生活を支える家事と、そして母性（これを日常性といってもいいでしょう）を包みこめる形にすることだと思っています。

しかし独身だと、この日常性の重さがないだけに、現在の男と同じに働き肩をならべることも良いと思いかねません。けれども、そうして私ひとり出世したって、女の状況は少しも良くならないでしょう。

女として日常性を忘れないために——「わいふ」を読み続けたいと思っています。

戦争と子どもたち

神奈川県横浜市 里 憲子

「アツかわいそうなぞうがいる」野毛山動物園に連れて行って象を見た時の六歳の息子の言葉です。

私は「瞬ボカン」としてしまいました。それからやっと、息子の言っているのは、絵本「かわいそうなぞう」（金の星社）のことだと思い当たりました。「かわいそうなぞう」は死んでしまってもういないのよ」「ふーん、じゃああのぞうさんはかわいそうなぞうさんのおともだちだね」

戦争中、上野動物園で二頭の象が餓死させられたという話。何度読んであげたことでしょうか、読むたびに涙が溢れそうになります。息子の心の中にこの絵本の事がしっかりと刻み込まれていたのだと知ったとき、ヤッターという気持でした。

今年も八月六日が、九日が、十五日がやってきました。学生時代長崎で、その後広島での原爆資料館見学はうにいわれぬショックでした。この見学の前と後では私の戦争に対

する考え方はまるで違います。「百聞は一見に如かず」とはこのことです。

今夏は息子達のために絵本「ひろしまのピカ」（丸木俊作）を購入しました。まだ幼ないけれど、朝から〇〇マンのテレビマンガを見、超合金の合体セットでの遊びに夢中になっている息子達に、いつの日か必ず原爆資料館を見学させたいと思っています。

わいふ171号「ただの女の防衛論議」興味深く読ませて頂きました。昨今の政治の動きを見聞きするにつけ、不安な気持ちにかられておりましたが、不安の原因は何なのか、「右傾化の正体を洗う」では、からまった糸を解きほぐすように明確で説得力のある文章で「なるほどなるほど」と納得できました。それにしてもこれから育ちゆく息子達のために、私はいったい何をしなければならぬのか。単に戦争についていい聞かせるのみならず、日常生活の中で思いやりのある、人の心の痛みのわかる子供にすることも大切なのではないか、自分の子育てをふり返り、ちくりと胸の痛んだことでした。

福岡で始めた平和教育

福岡県福岡市 市川志緒美

「わいふ」を購読し始めて満二年、内容が主婦の地盤から抜け切れないようで、少々物足りなく思っていたのですが、一七〇号、一七一号は、かなり読み応えがありました。特に一七一号に掲載された「戦争特集」については、待望していただけに、「やっと出たか」という思いです。

新「わいふ」について、いろいろとご批判もあるようですが、女性として、人間としての広い視野に立って、語り合い成長し合う雑誌であることを望みます。特に、一般主婦には判りにくい、政治経済問題や、諸外国の生活ぶりなど、専門家、一般人を問わず掲載していただければ有難いと思っております。

ところで、先の「戦争特集」において、アンケート分析により「学校教育の空洞化」が指摘されておりましたが、ある程度うなずけるものでした。

ある程度といいますが、少くとも私の育った世代では、詰め込み教育のしわ寄せで、

太平洋戦争については、上すべりの教育しか受けてこなかったように思われるからです。しかし、今日、我が子の受けている教育は違います。

こ福岡市では、六月十九日の福岡大空襲の日を契機として、市内の大半の小中学校で平和教育が始まります。八月六日の広島原爆忌は、その頂点ともいえる日で、ほとんどの小中学校で夏休み中の出校日とし、平和教育が行なわれております。学年に応じた授業内容も、研究されているようです。

戦争を知らない親が、子に戦争の悲惨さを語り継ぐことは、非常に難しいことです。今、福岡では学校がその肩代わりをしつつあります。

これは福岡市のみの現象ではないと思いますが、全国的にこのような教育が広がっていくことを願っております。そして私達親も、子供に遅れをとらないよう、学び、考えていくべきではないでしょうか。



“核基地”で揺れる横須賀から

神奈川県横須賀市 細野 清美

今、原潜で日本中の注目を浴びている横須賀。私はこの横須賀で生まれ、育ち、結婚後三年間は横浜に住んでいたが、横須賀に土地と家を買って求めてきたもどってきた。夫の転勤もないので、多分、一生ここに住むことになるだろうと思う。

「横須賀」というと「基地の街」という印象が強いだろうと思うが、私は横須賀の中でも基地と隣り合わせのような所で育った。幼い時から白人、黒人の米兵達を見慣れていた。米兵達は飲んで遊んで、そしてよく喧嘩をした。キャバレーからの賑やかな音楽、そこで働く日本の女達の姿、そして彼女達の使う英語の何と……。

私は基地があることがイヤでたまらなかった。市内の一番良い所を広くとり、我々日本人はウサギ小屋に住んでいるのに、基地内に住む米兵の家族達は、広々とした庭付きの家と、他にいろいろな面で（電話、水道、ゴミ処理等）優遇されているのだ。

子供だった時、ある大人にきいた。「基地はなくなるの？」と。すると、その人は「ああ、ここは半永久的になくならないだろうな」と答えたのが悲しかった。

それでも、十年ぐらい前から変化が起つてきた。米兵の数がだんだんと減り、キャパレ―が次々となくなっていた。「日本人歓迎」という貼り紙をする店も増えていった。米兵達が選ぶ通称「ドブ板通り」は、今、若者向けのユニークな店々が並び、東京や横浜の方からも買い求めにくるという。米兵達も質素になったし、目立たなくなってきた。基地がだんだん縮小されたのだ、と思われた。

ところが、内容的にはそうではなかったのだ。五月十八日のライシャワー発言である。そして六月五日のミッドウェーの寄港。九月のエルズバーク博士の本市における対話集会など――あとは皆さんテレビニュース、新聞などでご存知のことだろう。

基地があることが日本にとって、どれだけ役に立っていることなのか。こんな危険をはらんだ基地とずっと同居しなくてはならないなんて、恐ろしいことだと思う。

これは何も横須賀だけの問題ではないし、基地のある街だけの問題ではない。

日本人の一人一人が「日本の生き方」をどう考えるかによって決まるのだ。このまま基地があることを容認し、核が持ち込まれるのを仕方ないとするならば、日本はどんどん危険な方向に傾いていくと思う。

日本政府は明らかに核持ち込みを容認しているし、その上、防衛費も75%も増やすことを決定した。

どうしたら私達がこの流れに歯止めがかけられるか。私達にできることは何か。それはまず、自分の「一票」を大切にすることではないだろうか、と提案したい。

首相だって一票、私だって同じ一票の重みなのだから……。

ちよつと気になる「発展日本」

インドネシア・ジャカルタにて

赤松 羊子(33歳)

わいふの皆様、お元気でいらっしやいますか。

私はこの八月、休暇でインドネシアのジャカルタから約一年ぶりに一時帰国しました。が、まず感じたことは、同じ人種の中に囲まれている、同化していることの安心感と、生

れ故郷の国があることの安らぎのようなものでした。

やはり、よそ者だし、暴動が起きるだろうとか、心の何割かは、不安のために鎧を着て暮らしてきたせいかもしれません。

丁度、日本では猛暑から涼しい日々になった頃で、一年中真夏のジャカルタよりもどつた身には快適でした。そしてお目当ての「夏物バーゲン」は、今を盛りとどこかしらでしているのですから、ふだん節約家の私もすっかりお財布の口が開きっぱなしとなり、お札と別れを惜しむ間もありませんでした。

だって聞いて下さい！ 子供の運動靴だってジャカルタではあまり売っていないので手に入りにくいし、たまに売っていても高いし品質が悪く、一回洗ったらどこかが破れ始めているという有様。それを日本では、スーパーで千円以下で山積みでしょう。そして、MADE IN JAPAN の品質の良さ！ こちらの国では子供の運動靴でさえ盗まれるのです。本当に日本は至れり尽せりで、何でも売っていますね。そして情報の多さといったら、大洪水の状態でしょう。

久しぶりに実家で夕食を食べましたが、案の定その部屋の主役は「テレビ」という電気箱

で、ニュースと称して女子学生が殺されてどこかの山で発見されたとか流していました。インドネシアでテレビのない（盗まれたのですが）生活に慣れた私にとっては、物を食べながら人の殺された話や現場のフィルムをながめている図がどれほどおぞましいことか、あらためて衝撃を受けたことでした。

たった一年留守しただけでも「日本ではバスに冷房が入っていたわよ／＼」などと驚くくらい変貌していく日本ですが、まだ発展途上というインドネシアもすでに日本と同じ方向に歩きだしているようで、とても気になります。

「からだノート」の福音

大阪府大阪市 堀田 泰子（29歳）

最近、中山千夏さんの「からだノート」（ダイヤモンド社、九百八十円）を読みました。四年前に出た本ですから、お読みになった方も多いでしょう。

私はなんだか夫が恐くなくなったのです。おおらかな気持で、生物である人間の性をみられるようになりました。

結婚して七年にもなりますのに、夫の求めに素直に応じきれないところがありました。歯はみがかかない、風呂はカラスの行水のせいもあります、それだけではない問題がありそう、自分のあり方や、夫との関係を一人でウジウジ悩んでいました。

でも、女のからだと性について、「話しちゃおう」「識っちゃおう」「考えちゃおう」とおっしゃる千夏さんに接して、人類のもう一方のかたわれの夫（男）の理解も深まりました。いとしさが増して、今では彼をチョッピリ許せます。

きょうも子どもと自然の中へ

大阪府高槻市 大谷伊津枝（29歳）

東京湾の埋立地から、ここ高槻へ越して早いものでもう四カ月になります。山を切り開いた住宅地なので、家のすぐ近くには田畑があり、山があり、川が流れています。そして庭の木々には、小鳥たちが実をついばみにやっています。東京には緑がないと嘆いていた私は、もう嬉しくてたまらず、お天気のいい日はおにぎりを持って出かけます。子供たち

も、川でメダカを取ったり、稲刈りの機械に見とれたり、芋掘りや柿もぎの様子を見たり新しい体験に目を輝かせています。

主人が不在がちの我が家では、どこへ出かけるのも母子三人です。先日、ちょっと足をのばして京都まで行ってみましたが、歴史を感じるといふか、心からいいなと思いました。ただし人が多いのが難点ですが……。あと神戸や丹波へも行てみたいと思っています。

あちこちと出かける事でいい点は、母子三人極めて足が強くなった事、そして、主人に「仕事仕事って言うけど家族の事も少しは考えてよ」とくっつかからなくなった事でしようか。よくない点は、ペンを持つ手が重くなったという事でしようか。でも、寒くなれば、さすがの私も出かけるのが億劫になり、家の中にいるのではと思っているのですが。

子供が小さくて何もできないという前に、小さいからこそ今一緒に楽しむと考えるはどうでしょうか。山の中で歌ったり、草花や虫の図鑑とにらめっこしたり、歩いた地の歴史の本をひもといたりしています。社会への目が開かれないとイラつく前に、只今蓄電中と居直り、自己満足に過ぎないと言われよう

とも、樂觀主義の私は、かくて今日も出かけていくのです。

銭湯にて

茨城県筑波郡 原 三枝子(54歳)

共同浴場へいったときのことである。

孫を脱衣室にいる娘に渡してから、あがり湯を使っていると、後ろから、

「ここはわたしが使っているんですけど」

という声がかかってきた。内心なんという厚かましさと思ったが、その人の顔もみずに

「いますぐあがりますから」

と体に湯をかけていると、

「そこに洗面器をおいといたのがわからなかったですか」

と更けという。それから黙っていられなくなり、小学生の男の子を連れた四十前後のその女に、

「ここは共同風呂なんですから空いているとき誰が使おうと勝手なんでしょう」

というと、

「一言アイサツをして使ったらいいじゃないですか」

という。あがり湯の出口の真下に自分の桶をおいけばここは自分の指定席と心得ているらしい。

「共同風呂なんでしょう。あなたのおっしゃることは通用しませんよ」

とキッパリ言った。隣りにいた奥さんが、

「ここがすぐあきますよ」

とその女に教えてやったが、別な場所へ移っていきなおもブツブツ文句をいつているようだった。こちら腹の虫がおさまらず、帰りがけに

「お子さんをお待ちなんですから、公衆道徳からいってもそういう自分本位な考え方はなおされた方がいいわよ」

と叱りつけて出てきた。

娘がどうしたの？ときくのでテンマツを話す、あきれたという顔をして、

「相手にするもんぢやないわよ。放つとけばいいの」

という。佐藤愛子女史ぢやないけどここでもたわたしの正義感が活発になる。

「子どものない年寄りなら放つとくわよ。ああいいうわからず屋がいるからロクな子どもが育たない」

「言ったって感じない人間がいるんだから」

「……………」

「あの女もしかしたらヒステリックなときだったかもしれないねえ」

「そうよ」

そこへ、さっき隣りにすわっていた奥さんが寄ってきて、

「あの奥さんはちょっとおかしいですよね。」

このごろああいう人が多くなって番台さんも困っているそうですよ」

とささやく。困ったもんですねえと語りながらそこを立ち去っていった。

年に二、三回帰省したとき利用する温泉浴場だが、そのたび裸の人間がむきだしにするエゴを見せつけられて苦々しく思っていたが、今度のような可愛げのないエゴにはさすがに呆れ果てて言葉もない。

自分さえよければ他人のことなどどうなっても構わないという単純発想か。それとも、コップの中をグルグル生きている種族が、自分で編み出した、生存競争上のひとつの社会的ルールとでも思いこんでいる結果の姿なのか。見て見ぬふりをしている方が、こちらも無駄なエネルギーを消耗せず利口な場合だつてある。

でも間違っているのだ。アレは。戦中派の

一人として素通りできないではないか。パーセントでもよいから立ち止まって反省して欲しいなと願うのは、娘たち一般の白け世代からみれば、甘っちょろいといわれようと、やはり声に出さない限り、巷に下劣なエゴが巢喰うばかりとわたしは思っている。

この話をあとで亭主にしたら、教育が悪いせいだよと、そんな類いの話だったら、勤め先ちやゴロゴロしているといった顔付きをしていた。

なんとなく田舎に落着いたら、民生委員が町議にでも足が向いていくんぢやないかしらと自分の一本気な心情にオカシサがこみあげてきたものである。

公務員宿舎も住みにくい？

愛知県

M・H

一七二号は大層バラエティに富み、面白い記事が多くありました。中でも、「企業城下町……」は印象的でした。

私の夫は公務員ですから、別にこの記事のようなことはないといえますが、私どもが公務員宿舎に住んでいる点で、社宅と似たよう

なことがずい分あるのです。

私がパートタイムで働き始める前に、「お宅では何をなさっていますか？」という質問を近所のミセスから何度か受けて、答に窮したことがあります。誰々は何曜日どこそこへ何を習いに行っているという類の情報は、知人ぞ知る、なのです。

最近自宅を買って引越した方の一人が、ふんぎりをつけた理由の一つに、やはり、外出を誰かに見覚えられてわずらわしいことを挙げていました。ふとんが干してあるから、遠くではないと思っただとか、家に居るはずの日なのに電話に出なかったとか、幼児が悪気ではなくても「おばさん、どこいくの？」とたずねるとか、気になる人には、気になることです。私自身は年齢的にも少数派に属し、我関せずで毎日を送っておりますが、気の弱い人はこたえることもあると思われます。

他人様に対する関心のあらわし方って、どういう形ならいいのでしょうか。内政干渉でもなく、無関心でもないという形があると思いますが……。



「かぐや姫」のうた 教えて下さい

高知県高知市 松村 紀

四方さんから購読のおすすめを受けました時には、とても読んだり、書いたりする暇はない（専業主婦ですがソフトボールに熱中）と思って、お断りするつもりでしたのに、「わいふ」実物を送っていただいて、面白いのにひきこまれ、とうとう釣り上げられてしまいました。

私は昔から「女の味方」なのです。新聞の三面記事を読んだと、たいてい男の方が悪いと思ってしまう。滋賀銀行だって、三和銀行だって、ついつい女性の方に同情してしまうし。「わいふ」で亭主族の悪口をきくと胸がすつとします。と申しましたが、「わいふ」をこの一面からだけとらえているわけではございませんので、この方面の手綱をおしめにならないように。つまり一七一号の富沢さんの御意見に全面的に賛成なのでございます。

お願いがあります。

どなたか「かぐや姫」の歌をごぞんじでし

たら教えていただけませんか。子供のときラジオ放送で聞いたものです。

一番は、

竹取じいさん、竹の藪、びっかり光る竹切れば

かわいい赤ちゃん、生まれ出た

はれはれごらんよ、ばあさんや

ほんにふしぎなこともある、こともあるというのです。以下物語に沿って四番か五番位まであったと思います。たいへん郷愁をそえられる歌ですので、ぜひ最後まで知りたいのですが、知っている人にどうしてもめぐりあえません。（一人だけいたのですが、その人と一緒に一番をやったことで復元したのです）。

「踏まれ草」に感激

神奈川県横浜市 飯島 弘子(39歳)

私は別にウーマンリブでもなければ翔んでる女でもありません。ごくごく平凡な内向的な人間です。

先日「わいふ」で紹介されておりました踏まれ草(千田夏光)を買って読みました。

感激感激の連続で涙がとめどもなく流れ落ち、最後のほうなど涙で字が見えなくなりました。今までたくさんの女性の一生を書いた本を読んで参りましたがこんなに私を感激させた本はありません。

野中フミ子さんの今までの大変な苦勞を読み、この方の一生を考えてみれば、今までの私のいろいろな苦勞(苦勞とはもういえませんが)悲しみなど微々たるもので、恥しいかぎりです。これからは苦しいこと、悲しいことが起ったとき、野中さんのことを考え明るく一生をすごしたいと思いました。私の愛読書として一生大切にしていこうと思います。

私の中にひっかかっている言葉

神奈川県秦野市 桐島美恵子

いわれた時には、さほども感じられなかった言葉が、時間が経つにつれ、妙にひっかかってくることもある。

夫の仕事の関係で、若い人の仲人を頼まれた。そんな年でもないとは思ふものの、予定していた仲人夫婦に支障ができ、急遽ピンチヒッターを頼まれたとあっては、「自分たち

だって、いつ別れるかもしれないと思いがち、やっとやっとで暮しているのに、人の仲間などおこがましい」といった憎まれ口はひっこみ、「やっぱり着物にしくなくてはいけなかしら」なんてことになってしまった。その件を夫の母に話した途端、言われた言葉「あなた、いったい、どんな髪で出るつもり？」この際だから言わせてもらいますよといった強い調子で切り出されてしまった。ここしばらく、私の髪にパーマはかかっていない。おかっぱ頭である。どうも以前から、義母にはそれが気に入らなかつたらしい。私としては、前には好きでしていた、前髪を全部後にあげてしまうスタイルは、最近の自分の何とも可愛気のない心理状態からは自信が持てず、そうすると、もろにきつい表情が出てしまう。つい、ヘアースタイルだけでも可愛らしくと、前髪を下げているのである。そして、義母には悪いが、今のところそれが一番気に入っている。

「パーマっ気なしのおかっぱ頭では仲人ではないのかな」と思いつつ、昨日、美容院へ行ってきた。ちょっぴり反抗して、パーマは前髪のみにつけ、両側はそのままである。少しでも人と違うところがあつては、夫の

会社での仕事に影響するかもしれない。自分の意志や感覚がどうのこうのという問題じゃないのだ。そんなふうに言われた気がして「どんな髪で出るつもり？」という言葉が、ここ二、三日、私の中でいろいろに姿を変えながらも残っている。

こんなとき、皆はどうするのかしら。

インフレの波がわが田舎にも

高知県安芸郡 井手野百合子

販売店をやっていて最近おもうことは、注文した品物がすぐに届かなくなったことである。毎日のニュース、また新聞・雑誌などを見てもわかるように、何か世の中が少しずつ変ってきているということに気がつく。

いままでは他人のこともなにかと世話をしていたのが、そんな心の余裕はなくなってきたつづあり、日々^{にちごと}の自分の生活をかんがえるのがせいっぱいになってきた。

人々の話すことは、最近暗い話ばかりである。家族も少数のところはまだましである。これが食べざかりの子供が二、三人いる家庭では容易なことではない。戦時中のことを

おもえばまだまだ食べ物も豊富であるが——しかし、田舎では仕事も少なくなってきた。家の中に入る金も当然少なくなる。あげくのはてには日々の生活にも困り仕事をもとめて住みなれた土地をもはなれてゆく者さえできたようである。

私はおもっていた。必ずこのような時代がくることを……。

これからさき、どのような時代がこうともつねに困らないように一人一人心がけておかなければならない。そして、どんな仕事もできるように、またぜいたくはしない、どんな物でも食べる、このことをしっかりと頭にきざみこみ、生活をしていかなければならぬ。

貧富の差はますますはげしくなるこの頃ではないだらうか。

つくりたい「主婦パワー・ジャパン」

東京都練馬区 M・S

昨日は「主婦のための再就職セミナー」に参加させていただき、ありがとうございます。樋口恵子さんははじめ、多方面の方々から

の有意義なお話をうかがい、あらためてどのようにか考えをまとめていかねばと、思いをめぐらしているところでございます。

二十六歳で結婚しましたが、あいにく、子宝に恵まれず、いろいろつらい思いもいたしました。が、七年目にしてやっとの思いで出産し、二年後、第二児も誕生と、平均女性の十年遅れで主婦らしい生活を得、今日まで来ました。

その間六年間の転勤生活、一昨年東京へ帰って来て、やっと東京の生活にも慣れ、子供達にも手がかからなくなったこの頃です。

「ふっ——」と大きな溜め息と共に、居ても立ってもいられないようなあせり。何んとも言えない瞬間を経験することが多くなりました。

これではいけない、何か自分の仕事を持つことだ、そうだ、そうなんだ//……。でもしかし、四十歳を過ぎた主婦にできる仕事はなにか?——新聞の求人欄に目を通す毎日。昔のキャリアを生かした仕事を——と思う反面、その仕事すら十年余りのブランクに自信をなくしている自分に気づき、愕然としているのです。だからといって、再教育をうける気力もなく……。

こんな思いで居ります時に、今回の「セミナー」を知ったのでした。昨日の樋口先生の「如何に欲しているか。……したいか」にはじまるというお話はまず大きなアップパーカットでした。私の心中をのぞかれた思いがしたのです。深夜、しまい込んである、昔勉強した本をこそそこそとさがし出しました。自分なりに自分を再教育しよう。

この様な思い、私だけでしょうか。だれかに訴えたくペンを取りました。協賛の「マンパワージャパン」ではありませんが、主婦たちだけの「ウーマンパワー・ジャパン」人材供給会社はつくり得ないものでしょうか。

老いについて

グループわいふ“津”

島崎 春江

老いることは、生命あるものにとって自然の摂理である。この事実是谁もが身をもって実感されることで、逃れようがないんだと認めていながら、では対策展望はとなると、無いという矛盾が出てくる。

核家族化を望み、現にそのような生活を送っているながら、いざ自分が寝たきりや痴呆に

なった時の支えを、やっぱり肉親家族に求めたいと願う。ここにも大きな矛盾が生じてくる。

しかし、健康で働き手として活動期にあるものにとつては、このような矛盾はそう気になることではないのかもしれない。

健康で老いて、ある日ポツクリ死にたいと願望ではない、自分だけはそのような人生の結末でありたいと半ば確信に近い気持ちとして持っている。それ故の老いることは死であるという短絡さは理解できる。

問題は脳動脈性の後遺症による片マヒの寝たきり、あるいは老人性痴呆現象を伴った老後である。

言葉が過ぎたらお許しねがいたい。こうなつてはなかなか死ねない。むしろ頑固に長生きする。自ら命を断つ余力もない。断食の知恵も浮ばない。体面も何もない本質的直接的傾向が強く出て赤裸である。

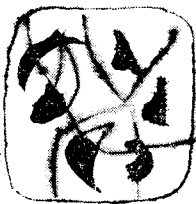
心身の機能がうまく作動しない状態で、増幅された欲望だけを満たすための異常な言動が日常のすべてとなる。生きる本能がむき出しの戦いである。

この事は、どんなに言語をつくしても健康者の想像の範囲をはるかに超えた次元の出来

事に思えて、なかなか理解しにくいだろうが、生ある者すべて背中合せに持っている。運よく難をまぬかれることができたか、そうでないかの小差にすぎない。

こうした状況にたち至った時、どうすればよいか。こわいから悲しいから目をそむけて逃げようでは事は済まない。公的制度や施設依存で解決が得られるとも限らない。

老いることはきれいごとや理想ではない。形や美化された色調では飾れない。同様に、言葉のレベルを振りかざしても醜悪さや惨酷さは蔽存する。この事実を自分も他も同じに背負い運命の糸をたぐりつつ行きつく場所を求める人の姿を肯定し受容する。もし美しく老いることが可能だとすれば、こういうことではないのかの感慨を深くした。



投稿規定

定期購読者はどなたでも投稿できます。
(定期購読は直接編集部へお申し込みください)

対話のページ・エコー(千二百字まで)
わいふ誌上の投稿、記事についての感想
反論、批判など。

私の視点(千二百字まで)
問題提起、何でも自由に。なるべく体験
的実感のあるものを歓迎します。

子育て会議(千二百字まで)

——乳・幼児期から思春期まで——
子どもを大きくするまでの体験、苦しみ、
悩み、楽しみなどを寄せて下さい。
らうんど・てーぶる(八百字まで)
おたよりその他、気楽なおしゃべりのペ
ージです。編集部へのおたよりをそのま
まのせさせていただくこともありますの
で、掲載をご希望でないものは「私信」

と必ず明記してください。

情報コーナー(二百字まで)

あげます、貸します、こんなこと一緒に
しませんかなど、何でもお知らせ欄。扱
っていらつしやる商品やおしごとなどは
「私のPR」として一括します。

以上は紙面の許すかぎりすべて掲載。

締切日は偶数月の十五日です。

*

特ちこみ原稿(長さ自由)

評論、ルポ、ずいひつ、詩、小説。

ぜひ力作をお寄せください。

コミック・ライブラリー

身近かでおきたケツサクな話をお寄せく
ださい。編集部でくわしくお話をうかが
ってからシナリオを作りますので、コマ
漫画の構成になさる必要はありません。

わいふ・フォト・ギャラリー

楽しい場面、面白い事件、美しい風景、
地元の名所旧跡やお祭り、どんなテーマ
でもけっこうです。読者のみなさんに喜

ばれる名(迷?)作品をどうぞ。

以上は選択の上掲載します。締切なし。

テーマ原稿(四百字詰二十枚〜三十枚)
規定は投稿募集欄でお知らせします。

*

●紙上匿名は自由ですが、原稿には必ず
住所氏名を明記してください。

●投稿は必ず原稿用紙に書いて下さい。
書き出しは一字あけ、句読点は一マス
分を取って、その下は一マスあけず
すぐに次の字を書いてください。

●紙面の都合上原稿は削らせていただく
ことがあります。あしからずご了承ください。

●サークルだよりをお寄せになるかたは
なるべく六百字までの原稿にしてお送り
ください。サークルのパンフをそのまま
お寄せ下さると、どの部分をおのせして
よいか迷いますので、よろしく願ひし
ます。

次号投稿募集

●八二年度から、テーマ原稿は読者の投稿に大幅に頁を割く方針となりました。どうぞふるって力作をお寄せください。

●一七五号のテーマ

「子供たちの心がこわれていく」

家庭内暴力、学校暴力、登校拒否、自殺……ショッキングな記事が毎日の新聞紙上に目立ちます。あなたのお子さんと「関係ない」でしょうか？

中学の先生がたにききますと、子供たちの感情がこわれてしまっており、人に対する思いやりはおろか、自分がこうしたら相手はどう思うかという想像力がまったく欠如している。よい子を暴力でいじめてケガさせても、「おもしろいから」とけろりとしていたり、シカト（無視すること）などという陰湿ないじめ方が流行したり、正義を主張する子はまったくといっていいほどなくなっていました。「正義」

なんてタテマエにすら登場しない。シラケてシラケて、今やシラケ以下の状態、一時は「大人が真剣に叱ることが必要」といわれたが、ちかごろは金八先生よろしく叱っても、コタエもせず反発もせずジロリと見て嘲笑するといふありさまだそうです。

いわばエゴイズムの極点、絶望のいきどまり的な感じですが、あなたのお子さんはこのような社会的風潮の圏外にあり得るでしょうか。原因は学校にも家庭にも、社会にもあると思われるですが、あなたがこうした子供たちの心の破壊のために、悩んだり怒ったりした経験をお寄せください。わが子にかわったことでも、周囲の問題でもけっこうですが、実感のこもった力作を期待します。

四百字詰二十枚～三十枚

締切一月二十日

テーマ原稿のみ、採用のぶんには薄謝をさし上げます。

編集だより

●今年お送りする最後の「わいふ」ができました。ほんとうに一年とは何と短いことでしょう。全力疾走してきたかんじなのですが、やりたいことの十分の一もできなかった気がします。次年度に向けて皆さまのお声を取入れ、投稿規定を大幅に変えました。どうぞ多数のご投稿をお寄せください。

●女・その原点に登場のヨネヤママコさんは、十二月二十一日から二十五日まで、紀伊国屋ホールで五日間のマイムの夕べの公演準備にお忙しい最中でした。公演についてお知らせになりたい方は編集部までお電話をどうぞ。

●わいふ「津」サークルで、老人問題のアンケートを行ないました。紙面の都合で掲載できないのが残念ですが、ご希望の方にはコピーを実費でお送りしますので編集部まで声をかけて下さい。

●一七二号のアンケート「夫族のホンネここにあり」、最後に筆者の名が落ちていました。まともは、柏サークルの四方愛子さんでした。

●情報コーナーに、いろいろのご連絡があるのですが、会員自身の扱っていらっしゃる商

品あるいはおしごとのニュースは、「私のPR」としてまとめることになりました。女が自立して行くために、ご自分のしごとをPRすることは大賛成なのですが、それだけに内容については読者の納得の行くものを期待しています。

●ますます好評のコミックライブラリー。今までのマンガはどれもみなまったくの実話なのです。ありのままの主婦を描いたマンガは皆無の日本、そのうち一冊のマンガ集にしたら、ベストセラーになるかも知れませんね。どうか、ふるってみなさまの身近なエピソードをお寄せ下さい。

●「一年分払いこんであるのにもう請求書がきました」というお問い合わせが続きました。前号から新しい試みとして、まだ一号分の残金がある時点で早目にお知らせすることにしたのです。会員数もふえた現在、誌代切れの時点で請求書をお送りすると事務処理がたいへんなことも大きな理由ですが、不足金が累積して出費が多くなつては申し訳れないと配慮したつもりなのです。振替用紙の裏に明細記入してありますので、ご覧の上、ご都合のよい時、お振込みいただければ助かります。

●一七一号、一七二号と呼びかけた「働きたい、育てたい」の投稿募集に、たくさんの方の反響がありました。どれも驚くほどの力作ぞろい、ほんとうにありがとうございます。出版社の選にもれたものでも「わいふ」の誌上でできるだけ発表していきたいと思つていま

す。

●どこへ行つても「働きたい。でも何をしたらいいのかわからない」あるいは「こどものことを考えると——」の声が、最近ほんとうにふえてきています。「わいふ」では、わたしたち主婦が、どんな形で働くことができるのか、それも、どんな形で自己実現につながるしごとができるのかという問題を、これからも息長く追って行くつもりです。

●わいふ・フォト・ギャラリーを新設しました。たのしい傑作を期待します。詳細は投稿規定をどうぞ。

●ではみなさまお元気で、よいお年をお迎えください。一九八二年に向けて、「わいふ」も新しい脱皮を企てていきます。乞ご期待。

■購読申込は……

ハガキか電話でどうぞ。
すぐ本に振替用紙をそえてお送りしますの
で、折返しご送金ください。バックナンバー
のご注文も同様に。二冊以上まとまりま
すと送料が半額以下になります。

わいふ

173号

1982年1月1日発行

印刷・浩文社印刷

定価 450円

(年間購読料送料共3600円)

発行所・(株)グループわいふ

編集・わいふ編集部

東京都新宿区加賀町2-4 ☎162

TEL (03) 260-4771

郵便振替 東京5-110430

銀行口座 三菱銀行神楽坂支店

普通預金 052-4348909

（隔月刊）

■購読中止は……

かならずお申出ください。送金をお忘れに
なる方が多いので、誌代が切れてもひき続
き送本しています。お申出がないと、お送
りしてしまうので、ぜひハガキか電話を。

樋口恵子

俵 萌子

吉武輝子

やさしく紡ぐ女の年輪

人生80年、結婚50年時代。いまこそ見直されるべき、夫婦のあり方を豊富な体験と実例で訴える。 一、二〇〇円

女が自分と向きあうとき

妻だけでない母だけでない、女の人生を索めて美しく生きる方向を模索するやさしい人間関係を説く。 九八〇円

四十代の幸福

女四十代の折り返し点で美しい年論を刻むために、豊かな成熟を追い求めた著者の幸福の設計図。 一、二〇〇円

もう一つの人生

子育てのあと、女には三十五歳からもう一つの人生がはじまる。女三十五歳からの生き方の転換法。 九八〇円

女の人生七転び八起き

女の人生八十年時代を、したたかにしなやかに生き抜くための知恵と方策を、やさしく解説した本。 九八〇円

たつた二度の女の人生

「女らしく」ではない、「女らしさ」を含めてもう一人のあなたを発掘する、待つ女から行動する女の本。 九八〇円

《女性の時代》をリードする海竜社のロングセラー書籍

しなやかに女の時間 木村治美

しなやかに、さり気なく、したたかに、妻、母、女の感性が織りあげた愛と才覚 ●1100円

女はそのまま美しい 秋山さと子

女が女として生きるとき、「自立」を超越した「自己実現」の道が開らける— ●1100円

愉しく生きる老い 大宅 昌

不安と悩み多き老いを価値ある熟年に変えて生きる——女の幸せを説く ●1100円

手縫いのこころ 森 南海子

現代人が見失った手仕事の重さを通して語る女が生きるということ—— ●1100円

女は三度老いを生きる 高原須美子

お手本のない高齢化社会に、女は、親、夫、自分の老後の三つに直面する ●980円

最寄りの書店でお求めになるか
又は、直接小社まで現金書留か
郵便振替でお申し込みください。

海竜社

東京都中央区築地2-9-2
電話03(542)9671
振替東京1-44886(千各250円)

Be a get-out.....

あなた自身への美しきチャレンジ

わいふ

一七三号

一九八二年一月一日(隔月刊)発行



稼ぐ「対等」って気持ち湧いてきます。

働いている妻の割合は、パートナーシップ型・友達夫婦型に多い。

そんな事実が、マンパワー・ジャパンが発刊した「働く女性の情報誌」『be able』の調査でわかりました。この調査では夫婦のあり方と「妻が働いている・いない」とを関連づけています。調査対象者は東京都内

に住む325人の夫たちです。これらの夫たちのうち自分たちの夫婦のあり方を亭主閥白型・夫唱婦随型・内助の功型と思っている夫たちは63.8%。パートナーシップ型・友だち夫婦型と思っている夫は36.2%でした。年代にも関係あるのですが、働いている妻の割合はパートナーシップ型・友だち夫婦型とが多く、亭主閥白型・内助の功型に専業主婦が多いのが特徴です。

「男は外で働き、女は家を守る」という古い価値観を強くもっているのも古いイメージの型。とくに亭主閥白型は主婦の家事労働を、他の型の夫たちにくらべて月給10万円以下と低くみる傾向にもあるのです。亭主閥白型夫の意識から自立するために、またパートナーシップ型・友だち夫婦型という多くの女性が望む夫婦のあり方を実現していくためにも、どうやら妻が働きに出ることが最良の道ようです。

●『be able』誌を、購読希望の方は下記にお申し込み下さい。

『be able』定価280円+送料200円

応援します

マンパワーは、自分自身のために働くこととする女性のために望ましい職場と環境、さらに働きやすい条件を整えていこうとする会社です。もし「あなたが働きたい職場で、働きたい時間だけ、しかも、あなたの能力にふさわしいペイメント(給料)を得たい」とお考えなら、マンパワーにご相談することをおすすめします。現在、マンパワーでは、5,500人以上もの女性がスタッフ参加。およそ4,400社ほどの優良企業で働いていますが、これらの女性のうちほとんどの方に、ご満足いただいております。

●マンパワーの窓口は全国3ヶ所。ご希望のところへお気軽に電話してください。経験豊富なサービスレプレゼンタティブがご相談に応じております。

- 東京 銀座 ☎562-4271 ●横浜 ☎314-1222
- 東京 新宿 ☎342-5555 ●大阪 ☎222-6300
- 名古屋 ☎261-6661 ●神戸 ☎321-5951
- 広島 ☎23-1100 ●福岡 ☎741-9531
- 札幌 ☎222-4881

夫婦の関わりと妻の就業の割合



妻が働いている ● 妻が働いていない

あなたの経験と時間を生かします。

世界最大の事務業務請負サービス
マンパワー

マンパワー・ジャパン株式会社 本社 東京都港区赤坂(丁目)1-45第3興和ビル



定価四百五十円